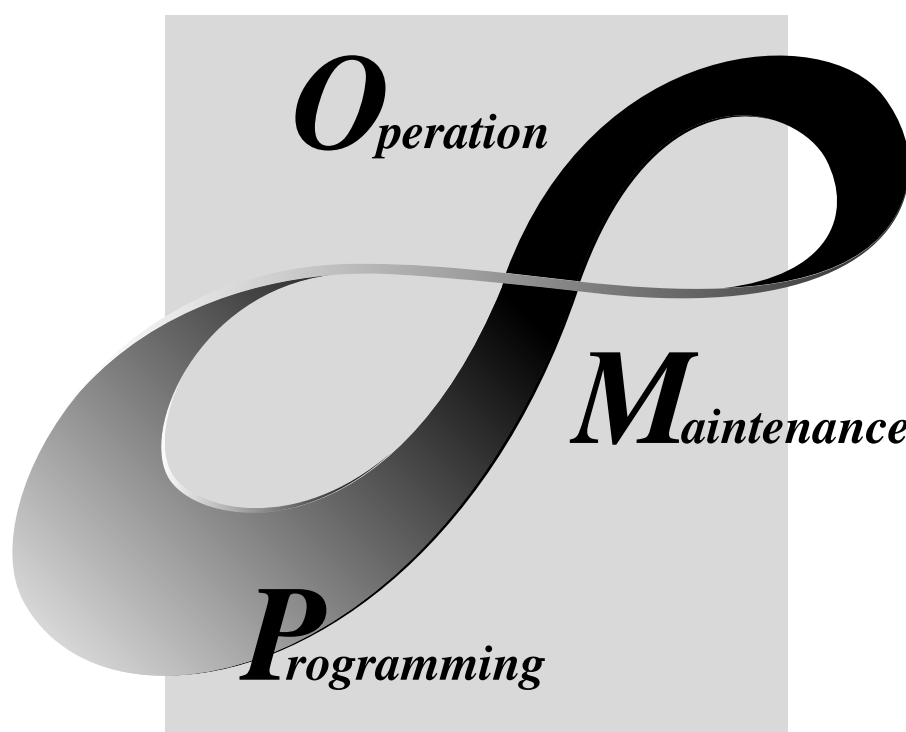


GX Configurator-DP Version 7

オペレーティングマニュアル

mitsubishi



統合FAソフトウェア
MELSOFT

SW7D5C-PROFID-E

● 安全上のご注意 ●

(ご使用前に必ずお読みください)

本製品のご使用に際しては、本マニュアルおよび本マニュアルで紹介している関連マニュアルをよくお読みいただくと共に、安全に対して十分に注意を払って、正しい取扱いをしていただくようお願いいたします。

本マニュアルで示す注意事項は、本製品に関するもののみにについて記載したものです。シーケンサシステムとしての安全上のご注意に関しては、使用するCPUユニットのユーザズマニュアルを参照してください。

この●安全上のご注意●では、安全注意事項のランクを「危険」、「注意」として区分してあります。



危険

取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。



注意

取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合および物的損害だけの発生が想定される場合。

なお、 注意に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。

いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

本マニュアルは必要なときに読めるよう大切に保管すると共に、必ず最終ユーザまでお届けいただくようお願いいたします。

改 定 履 歴

※取扱説明書番号は、本説明書の裏表紙の左下に記載してあります。

印刷日付	※取扱説明書番号	改 定 内 容
2005年 8月	SH(名)-080580-A	初版印刷
2006年 3月	SH(名)-080580-B	<p>全面見直し</p> <p>追加 1. 2節, 4. 1. 8項, 6. 2節</p> <p>削除 6. 3. 5項, 6. 3. 10項, 6. 3. 11項, 6. 4. 1項</p> <p>項番号変更 4. 1. 8項→4. 1. 9項, 6. 2節→6. 3節, 6. 3節→6. 4節, 6. 4節→6. 5節, 6. 4. 2項→6. 5. 2項, 6. 4. 3項→6. 5. 1項</p>
2006年 8月	SH(名)-080580-C	<p>修正 5. 1節, 5. 2節, 6章～10章</p> <p>追加 3章, 4章, 5. 3節, 8章</p> <p>削除 3. 5節, 5. 2節, 6. 3. 5項, 6. 3. 10項, 6. 3. 11項, 6. 4. 1項</p> <p>項番号変更 1. 1節～1. 2節→1章, 2. 1節→2章, 2. 2節～2. 4節→2. 1節～2. 3節, 3. 1節～3. 2節→5章, 3. 3節～3. 4節→5. 1節～5. 2節, 3. 6節～3. 9節→5. 4節～5. 7節, 4. 1節→6章, 4. 2節→7章, 5. 1節→9章, 6. 1節～6. 4節→10章, 6. 5節→11章</p>

本書によって、工業所有権その他の権利の実施に対する保証、または実施権を許諾するものではありません。また本書の掲載内容の使用により起因する工業所有権上の諸問題については、当社は一切その責任を負うことができません。

は じ め に

このたびは、三菱統合FAソフトウェアMELSOFTシリーズをお買い上げいただきまことにありがとうございます。

ご使用前に本書をよくお読みいただき、MELSOFTシリーズの機能・性能を十分ご理解のうえ、正しくご使用くださるようお願い致します。

目 次

安全上のご注意	A- 1
改定履歴	A- 2
はじめに	A- 3
マニュアルについて	A- 5
本マニュアルで使用する総称・略称	A- 6
用語の意味と内容	A- 7
製品構成	A- 7

第1章 概 要	1- 1～1- 2
---------	-----------

第2章 インストール	2- 1～2-18
------------	-----------

2.1 システム要求条件	2- 3
2.2 プロジェクトファイルの互換性	2-14
2.3 ソフトウェアのインストール	2-15

第3章 システムの説明	3- 1～3- 3
-------------	-----------

第4章 運転までの手順と設定	4- 1～4- 6
----------------	-----------

第5章 メニュー	5- 1～5-48
----------	-----------

5.1 Fileメニュー	5- 3
5.2 Setupメニュー	5-17
5.3 Onlineメニュー	5-32
5.4 Toolsメニュー	5-42
5.5 Viewメニュー	5-43
5.6 Windowメニュー	5-46
5.7 Helpメニュー	5-47

第6章 マスタユニットのパラメータ設定	6- 1～6-30
---------------------	-----------

第7章 スレーブユニットのパラメータ設定	7- 1～7- 6
----------------------	-----------

第 8 章 I/O Mapping	8- 1～8- 3
-------------------	-----------

第 9 章 接続先設定	9- 1～9- 8
-------------	-----------

第10章 Webベースオンラインアクセス機能	10- 1～10-26
------------------------	-------------

第11章 トラブルシューティング	11- 1～11- 4
------------------	-------------

索 引	索引- 1～索引- 2
-----	-------------

マニュアルについて

本製品に関連するマニュアルには、下記のものがあります。
必要に応じて本表を参考にしてご依頼ください。

関連マニュアル

マニュアル名称	マニュアル番号 (形名コード)	標準価格
PROFIBUS-DPマスタユニットユーザーズマニュアル (詳細編) QJ71PB92Vの概要、システム構成、仕様、機能、運転までの手順、プログラミングおよび専用命令について説明しています。 (別売)	SH-080571 (13JP81)	¥3,000
PROFIBUS-DPインタフェースユニットユーザーズマニュアル (詳細編) QJ71PB92Dの概要、システム構成、仕様、機能、運転までの手順、プログラミングおよび専用命令について説明しています。 (別売)	SH-080126 (13JT23)	¥3,000
PROFIBUS-DPスレーブユニットユーザーズマニュアル (詳細編) QJ71PB93Dの概要、システム構成、仕様、機能、運転までの手順、プログラミングおよび専用命令について説明しています。 (別売)	SH-080317 (13JT95)	¥3,000
AJ71PB92D, A1SJ71PB92D形PROFIBUS-DPインタフェースユニットユーザーズマニュアル AJ71PB92D, A1SJ71PB92Dの概要、システム構成、仕様、機能、運転までの手順、プログラミングおよび専用命令について説明します。 (別売)	SH-3330 (13JQ13)	¥600
GX Configurator-DPオペレーティングマニュアル (CommDTM編) MELSOFT PROFIBUS CommDTMの概要、インストール方法、使用方法などについて説明しています。 (別売)	SH-080581 (13JV86)	¥1,000
GX Configurator-ST Version1 オペレーティングマニュアル GX Configurator-STの操作方法、インテリジェント機能ユニットのパラメータ設定方法、MELSEC-STシステムのモニタ方法について説明しています。 (別売)	SH-080438 (13JV79)	¥3,000

備考：下記マニュアルはソフトウェアパッケージとセットでCD-ROMに入っています。

- ・GX Configurator-DP Version7 オペレーティングマニュアル
- ・GX Configurator-DP オペレーティングマニュアル (CommDTM編)
- ・GX Configurator-ST Version1 オペレーティングマニュアル

単品でマニュアルを希望する場合は、印刷物を別売で用意していますので上記表のマニュアル番号（形名コード）にてご用命願います。

本マニュアルで使用する総称・略称

本マニュアルでは、特に明記する場合を除き、下記に示す総称・略称を使って GX Configurator-DPについて説明します。

総称／略称	総称・略称の内容
GX Configurator-DP	製品形名SW7D5C-PROFID-Eの総称製品名。
QJ71PB92V	製品形名QJ71PB92V, PROFIBUS-DPマスタユニットの略称。
QJ71PB92D	製品形名QJ71PB92D, PROFIBUS-DPインタフェースユニットの略称。
QJ71PB93D	製品形名QJ71PB93D, PROFIBUS-DPスレーブユニットの略称。
AJ71PB92D	製品形名AJ71PB92D, PROFIBUS-DPインタフェースユニットの略称。
A1SJ71PB92D	製品形名A1SJ71PB92D, PROFIBUS-DPインタフェースユニットの略称。
FX _{3U} -64DP-M	製品形名FX _{3U} -64DP-M, PROFIBUS-DPインタフェースブロックの略称。
QJ71PB92□	QJ71PB92V, QJ71PB92Dの総称。
PROFIBUS-DP	PROFIBUS-DPネットワークの略称。
マスタユニット	QJ71PB92V, QJ71PB92D, AJ71PB92D, A1SJ71PB92D, FX _{3U} -64DP-Mの総称。
スレーブユニット	QJ71PB93Dの総称。
QCPU (Qモード)	Q00JCPU, Q00CPU, Q01CPU, Q02CPU, Q02HCPU, Q06HCPU, Q12HCPU, Q25HCPU, Q12PHCPU, Q25PH CPU, Q12PRHCPU, Q25PRHCPUの総称。
QCPU	QCPU (Qモード) の略称。
QCPU (Aモード)	Q02-ACPU, Q02H-ACPU, Q06H-ACPUの総称。
QnACPU	Q2ACPU, Q2AHCPU, Q2ASCPU, Q2ASHCPU, Q2A-S1CPU, Q2AH-S1CPU, Q2AS-S1CPU, Q2ASH-S1CPU, Q3ACPU, Q4ACPU, Q4ARCPUの総称。
AnNCPU	A1NCPU, A2CCPU, A2NCPU, A3NCPUの総称。
AnACPU	A2ACPU, A2A-S1CPU, A3ACPUの総称。
AnUCPU	A2UCPU, A2U-S1CPU, A3UCPU, A2ASCPU, A2AS-S1CPU, A2AS-S30CPU, A2AS-S60CPU, A2USCPU, A2US-S1CPU, A2US-S30CPU, A2US-S60CPU, A2USH-S1CPUの総称。
AnSCPU	A1SCPU, A1S-S1CPU, A2SCPU, A2S-S1CPUの総称。
AnSHCPU	A1SHCPU, A1SJHCPU, A2SHCPU, A2SH-S1CPUの総称。
ACPU	AnNCPU, AnACPU, AnUCPU, AnSCPU, AnSHCPUの総称。
FXCPU	FX _{3U} CPUの総称。
シーケンサCPU	QCPU, QnACPU, ACPU, FXCPUの総称。
Qシリーズ対応E71	QJ71E71-100, QJ71E71-B5, QJ71E71-B2, QJ71E71の総称。
QE71	AJ71QE71, AJ71QE71-B5, A1SJ71QE71-B2, A1SJ71QE71-B5, AJ71QE71N-T, A1SJ71QE71N-T, AJ71QE71N-B5, A1SJ71QE71N-B5, AJ71QE71N-B2, A1SJ71QE71N-B2, AJ71QE71N-B5T, A1SJ71QE71N-B5T, AJ71QE71N3-T, A1SJ71QE71N3-Tの総称。
E71	AJ71E71-S3, A1SJ71E71-B2-S3, A1SJ71E71-B5-S3, AJ71E71N-B2, AJ71E71N-B5T, A1SJ71E71N-B2, A1SJ71E71N-B5T, AJ71E71N-T, A1SJ71E71N-T, AJ71E71N-B5, A1SJ71E71N-B5, AJ71E71N3-T, A1SJ71E71N3-Tの総称。
Ethernetユニット	Qシリーズ対応E71, QE71, E71の総称。
MELSECNET/H	Q対応MELSECNET/Hの略称。
MELSECNET/10	AnU対応, QnA/Q4AR対応MELSECNET/10の略称。
GX Configurator-ST	製品形名SWnD5C-STPB-Eの製品形名。(n=1以降)
パソコン	IBM PC/AT [®] パソコンおよび互換機のDOS/V対応パソコンの略称。(PC98-NX [®] を含む。)

用語の意味と内容

本マニュアルで使用する用語の意味と内容について説明します。

用 語		用語の意味
マスタ局	クラス1	スレーブ局と入出力データを交信する機器です。(QJ71PB92V, QJ71PB92Dなど)
	クラス2	スレーブ局と交信し、局番設定、動作状態の確認を行う機器です。 ネットワーク管理用マスタ局として使用し、立上げ、保守および診断を行うことができます。
スレーブ局		クラス1マスタ局と入出力データを交信する機器です。(QJ71PB93D, ST1H-PBなど)
終端抵抗		PROFIBUS-DPの各セグメントの両端に接続する抵抗です。
GSD(DDB) ファイル		スレーブ局のパラメータが記載された電子ファイルです。 GX Configurator-DPでスレーブパラメータを設定する場合に使用します。
GSDデバイスデータベース		GSD(DDB) ファイルを登録して、ユニットの情報を一括管理するデータベースです。 GX Configurator-DPでユニットを設定する場合に使用します。
局 番		マスタ局およびスレーブ局に割り付けられる番号です。 0～125の範囲で設定します。
バスパラメータ		PROFIBUS-DPの通信設定を行うためのパラメータです。
マスタパラメータ		マスタユニットの設定（局番、伝送速度など）を行うためのパラメータです。
スレーブパラメータ		マスタ局で設定するスレーブ局のパラメータです。 設定項目については、GSDファイルに記述されています。
アイデントNo.		PROFIBUS-DPに接続する各ユニット固有の番号です。 各ユニットのGSD(DDB) ファイルに記述されています。

製品構成

GX Configurator-DPの製品構成を下記に示します。

用 語	品 名	個 数
SW7D5C-PROFID-E	GX Configurator-DP Version7 (CD-ROM ^{*1})	1
	ソフトウェア使用契約書 ^{*1}	1
	ソフトウェア登録証 ^{*1}	1
	ライセンス許諾書 ^{*1}	1

*1 各書類はGX Configurator-STと共用となります。

第1章 概 要

1

(1) はじめに

本マニュアルは、GX Configurator-DPの仕様、機能、操作方法について説明したものです。

GX Configurator-DPは、PROFIBUS-DPの構成を設定し、バスパラメータやスレーブパラメータなどを設定して、マスタ局に書込むために使用します。

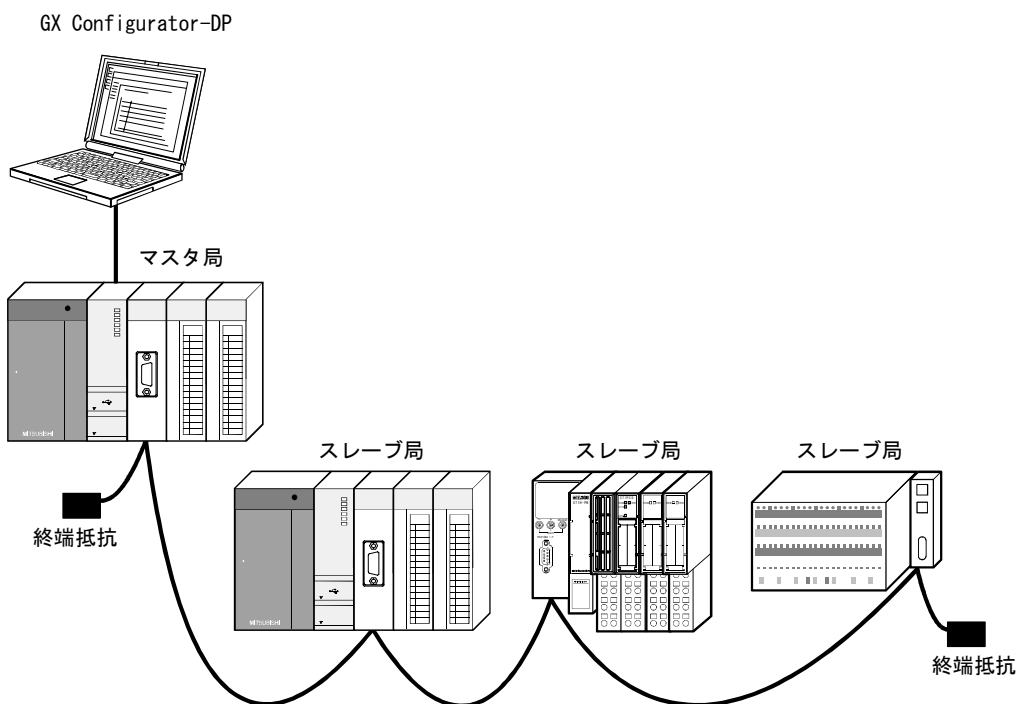


図1-1 GX Configurator-DPの使用例

(2) 問題発生時の対処方法

GX Configurator-DPの使用方法や動作結果などで問題が発生した場合は、下記のように処置してください。

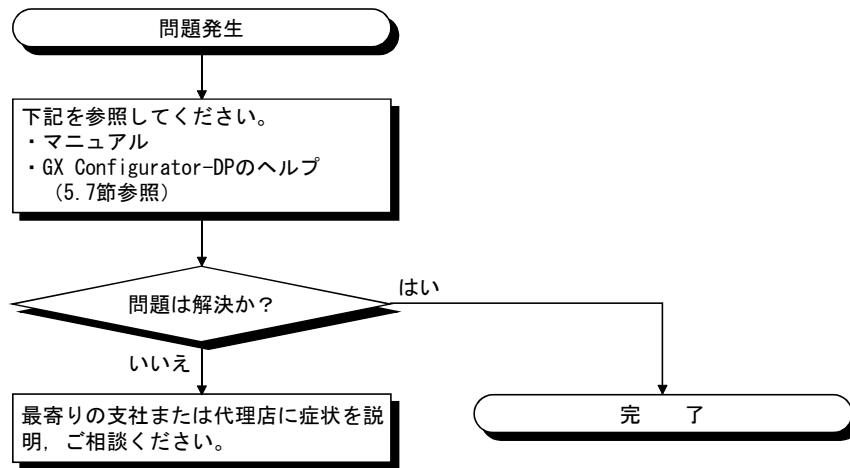


図1-2 問題の処置方法

第2章 インストール

(1) インストールの前に

(a) 著作権

2

重 要
<p>このソフトウェアは著作権で保護されています。</p> <p>この販売されたディスクパッケージを操作されることにより自動的にこのライセンス契約の条件に承諾されたことになります。</p> <p>オリジナル・ディスクのコピーは、ユーザ自身のバックアップおよび保管用として1枚だけ複写することが許されています。</p>

(b) ソフトウェアの用途

GX Configurator-DPは、下記ユニットの設定を行うソフトウェアです。

表2-1 GX Configurator-DPの対応ユニット

ユニット分類	ユニット形名
マスタユニット	QJ71PB92V, QJ71PB92D, AJ71PB92D* ¹ , A1SJ71PB92D* ¹ , FX _{3U} -64DP-M
スレーブユニット	QJ71PB93D

*1 A(1S)J71PB92Dには、下記制約事項があります。

表2-2 A(1S)J71PB92Dの制約事項

ユニット形名	ソフトウェアバージョン	制約事項
AJ71PB92D	A	GX Configurator-DP Version 7は、CPUユニット経由でA(1S)J71PB92Dと接続できません。 この場合は、最寄りの支社または代理店に症状を説明、ご相談ください。
A1SJ71PB92D	E以前	

(c) 特長

GX Configurator-DPの特長を下記に示します。

① グラフィカルネットワークエディタ

グラフィカルネットワークエディタでは、PROFIBUS-DPを構成する各ユニットやケーブルを図で表示します。

このため、ネットワーク構成の編集やパラメータの設定操作を容易に行うことができます。

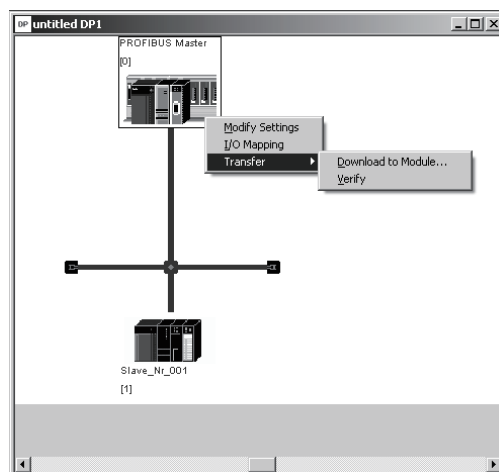


図2-1 グラフィカルネットワークエディタ

② 各パラメータのチェック

各パラメータをチェックすることで、各パラメータの間違いによる誤動作を減らすことができます。

③ 各パラメータのダウンロード／照合

各パラメータを、マスタユニットまたはスレーブユニットへダウンロードできます。

また、GX Configurator-DPで編集集中の各パラメータと、マスタユニットにダウンロードした各パラメータを照合できます。

④ プロジェクトファイルの流用

GSDデバイスデータベースの情報をプロジェクトファイル内に保存できます。

このため、プロジェクトファイルのみをコピーするだけで、他のパソコンで同じPROFIBUS-DPの設定ができます。

プロジェクトファイルと一緒に、GSD (DDB) ファイルをコピーする必要はありません。

⑤ パラメータの印刷

各パラメータの一覧を印刷できます。

2.1 システム要求条件

本節では、GX Configurator-DPをインストールして使用する場合に必要な、システムの条件を説明します。

(1) 動作環境

GX Configurator-DPの動作環境を下記に示します。

表2-3 動作環境

項 目	内 容
コンピュータ本体	下表の「使用する基本ソフトウェアとパソコン本体に必要な性能」を参照。
CPU	
必要メモリ	
ハードディスク空き容量	200Mバイト以上
ディスクドライブ	CD-ROMドライブ必須
ディスプレイ	サイズ：17型以上 解像度：1024×768ピクセル以上
通信用インタフェース	RS-232ポートまたはUSBポート
基本ソフトウェア (OS)	GX Configurator-DPを使用できるOSについては、本節(2)を参照。

表2-4 使用する基本ソフトウェアとパソコン本体に必要な性能

基本ソフトウェア	パソコン本体に必要な性能	
	CPU	必要メモリ
Microsoft® Windows® 98 Operating System	Pentium II® 350MHz以上	32MB以上
Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System	Pentium II® 350MHz以上	32MB以上
Microsoft® WindowsNT® Workstation Operating System Version4.0	Pentium II® 350MHz以上	64MB以上
Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System	Pentium II® 350MHz以上	64MB以上
Microsoft® Windows® XP Professional Operating System	Pentium II® 350MHz以上	128MB以上
Microsoft® Windows® XP Home Edition Operating System	Pentium II® 350MHz以上	128MB以上

(2) ソフトウェア要求条件

GX Configurator-DPを実行できる基本ソフトウェア (OS) を下記に示します。

(a) Microsoft® Windows® 98 Operating System (英語版)

- Microsoft® Internet Explorer 5.5以降のインストールが必要です。

(b) Windows® Me Millennium Edition Operating System (英語版)

- Microsoft® Internet Explorer 5.5以降のインストールが必要です。

(c) Microsoft® WindowsNT® Workstation Operating System Version4.0 (英語版)

- Service Pack 6以降のインストールが必要です。
- Microsoft® Internet Explorer 5.5以降のインストールが必要です。

(d) Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System (英語版)

- Service Pack 2以降のインストールが必要です。
- Microsoft® Internet Explorer 5.5以降のインストールが必要です。

(e) Microsoft® Windows® XP Professional Operating System (英語版)

(f) Microsoft® Windows® XP Home Edition Operating System (英語版)

ポイント
<ul style="list-style-type: none">• Windows® 2000またはWindows® XPのご使用を推奨します。• Windows® XPの新機能について Microsoft® Windows® XP Professional Operating System, Microsoft® Windows® XP Home Edition Operating Systemをご使用の場合は、下記に示す新機能が使用できません。 下記に示す新機能を使用した場合、本製品は正常に動作しない可能性があります。 Windows® 互換モードでのアプリケーション起動 ユーザ簡易切替え リモートデスクトップ 大きいフォント (画面プロパティの詳細設定)

(3) 接続ケーブル

(a) ACPU/QnACPU/FXCPUへの接続

パソコンとCPUユニットの接続設定は、GX Configurator-DPで行います。

(a-1) USBケーブルについて (FXCPU対応)

FXCPUと接続する場合のUSBケーブル、機能拡張ボード、変換ユニットを下記に示します。

① 変換ユニットを使用する場合

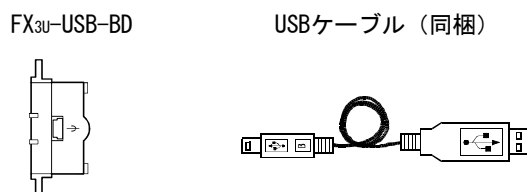
- ・システム構成



- ・Windows® 98, Windows® Me, Windows® 2000 Professional, Windows® XP ProfessionalおよびWindows® XP Home Editionを使用時、FX-USB-AWまたは、FX3U-USB-BDに同梱しているCD-ROMのドライバがインストールされている場合に使用できます。
- ・Windows NT® Workstation 4.0の場合は、使用できません。
- ・FX-USB-AW使用時の注意事項、制約事項については、FX-USB-AWに同梱しているマニュアルを参照してください。

② USB通信用機能拡張ボードを使用する場合

- ・システム構成



- ・Windows® 98, Windows® Me, Windows® 2000 Professional, Windows® XP ProfessionalおよびWindows® XP Home Editionを使用時、FX-USB-AWまたは、FX3U-USB-BDに同梱しているCD-ROMのドライバが、インストールされている場合に使用できます。
- ・Windows NT® Workstation 4.0の場合は、使用できません。
- ・FX3U-USB-BD使用時の注意事項、制約事項については、FX3U-USB-BDに同梱しているマニュアルを参照してください。

③ RS-422通信用機能拡張ボードを使用する場合


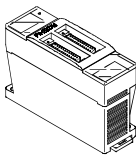







FX3U-422-BDを使用する場合は、下記の接続方法に加えてFX3U-422-BDを接続してください。

- ・USBケーブルと変換ユニットを使用した接続方法。(本項(a-1)①参照)
- ・RS-422ケーブル、RS-232ケーブル、変換器を使用した接続方法。(本項(a-2)①参照)

(a-2) RS-422 ケーブルと RS-232 ケーブルと変換器などについて
(ACPU/QnACPU/FXCPU対応)

ACPU, QnACPU, FXCPUと接続する場合のRS-422ケーブル, 変換器を下記に示します。

① 三菱電機製を使用する場合

パソコン側 (RS-232ケーブル)	RS-232/RS-422 変換器	シーケンサCPU側 (RS-422ケーブル)
 F2-232CAB (Dサブ25ピン↔Dサブ25ピン) (NEC PC-9800®, DOS/Vパソコンに使用する場合は、Dサブ9ピン↔Dサブ25ピンストレート変換ケーブルが必要です。)	 FX-232AW	ACPU, QnACPUの場合  FX-422CAB (0.3m) FX-422CAB-150 (1.5m)
 F2-232CAB-1 (Dサブ9ピン↔Dサブ25ピン)	 FX-232AWC	FX3U/CPUの場合  FX-422CAB0 (1.5m)
 F2-232CAB-2 (ハーフピッチ↔Dサブ25ピン)	 FX-232AWC-H (FXシリーズのみ)	
 AC30N2A (25ピン—25ピン) (NEC PC-9800®, DOS/Vパソコンに使用する場合は、Dサブ9ピン↔Dサブ25ピンストレート変換ケーブルが必要です。)		

- ・ F2-232CAB, F2-232CAB-1ケーブルのACPU, QnACPU対応製品見分け方
ケーブルに付いている形名ラベルの表示方法で確認してください。

未対応品	対応品 (F/FX/A) の記述あり)
F2-232CAB Y990C*****	F2-232CAB (F/FX/A) Y990C*****
F2-232CAB-1 Y990C*****	F2-232CAB-1 (F/FX/A) Y990C*****










- ・ FX3U/FX3UCにFX-232AWC-Hを用いて接続した場合は、伝送速度9.6kbps, 19.2kbps, 38.4kbps, 57.6kbps, 115.2kbpsをご使用できます。
FX-232AWC, FX-232AWで接続した場合は、伝送速度9.6kbps, 19.2kbpsどちらかを選択してください。
- ・ FXシリーズに接続する場合には、必ず上表に示す機器をご使用ください。
- ・ RS-422通信用機能拡張ボードを使用する場合は、本項(a-1)③を参照してください。

② ダイヤトレンド製を使用する場合(紹介品)

・ダイヤトレンド株式会社

〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場2-2-14

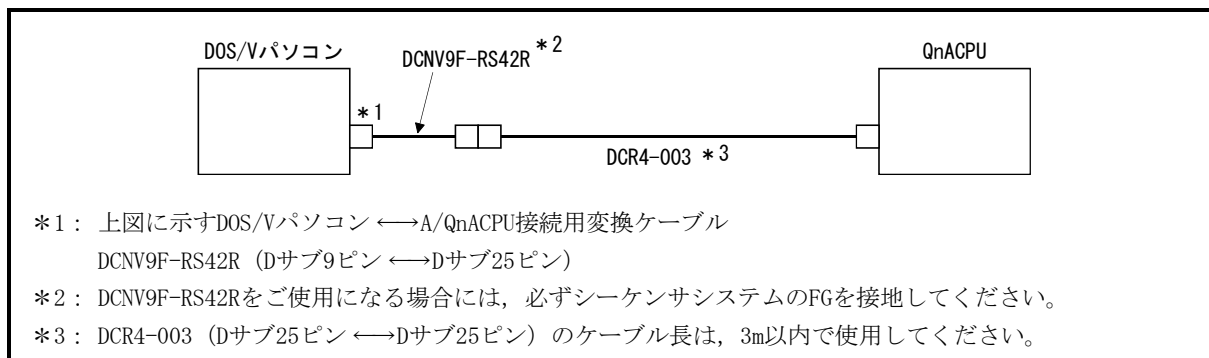
TEL (06) 4705-2100 FAX (06) 4705-2101

RS-232C/RS-422変換ケーブル	
 DAFX1H-CAB*1 (PC9800用 Dサブ25ピン↔Dサブ25ピン)	 ACPU QnACPU
 DAFX1H-CABV (DOS/V用 Dサブ9ピン↔Dサブ25ピン)	 ACPU QnACPU
 DAFX1H-CABL (PC9800用 ハーフピッチ↔Dサブ25ピン)	 ACPU QnACPU
 DCNV9F-RS42R (DOS/V用 Dサブ9ピン↔Dサブ25ピン)	 ACPU QnACPU DCR4-003 (RS-422ケーブル)
 DCNV25M-RS42R (PC9800用 Dサブ25ピン↔Dサブ25ピン)	

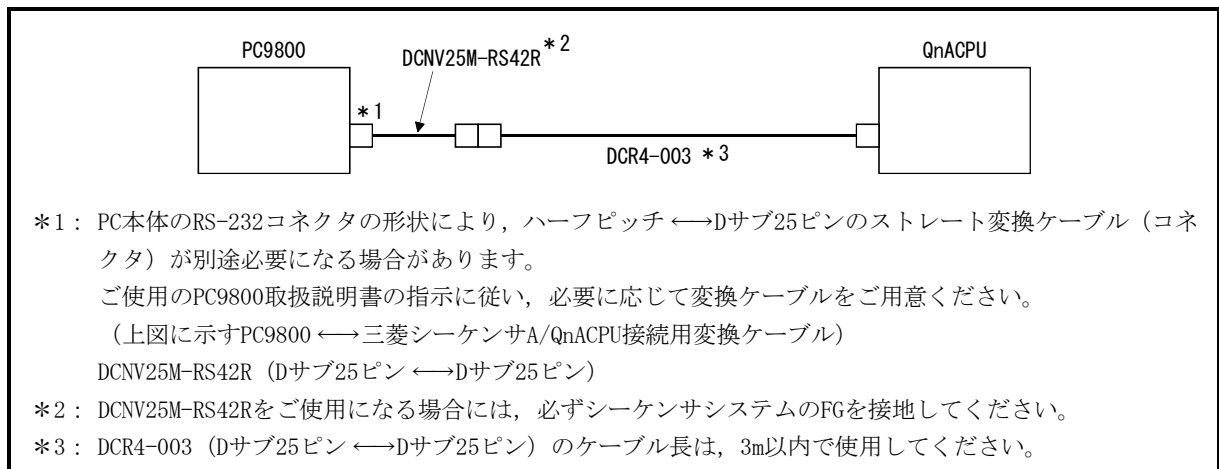
*1: DOS/Vパソコン, PC98-NX[®] シリーズ (Dサブ9pin) の場合に, DAFX1H-CABケーブルを使用するときは, D232V-CABが必要です。

また, PC-9800[®] シリーズノート (ハーフピッチ) の場合には, DAC01R2Lが必要です。

DCNV9F-RS42RによるDOS/Vパソコン ↔ QnACPU間の接続例



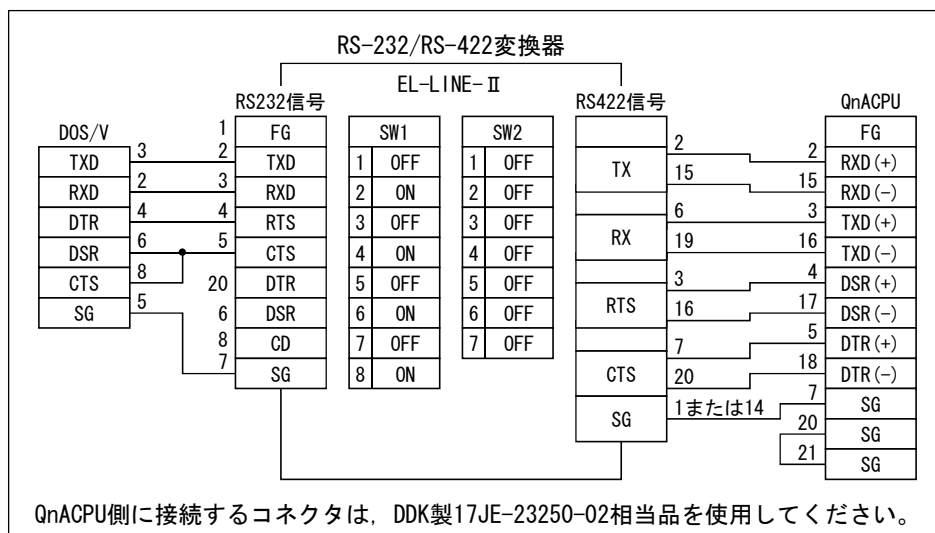
DCNV25M-RS42RによるPC9800 ↔ QnACPU間の接続例



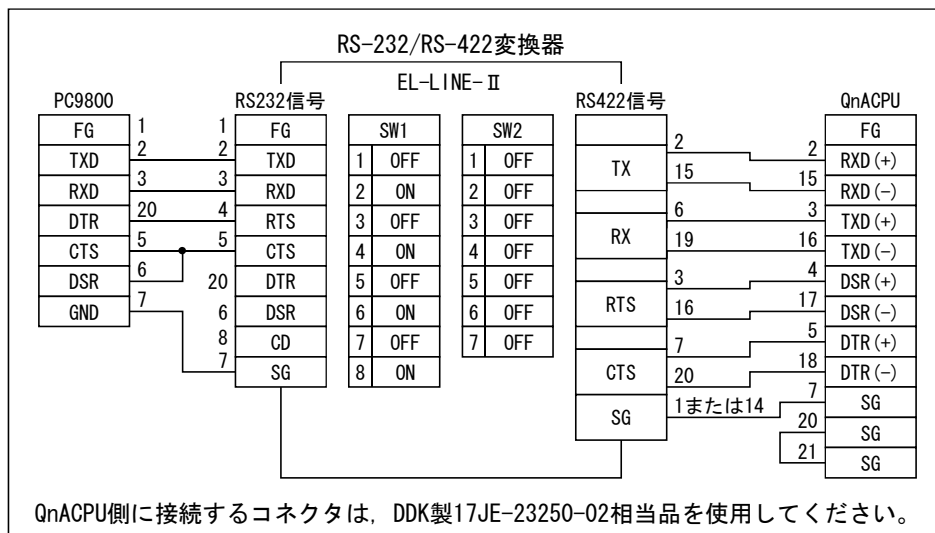
③ エル・エンジニアリング製を使用する場合

- ・ 有限会社エル・エンジニアリング
〒454-0805 愛知県名古屋市中川区船戸町7番16号
TEL (052) 361-2290 FAX (052) 363-1050
- ・ EL-LINE-II (ケーブルユーザ作成)

EL-LINE-II によるDOS/Vパソコン ↔ QnACPU間の接続例



EL-LINE-II によるPC9800 ↔ QnACPU間の接続例



④ KS-10P-HS, KS-1-HS (システムサコム製) を使用する場合

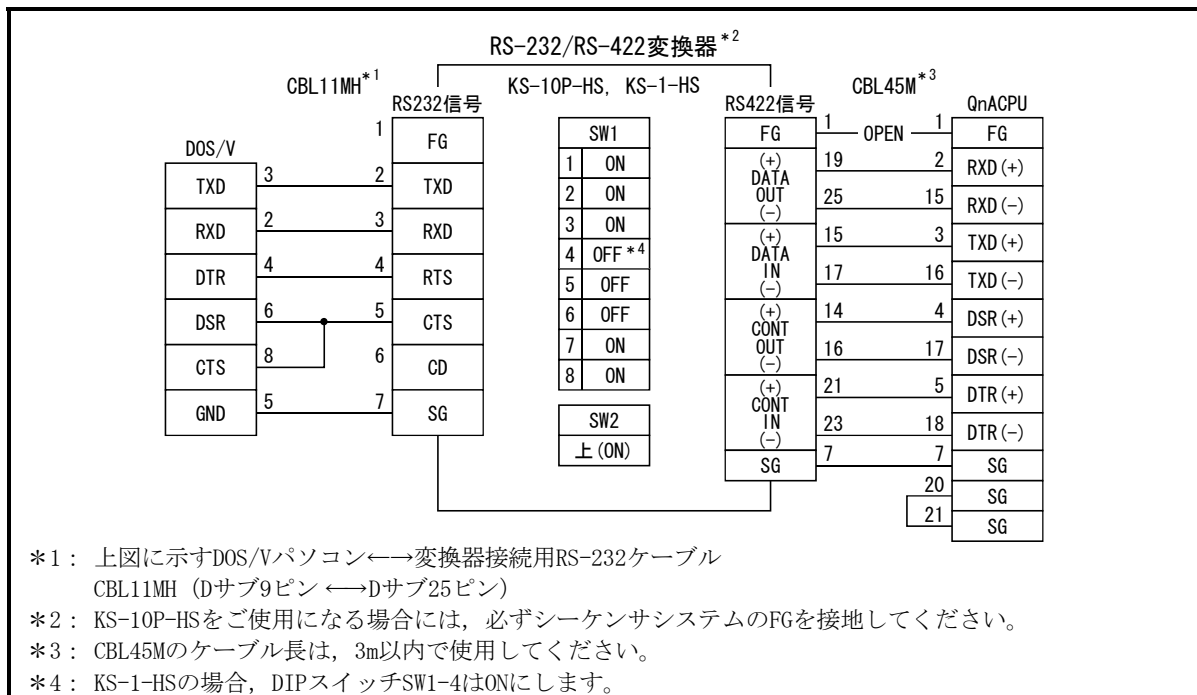
株式会社システムサコム販売

〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰1-6-6

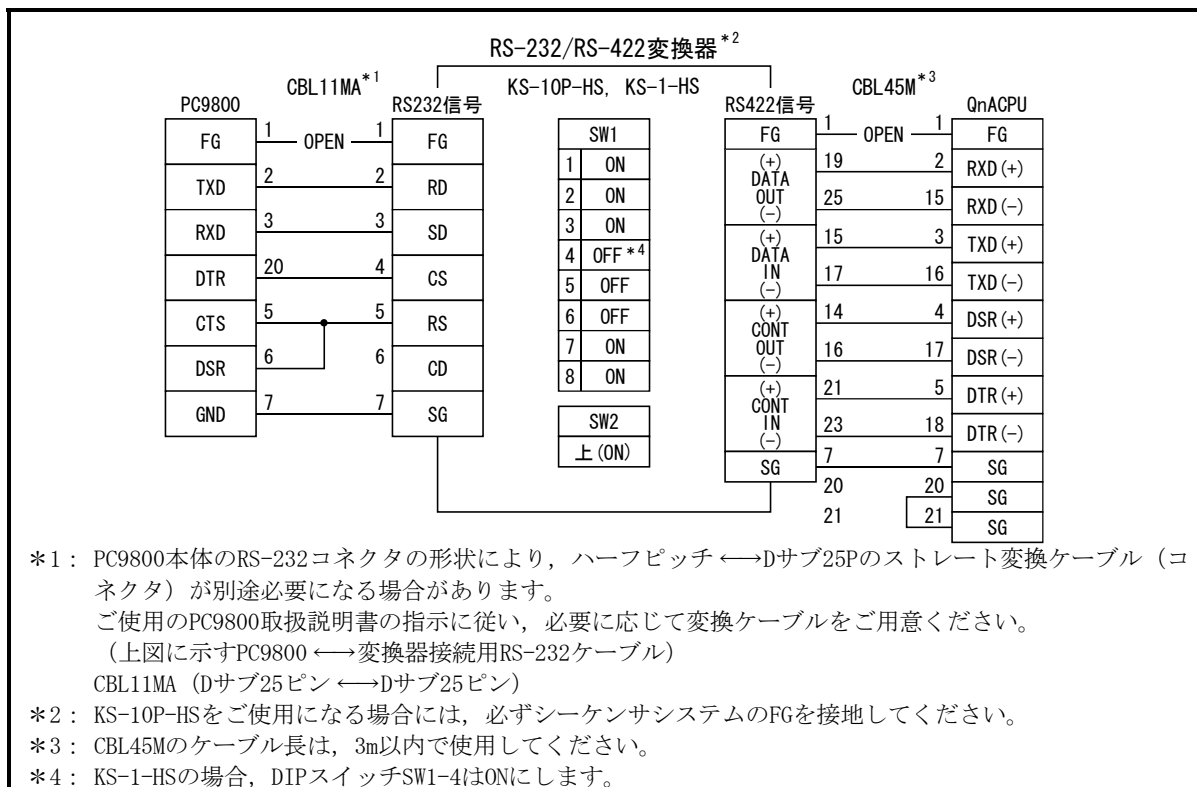
TEL (03) 5623-5933 FAX (03) 3660-0891

・ KS-10P-HS, KS-1-HS

KS-10P-HS, KS-1-HSによるDOS/Vパソコン ↔ QnACPU間の接続例



KS-10P-HS, KS-1-HSによるPC-9800シリーズ ↔ QnACPU間の接続例



(a-3) RS-232ケーブルと変換ユニットなどについて

パソコンのシリアルポートの形状	シリーズ	必要になる機能拡張ボードおよび特殊アダプタ	RS-232ケーブル
Dサブ9ピン	FX _{3U}	FX _{3U} -232-BD 機能拡張ボード (FX _{3U} -***-BD) + FX _{3U} -232ADP	FX-232CAB-1
ハーフピッチ14ピン	FX _{3U}	FX _{3U} -232-BD 機能拡張ボード (FX _{3U} -***-BD) + FX _{3U} -232ADP	FX-232CAB-2
Dサブ25ピン	FX _{3U}	FX _{3U} -232-BD 機能拡張ボード (FX _{3U} -***-BD) + FX _{3U} -232ADP	F2-232CAB-1

機能拡張ボード (FX_{3U}-***-BD) の***には、232, 485, 422, USB, CNVが入ります。

ポイント
<ul style="list-style-type: none"> RS-422インタフェース変換ケーブル・変換器は、仕様や注意事項などについて各製品のマニュアルをよくお読みいただき、正しい取り扱いをしていただきますようお願いいたします。 RS-422インタフェースからDC5V電源を受電する変換ケーブル・変換器を抜き差しする場合は、シーケンサCPUユニット側の電源をOFFしてから操作するようにしてください。 RS-422インタフェースからDC5V電源を受電しない（外部電源より受給する）周辺機器、および変換ケーブルを抜き差しする場合も、作業前には必ずアースバンドもしくは接地された金属などに触れて、ケーブルや人体などに帯電している静電気を放電し、その後に下記操作手順にてお取り扱い願います。 <ol style="list-style-type: none"> ① パソコン側の電源をOFFする。 ② 変換ケーブル・変換器の電源をOFFする。FG端子がある場合は接地する。 ③ パソコンとシーケンサ間の変換ケーブル・変換器を抜き差しする。 ④ 変換ケーブル・変換器の電源をONする。 ⑤ パソコンの電源をONする。 ⑥ ソフトウェアパッケージを立ち上げる。

(b) QCPUへの接続

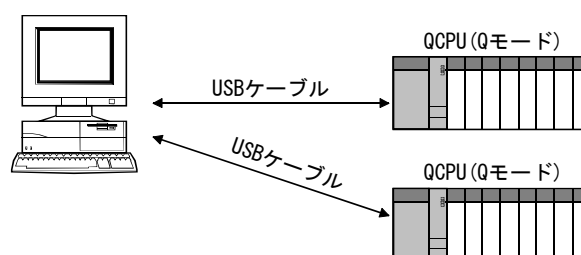
パソコンとCPUユニットの接続設定は、GX Configurator-DPで行います。

(b-1) USBケーブルについて (QCPU(Qモード) 対応)

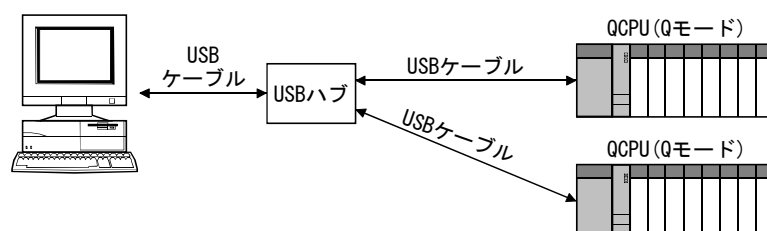
- Windows® 98, Windows® Me, Windows® 2000 Professional, Windows® XP ProfessionalおよびWindows® XP Home Editionを使用時、USBのドライバがインストールされている場合に使用できます。
- Windows® 95, Windows NT® Workstation 4.0の場合は、使用できません。
- USBケーブル使用時は、1台のシーケンサCPUのみ接続できます。
下記に利用できない構成を示します。

<利用できない構成>

- 複数USBポート搭載パソコンから、複数のQCPU(Qモード)への接続



- USBハブを介して複数のQCPU(Qモード)への接続



- 弊社で動作確認したUSBケーブルを下記に示します。

形 名	メーカ名
USB2-30	エレコム株式会社
AU2-30	株式会社アーベル

ポイント

- パソコンのレジューム機能・サスペンド設定・省電力機能・スタンバイモードを設定してシーケンサCPUと交信すると交信エラーが発生することがあります。
そのためシーケンサCPUと交信する場合は、本機能の設定を行わないでください。
- パソコンの機種、USBケーブルなどの組み合わせによっては、通信エラーが発生する場合があります。その場合は、メッセージを参考に再度操作してください。

- USB通信の処理時間

パソコン(NEC Mate NX MA35D Pentium® II (350) Win98)でプログラム容量26658ステップ(約26k)をPC書込した場合、12秒で書込み完了します。

(b-2) 変換器／ケーブルについて (QCPU(Qモード), QCPU(Aモード)対応)

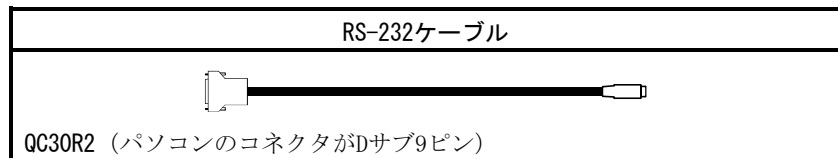
115.2/57.6kbpsで通信する場合

使用するパソコンが、115.2/57.6kbpsの通信速度に対応していないと高速通信できません。

通信エラーが発生した場合は、伝送速度の設定をさげて再度通信を行ってください。

弊社で動作確認したケーブル／変換器を下記に示します。

- ・三菱電機製を使用する場合



2.2 プロジェクトファイルの互換性

GX Configurator-DP Version7は、下表に示すソフトウェアで保存したプロジェクトファイルを開くことができます。

下表以外のソフトウェアで保存したプロジェクトファイルは、開くことができません。

表2-5 プロジェクトファイルの互換性

プロジェクトファイルの種類	保存したソフトウェア
*. dp2	MELSEC ProfiMap Version3 GX Configurator-DP Version4～7
*. dpx	GX Configurator-DP Version5～7

2.3 ソフトウェアのインストール

(1) GX Configurator-DPインストール時の注意事項

GX Configurator-DPのインストールに関する注意事項を下記に示します。

(a) インストールを行う前に、Windows® で動作している他のアプリケーションをすべて終了させてください。

(b) 下記OSにインストールする場合は、Administrator（コンピュータ管理者）の属性を持つユーザとしてログオンしてください。

- ・Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version4.0
- ・Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System
- ・Microsoft® Windows® XP Professional Operating System
- ・Microsoft® Windows® XP Home Edition Operating System

(c) Version6 以前のGX Configurator-DPがインストールされている場合の注意事項

(c-1) Version6 以前のGX Configurator-DPをアンインストールしても良い場合
Version6 以前のGX Configurator-DPをアンインストールしてから、
Version7 をインストールしてください。

(c-2) Version6 以前とVersion7の両方のGX Configurator-DPを使用する場合

- ・インストールについて

Version6 以前のGX Configurator-DPとは別のフォルダおよびプログラムフォルダに、Version7 をインストールしてください。

Version6 以前のGX Configurator-DPと同じフォルダまたはプログラムフォルダにインストールすると、両者とも正常に動作しなくなる場合があります。

この場合は、Version6以前とVersion7の両方のGX Configurator-DPを、アンインストールしてください。

- ・アンインストールについて

Version6 以前のGX Configurator-DPをアンインストールする場合は、Version7 のGX Configurator-DPもアンインストールしてください。

Version6 以前のGX Configurator-DPのみをアンインストールすると、Version7 のGX Configurator-DPが正常に動作しなくなる場合があります。

(2) GX Configurator-DP/GX Configurator-STのインストール

インストールは下記の手順で行ってください。

- ① Windows® を起動してください。
- ② CD-ROMをCD-ROMドライブに挿入してください。
- ③ スタートメニューから[Programs ^(*1)]→[Run]をクリックします。

*1 下記OS使用時は, [All Programs]と表示されます。

- Microsoft® Windows® XP Professional Operating System
- Microsoft® Windows® XP Home Edition Operating System

- ④ “d:\GXConfiguratorDP\setup.exe” と入力してください。
(“d:” についてはCD-ROMドライブのドライブ文字を入力してください。)
- ⑤ ソフトウェア使用契約画面が表示されますので, そこに書かれている条件をよくお読みください。

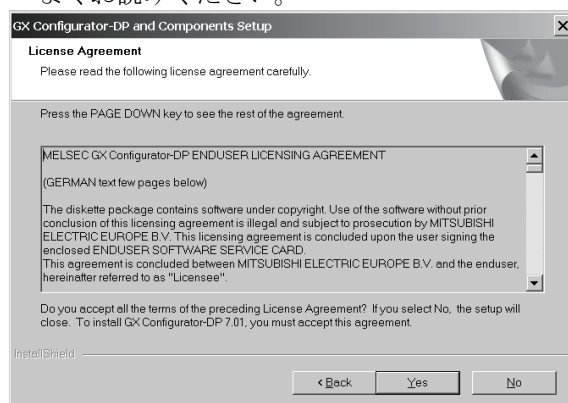


図2-2 ソフトウェア使用契約画面

- ⑥ インストールを続けたい場合には, “Yes” をクリックしてライセンス契約に同意します。インストールを中断する場合は “No” をクリックしてください。次にユーザ情報画面が表示されますので, 氏名 (User Name), 会社名 (Company Name) および製品のプロダクトID (Serial Number) ^(*2) を入力してください。

*2 プロダクトIDは, ライセンス許諾書を参照して入力してください。

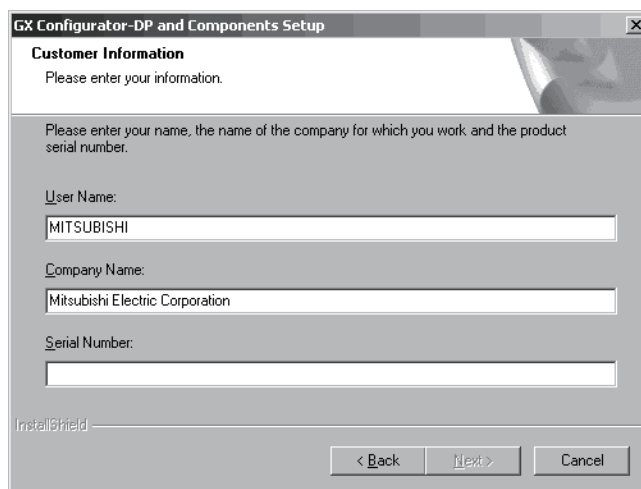


図2-3 ユーザ情報画面

- ⑦ “Next>” をクリックすると、確認のダイアログボックスが表示されますので、登録情報をチェックすることができます。
 “Yes” をクリックしてインストールを続けます。

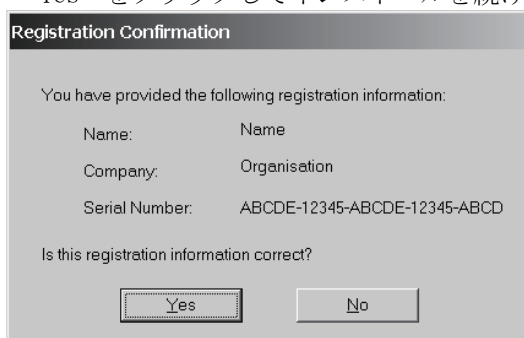


図2-4 ユーザ情報の確認

- ⑧ インストールパスを入力してくださいと表示されますので、GX Configurator-DPソフトウェアのインストール先フォルダを入力します。
 (デフォルトはC:\¥Melsec¥GX Configurator-DP)

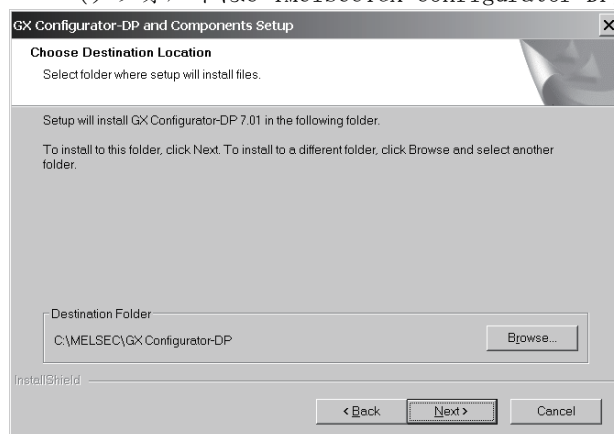


図2-5 インストール先フォルダの確認

- ⑨ デフォルト設定に同意する場合は、“Next>” をクリックします。変更する場合は、“Browse” をクリックして、変更先ドライブとディレクトリを入力します。

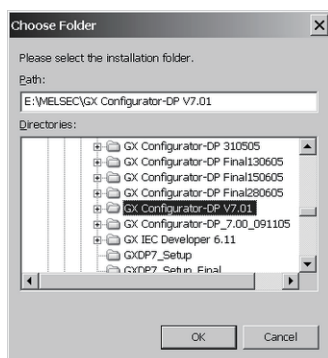


図2-6 インストール先フォルダの設定

- ⑩ インストールしたいプログラムフォルダを選択します。
 新たなフォルダ名を入力するか表示されたものを選択して“Next>” をクリックすると、インストールが開始されます。

⑪ 下記の3種類のセットアップ方法があります。

- Typical : GX Configurator-DPとGX Configurator-STのインストール
(デフォルト設定)
- Compact : GX Configurator-DPのみのインストール
- Custom : GX Configurator-STをインストールするかどうかを選択できます。

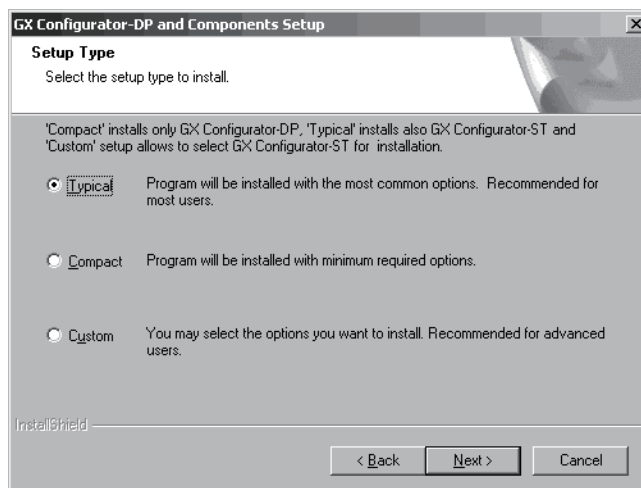


図2-7 セットアップ方法の選択

⑫ インストールが開始されます。

インストールの進行状況が下記のように表示されます。

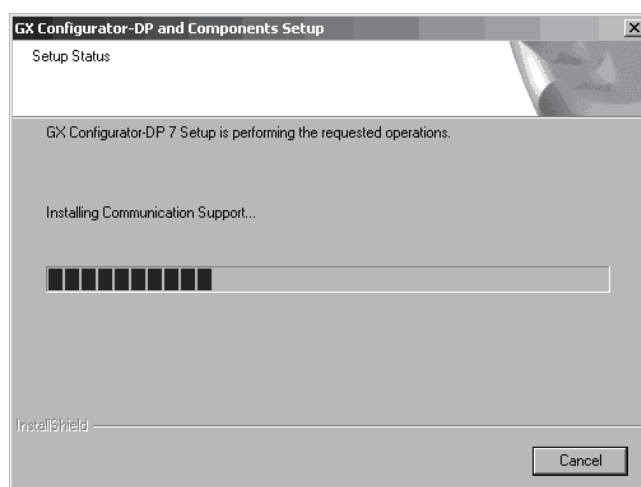


図2-8 インストールの進行状況

⑬ インストールされたら、完了のメッセージが表示されます。

(3) ボタンの機能

表2-6 インストール時に使用するボタンの機能

ボタン	機能内容
	次の画面に進みます。
	前の画面に戻ります。
	インストールを中止します。

第3章 システムの説明

(1) システムの概要

GX Configurator-DPは、PROFIBUS-DPマスタユニット／スレーブユニット／インタフェースユニット専用の、コンフィグレーションソフトです。

(a) 設定とダウンロード

PROFIBUS-DPの構成やパラメータを設定し、三菱電機製シーケンサのネットワークを介して、各ユニットへ設定内容をダウンロードする機能を備えています。

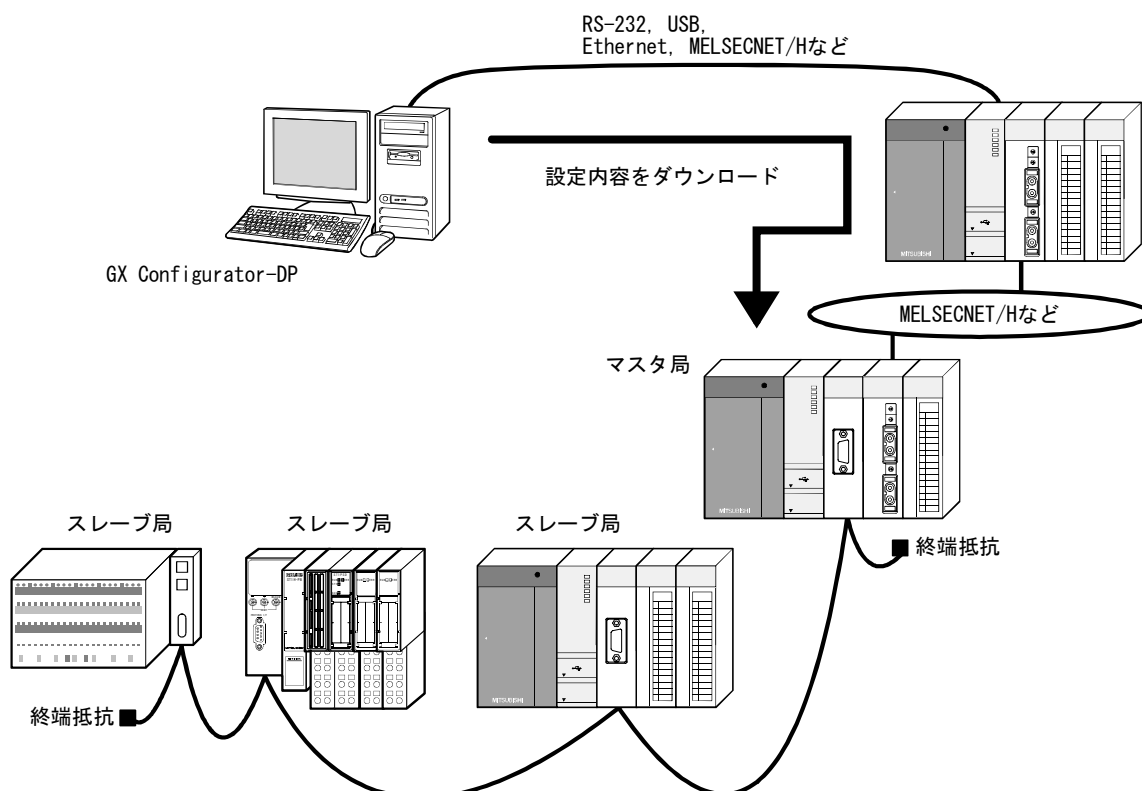
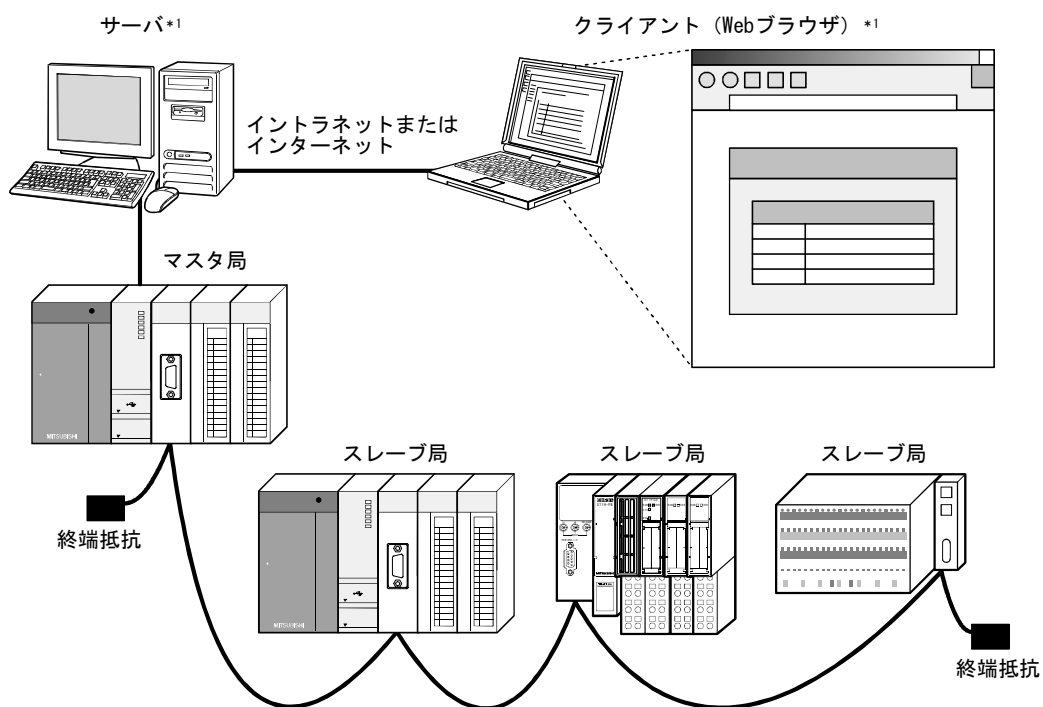


図3-1 設定内容のダウンロードイメージ図

(b) Webを使用したアクセス

遠隔地からアクセスするための、Webサーバの機能を備えています。



*1 サーバのパソコンのWebブラウザを、クライアントとして使用することもできます。

図3-2 Webサーバの機能イメージ図

(2) システム構築の概要

- ① GX Configurator-DPで、スレーブユニット固有の情報を、スレーブユニットのメーカーが提供するGSDファイルから取得します。
- ② GX Configurator-DPで、PROFIBUS-DPの構成やパラメータを設定し、マスターユニットへプロジェクトをダウンロードします。
- ③ GX IEC Developerで使用するために、POUや自動リフレッシュパラメータをエクスポートします。
- ④ エクスポートしたPOUを使って、GX IEC Developerでプログラミングし、シーケンサCPUへプログラムをダウンロードします。

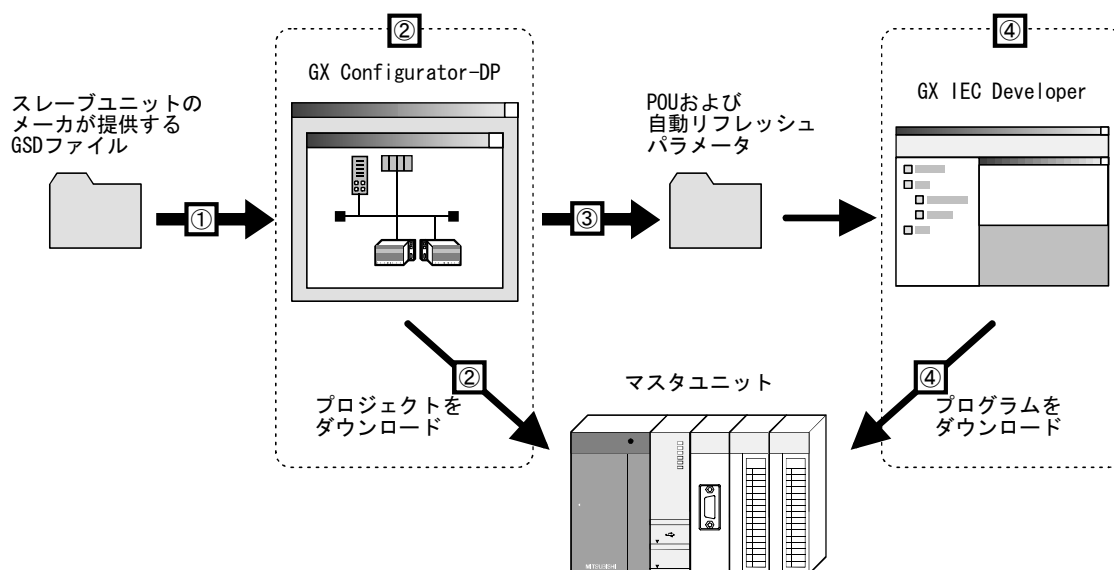


図3-3 システム構築の概要

第4章 運転までの手順と設定

本章では、QJ71PB92Vを例にして、運転までの概略手順を説明します。

表4.1 概略手順

手 順	参照項
GX Configurator-DPの起動	本項(1)
GSDファイルの追加	本項(2)
新規プロジェクトの作成	本項(3)
スレーブ局の追加	本項(4)
スレーブ局に装着されたユニットの選択と、ユーザパラメータの設定	本項(5)
CPUユニットへの接続方法を設定	本項(6)
プロジェクトをマスタユニットにダウンロード	本項(7)
POUを作成	本項(8)
GX IEC DeveloperでPOUをインポート	本項(9)

(1) GX Configurator-DPの起動

- ① スタートメニューから [Programs ^{(*)1}] → [MELSOFT Application] → [GX Configurator-DP] → [GX Configurator-DP] ^{(*)2} をクリックし、GX Configurator-DPを起動します。


*1 下記OS使用時は、[All Programs]と表示されます。

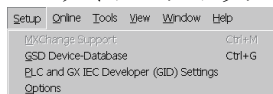
- ・Microsoft Windows XP Professional Operating System
- ・Microsoft Windows XP Home Edition Operating System

*2 GX Configurator-DPのアイコンを、プログラムフォルダの“MELSOFT Application¥GX Configurator-DP”にインストールした場合です。

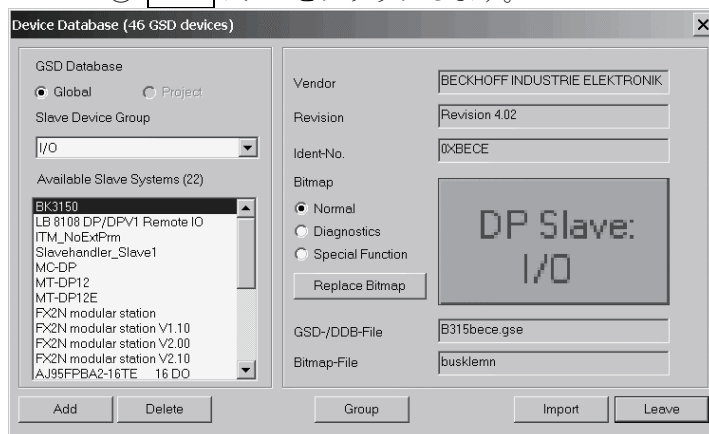


(2) GSDファイルの追加

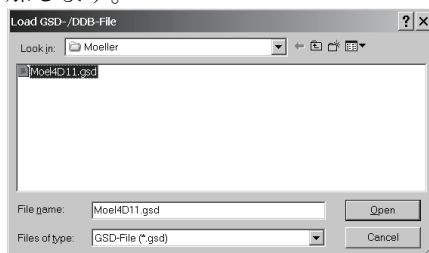
- ① [Setup]→[GSD Device-Database]メニュー () をクリックし，“Device Database” ダイアログボックスを表示させます。




- ② **Add** ボタンをクリックします。

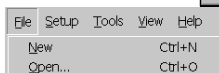


- ③ **Open** ボタンをクリックし，GSDデバイスデータベースにスレーブ局を追加します。

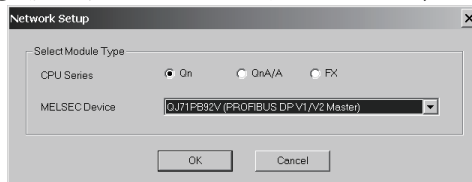


(3) 新規プロジェクトの作成

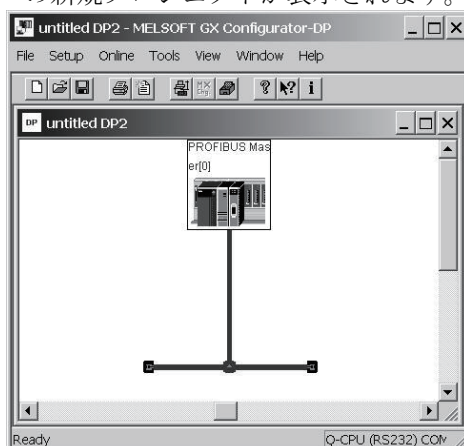
- ① [File]→[New]メニュー () をクリックし，



- ② 設定するマスタユニットを選択し， **OK** ボタンをクリックします。

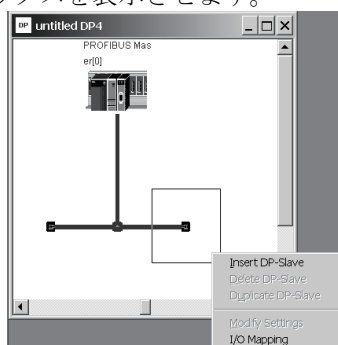


- ③ グラフィカルネットワークエディタが起動し、②選択したマスタユニットの新規プロジェクトが表示されます。

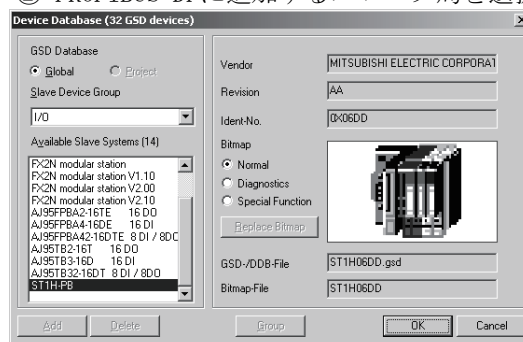


(4) スレーブ局の追加

- ① グラフィカルネットワークエディタのケーブルの図上で右クリックし、[Insert DP-Slave]メニューを選択して、“Device Database”ダイアログボックスを表示させます。



- ② PROFIBUS-DPに追加するスレーブ局を選択します。

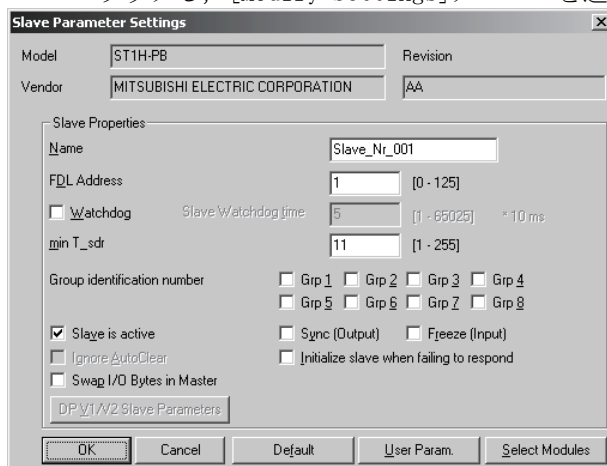


- ③ **OK** ボタンをクリックし、“Slave Parameter Settings”ダイアログボックスを表示させます。

(5) スレーブ局に装着されたユニットの選択と、ユーザパラメータの設定

- ① “Slave Parameter Settings” ダイアログボックスで **Select Modules** ボタンをクリックし，“Slave Modules” ダイアログボックスを表示させます。

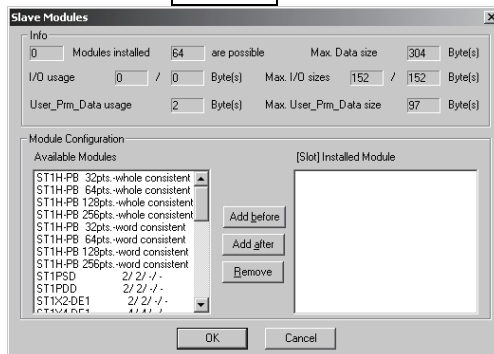
“Slave Parameter Settings” ダイアログボックスを閉じた後に再度開くときは、グラフィカルネットワークエディタのスレーブ局の図上で右クリックし，[Modify Settings]メニューを選択します。




- ② スレーブ局に装着されているユニットを “Available Modules” から選択し，**Add before** / **Add after** ボタンをクリックして，“Installed Module” へ追加します。

“Installed Module” のユニットの表示順序は，設定対象のユニットの装着順序に合わせてください。

“Installed Module” からユニットを削除する場合は，削除するユニットを選択して **Remove** ボタンをクリックしてください。



(6) CPUユニットへの接続方法を設定

- ① [Online]→[Transfer Setup]メニュー () をクリックし, “Transfer Setup List” ダイアログボックスを表示させます。

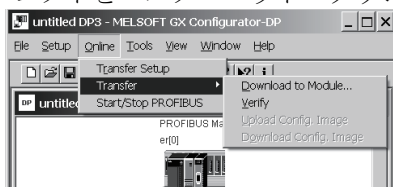
“Transfer Setup List” ダイアログボックスでは, 新規に接続方法を設定したり, 設定済みの接続方法を変更したりできます。

“Transfer Setup List” ダイアログボックスの詳細は, 9章を参照してください。



(7) プロジェクトをマスタユニットにダウンロード

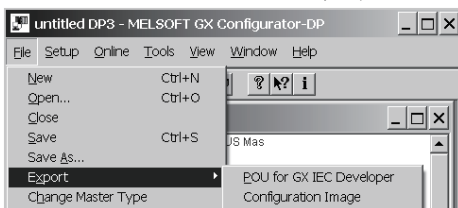
- ① [Online]→[Transfer]→[Download to Module]メニューを選択し, プロジェクトをマスタユニットへダウンロードします。



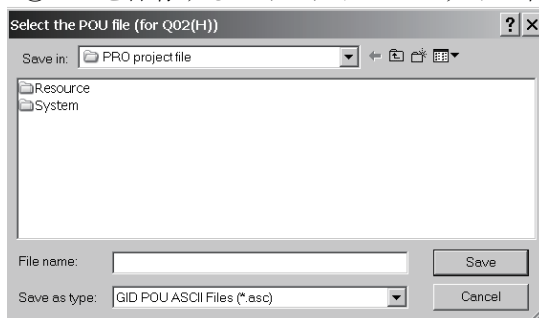
(8) POUを作成

GX IEC Developerのプログラムで, PROFIBUS-DPの通信データ (入出力データ) を扱う場合に, POUを作成します。

- ① [File]→[Export]→[POU for GX IEC Developer]メニューを選択し, “Select the POU file” ダイアログボックスを表示させます。

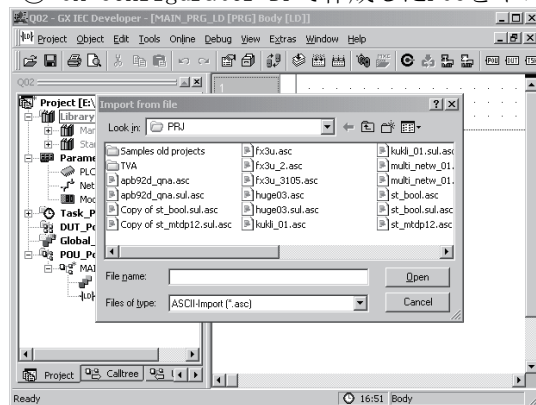


- ② POUを保存するフォルダおよびファイル名を設定して保存します。



(9) GX IEC DeveloperでPOUをインポート

- ① GX IEC Developerを起動し、マスタユニットにアクセスするCPUユニットのプロジェクトを開きます。
- ② GX Configurator-DPで作成したPOUをインポートします。



(GX IEC Developerの場合)

第5章 メニュー

(1) GX Configurator-DPの起動

GX Configurator-DPを起動するときは、スタートメニューから[Programs]→[MELSOFT Application]→[GX Configurator-DP]→[GX Configurator-DP] (*1)をクリックします。

備 考

下記のOS使用時は、スタートメニューから[All Programs]→[MELSOFT Application]→[GX Configurator-DP]→[GX Configurator-DP] (*1)をクリックします。

- ・Microsoft® Windows® XP Professional Operating System
- ・Microsoft® Windows® XP Home Edition Operating System

*1 GX Configurator-DPのアイコンを、プログラムフォルダの“MELSOFT Application¥GX Configurator-DP”にインストールした場合です。

(2) メインメニュー

メインメニューは、メニューバーとツールバーがあります。

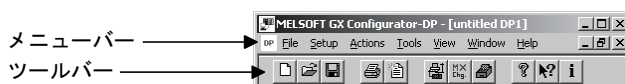


図5-1 メニューバーとツールバー

(a) メニューバー

メニューバーのメニュー一覧を、下記に示します。

表5-1 メニューバーのメニューとショートカットキー

メニュー名	内 容
File	プロジェクトファイルの操作、パラメータの印刷、POUの作成などを行う機能を含みます。
Setup	マスタユニットとCPUユニット間のデータ交信設定、GSDデバイスデータベースの編集などを行う機能を含みます。
Online*1	接続先の設定、パラメータの書込み、PROFIBUS通信の開始／停止などを行う機能を含みます。
Tools	Webベースオンラインアクセス機能のサーバ／クライアント、およびGX Configurator-STの起動などを行う機能を含みます。
View	ツールバーやステータスバーの表示／非表示、またはグラフィカルネットワークエディタの表示を拡大／縮小する機能を含みます。
Window*2	ダイアログボックスの配置を操作する機能を含みます。
Help	ヘルプを表示する機能、ソフトウェアバージョンを表示する機能を含みます。

*1 マスタユニットのプロジェクトを最前面に表示している場合のみ、表示されます。
マスタユニットのプロジェクトを最前面に表示していない場合は、表示されません。

*2 マスタユニットまたはスレーブユニットのプロジェクトを開いている場合のみ、表示されます。
プロジェクトを開いていない場合は、表示されません。

メニューを開き、コマンド名の下線の付いた文字をキーボードから入力すると、そのコマンドを実行できます。

(b) ツールバー

ツールバーのボタン一覧を、下記に示します。

表5-2 ツールバーのボタン

ボタン	内 容
 New	新規にプロジェクトを作成します。
 Open	既存のプロジェクトファイルを開きます。
 Save	プロジェクトを上書き保存します。
 Print	各パラメータの一覧を印刷します。
 Page Setup	印刷するパラメータを選択します。
 Transfer Setup	パソコンとシーケンサCPUの接続を設定します。
 MXChange	本ボタンは使用できません。
 GSD	GSDデバイスデータベースを編集します。
 Help	ヘルプを表示します。
 Help Tool	クリックした場所のヘルプを表示します。
 About	GX Configurator-DPのソフトウェアバージョンを表示します。

5.1 Fileメニュー

Fileメニューは、プロジェクトファイルの操作、パラメータの印刷、POUの作成などを行う機能を含みます。

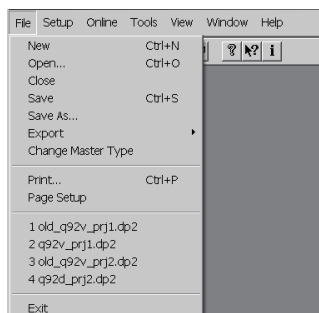


図5-2 Fileメニュー

表5-3 Fileメニューのコマンド

コマンド	内 容
New	新規にプロジェクトを作成します。
Open	既存のプロジェクトファイルを開きます。
Close	開いているプロジェクトを閉じます。
Save	プロジェクトを上書き保存します。
Save As...	開いているプロジェクトに名前を付けて保存します。
Export ^{*1}	POU, 設定イメージファイルなどをエクスポートします。
POU for GX IEC Developer ^{*1}	GX IEC Developerのプログラミングで使用する, POUおよびユーザライブラリをエクスポートします。
Configuration Image ^{*1}	設定イメージファイルをエクスポートします。
Change Master Type ^{*1}	設定対象のマスタユニットと動作モードを変更します。
Print ^{*1}	各パラメータの一覧を印刷します。
Page Setup ^{*1}	印刷するパラメータを選択します。
Project Select	最近開いたプロジェクトファイル4つの中から, 1つを開きます。
Exit	GX Configurator-DPを終了します。

^{*1} マスタユニットのプロジェクトを最前面に表示している場合のみ, 表示します。
マスタユニットのプロジェクトを最前面に表示していない場合は, 表示しません。


(1) Newコマンド

新規にプロジェクトを作成します。

プロジェクト作成時に、設定対象のマスタユニットを選択します。

(a) 基本操作

① 下記いずれかを実行し、“Network Setup”ダイアログボックスを表示させます。

・ [File]→[New]メニュー()をクリックします。

・ キーボードから **Ctrl** + **N** キーを入力します。

“Network Setup”ダイアログボックスについては、本項(1)(b)を参照してください。

② マスタユニットを装着しているCPUユニットに合わせて“CPU Series”を選択し、“MELSEC Device”でマスタユニットを選択します。

③ **OK** ボタンをクリックし、下記ダイアログボックスに新規のプロジェクトを表示させます。

表5-4 プロジェクトを表示するダイアログボックス

②の選択	ダイアログボックス	参照項
マスタユニット	グラフィカルネットワークエディタ	6章(2)
スレーブユニット	スレーブパラメータ設定用ダイアログボックス	7章(2)

(b) 表示／設定画面

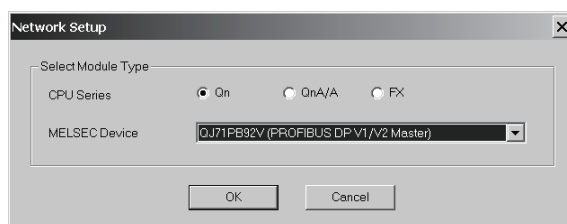


図5-3 Network Setupダイアログボックス

表5-5 Network Setupダイアログボックスの項目


項 目	内 容
CPU Series	マスタユニットの対応シーケンサシリーズを選択します。 Qn : MELSEC-Qシリーズ QnA/A : MELSEC-QnAシリーズまたはMELSEC-Aシリーズ FX : MELSEC-F FXシリーズ
MELSEC Device	“CPU Series”の選択後に、マスタユニットを選択します。 QJ71PB92D (PROFIBUS DP V0 Master) : QJ71PB92D (拡張サービスモード(MODE E)) QJ71PB92V (PROFIBUS DP V1/V2 Master) : QJ71PB92V QJ71PB93D (PROFIBUS DP V0 Slave) : QJ71PB93D QJ71PB92D - Mode 0 (PROFIBUS-DP V0 Master) : QJ71PB92D (通常サービスモード(MODE 0)) A(1S)J71PB92D (PROFIBUS DP V0 Master) : A(1S)J71PB92D (拡張サービスモード (MODEスイッチ : No. E)) A(1S)J71PB92D - Mode 0 (PROFIBUS DP V0 Master) : A(1S)J71PB92D (通常サービスモード (MODEスイッチ : No. 0)) FX3U-64DP-M (PROFIBUS DP V1 Master) : FX3U-64DP-M

(2) Openコマンド

既存のプロジェクトファイルを開きます。

ポイント	
①	<p>GX Configurator-DP Version7 では、プロジェクトファイルにGSDデータが保存されます。</p> <p>このため、プロジェクトファイルを他のパソコンにコピーして開く場合、GSDデバイスデータベースにGSDデータが存在しなくても開くことができます。</p> <p>② プロジェクトファイルを開くときに優先して使用するGSDデータを、下記いずれかに設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトファイルに保存されているGSDデータ ・GSDデバイスデータベースに登録されているGSDデータ <p>この設定は、プロジェクトファイルを開く前に“GSD database has priority”で設定する必要があります。</p> <p>詳細については、5.2節(5)を参照してください。</p>

(a) 基本操作

- ① 下記いずれかを実行し，“Open”ダイアログボックスを表示させます。
 - ・ [File]→[Open]メニュー()をクリックします。
 - ・ キーボードから **Ctrl** + **O** キーを入力します。

“Open”ダイアログボックスについては、本項(2)(b)を参照してください。
- ② 開くプロジェクトファイルを選択します。
- ③ **Open** ボタンをクリックし、下記ダイアログボックスにプロジェクトを表示させます。

表5-6 プロジェクトを表示するダイアログボックス

②の選択した ファイルの拡張子	ダイアログボックス	参照項
*. dp2	グラフィカルネットワークエディタ	6章(2)
*. dpx	スレーブパラメータ設定用ダイアログボックス	7章(2)

備 考

上記の方法以外に、プロジェクトファイルを直接ダブルクリックしても、プロジェクトファイルを開くことができます。

(b) 表示／設定画面

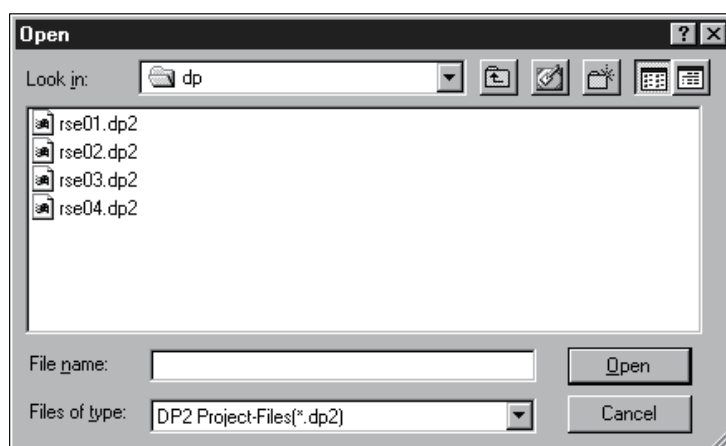


図5-4 Openダイアログボックス

表5-7 Openダイアログボックスの項目

項 目	内 容
Look in	プロジェクトファイルが保存されているフォルダを選択します。
File name	開くプロジェクトファイルのファイル名を選択または入力します。
Files of type	プロジェクトファイルの種類を選択します。 DP2 Project-Files (*.dp2) : マスタユニットのプロジェクトファイル DPX XML Project-Files (*.dpx) : スレーブユニットのプロジェクトファイル
Open ボタン	選択または入力されたプロジェクトファイルを開きます。

ポイント

MELSEC ProfiMap Version2 以前のソフトウェアバージョンで作成されたプロジェクトファイルは開くことができません。
GX Configurator-DPで開くことができるプロジェクトファイルについては、2.2節を参照してください。

(3) Closeコマンド

開いているプロジェクトを閉じます。

備 考

プロジェクトを保存していない場合は、下記ダイアログボックスを表示し、プロジェクトを保存することができます。

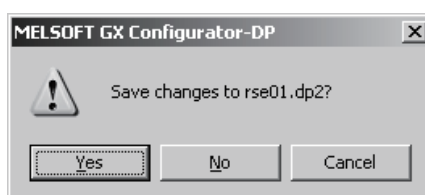


図5-5 プロジェクトの保存の確認

(4) Saveコマンド

プロジェクトを上書き保存します。


備 考

新規のプロジェクトを保存せずに本コマンドを実行した場合は，“Save As”ダイアログボックスを表示します。

“Save As”ダイアログボックスについては、本節(5)を参照してください。

(a) 基本操作

下記いずれかを実行すると、プロジェクトを上書き保存させます。

- ・ [File]→[Save]メニュー()をクリックします。
- ・ キーボードから **Ctrl** + **S** キーを入力します。

(b) GSDデータの保存について

プロジェクトで使用しているスレーブ局のGSDデータは、プロジェクトファイルに保存します。

詳細については、5.2節(4)を参照してください。

(5) Save Asコマンド

開いているプロジェクトに名前を付けて保存します。

(a) 基本操作

- ① [File]→[Save As]メニューを選択し，“Save As”ダイアログボックスを表示させます。
“Save As”ダイアログボックスについては、本節(5) (b)を参照してください。
- ② プロジェクトファイルのファイル名を入力します。
- ③ Save ボタンをクリックし、入力したファイル名のプロジェクトファイルに保存させます。

(b) 表示／設定画面

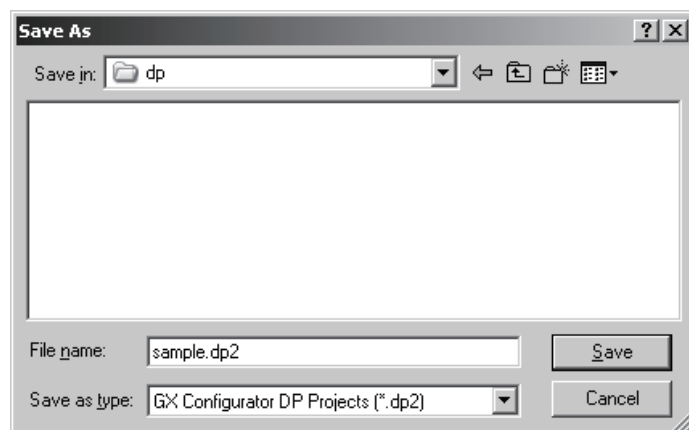


図5-6 Save Asダイアログボックス

表5-8 Save Asダイアログボックスの項目

項 目	内 容
Save in	プロジェクトファイルを保存するフォルダを選択します。
File name	プロジェクトファイルのファイル名を入力します。
Save as type	ダイアログボックスに表示するファイルの種類を選択します。 DP2 Project-Files (*.dp2) *1 : マスタユニットのプロジェクトファイル DPX XML Project-Files (*.dpx) *2 : スレーブユニットのプロジェクトファイル All files(*.*) : すべてのファイル
Save ボタン	入力されたファイル名でプロジェクトを保存します。

*1 マスタユニットのプロジェクトを開いている場合のみ表示されます。

*2 スレーブユニットのプロジェクトを開いている場合のみ表示されます。

(c) GSDデータの保存について

プロジェクトで使用しているスレーブ局のGSDデータは、プロジェクトファイルに保存されます。

詳細については、5.2節(4)を参照してください。

(6) Exportコマンド

POU, 設定イメージファイルなどをエクスポートします。

(a) POU for GX IEC Developerコマンド

GX IEC Developerのプログラミングで使用する, POUおよびユーザライブラリをエクスポートします。

ポイント	
①	POUをGX IEC Developerにインポートするときに, ユーザライブラリも同時にインポートされます。
②	エクスポートしたPOUおよびユーザライブラリは, 他のフォルダへ移動させないでください。
	他のフォルダへ移動すると, GX IEC Developerでインポートするときに, ユーザライブラリをインポートできなくなります。
	他フォルダへの移動が必要な場合は, 本コマンドにより移動させたいフォルダへ直接エクスポートしてください。
③	QJ71PB92VをリモートI/O局に装着した場合は, リモートI/O局のプロジェクトにインポートしないでください。
	リモートマスタ局のプロジェクトにインポートしてください。

備 考

本コマンドは, 下記以外のマスタユニットのプロジェクトを, 最前面に表示している場合のみ, 実行できます。

下記のマスタユニット, およびスレーブユニットのプロジェクトを最前面に表示している場合は, 実行できません。

- ・ QJ71PB92D (通常サービスモード(MODE 0))
- ・ A(1S)J71PB92D (通常サービスモード (MODEスイッチ: No. 0))

(a-1) 基本操作

- ① [File]→[Export]→[POU for GX IEC Developer]メニューをクリックし, “Select the POU file” ダイアログボックスを表示させます。
“Select the POU file” ダイアログボックスについては, 本節(6) (a-2)を参照してください。
- ② POUのファイル名を入力します。
- ③ Save ボタンをクリックし, 入力したファイル名^(*)のPOUおよびユーザライブラリをエクスポートします。

1 拡張子が “.asc”, “*.sul” および “*.sul.asc” の3ファイルをエクスポートします。

(a-2) 表示／設定画面

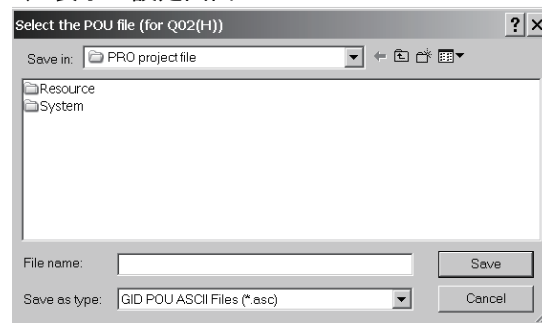


図5-7 Select the POU fileダイアログボックス

表5-9 Select the POU fileダイアログボックスの項目

項 目	内 容
Save in	POUおよびユーザライブラリを作成するフォルダを選択します。
File name	POUのファイル名を入力します。
Save ボタン	入力されたファイル名でプロジェクトを保存します。

(b) Configuration Imageコマンド

設定イメージファイルをエクスポートします。

備 考

本コマンドは、マスタユニットのプロジェクトを最前面に表示している場合のみ、実行できます。

マスタユニットのプロジェクトを最前面に表示していない場合は、実行できません。

(b-1) 設定イメージファイルとは

設定イメージファイルとは、マスタユニットに格納されるパラメータファイルです。

設定イメージファイルは、マスタユニットに格納されるパラメータ（マスタパラメータおよびスレーブパラメータ）のみを、他のマスタユニットに書き込む場合などに使用します。

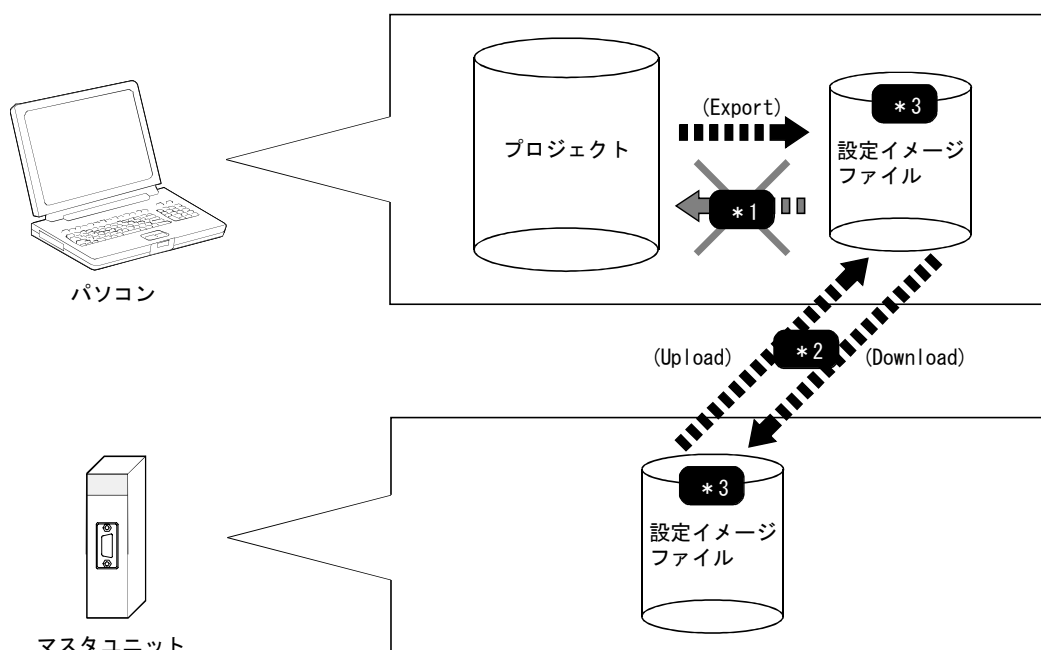


図5-8 設定イメージファイル

- *1 マスタユニットからパソコンにアップロードした設定イメージファイルは、GX Configurator-DPのプロジェクトにインポートできません。
- *2 設定イメージファイルのアップロードおよびダウンロードについては、5.3節を参照してください。
- *3 設定イメージファイルには、マスタパラメータおよびスレーブパラメータが含まれます。
自動リフレッシュ設定などの、シーケンサCPUに書き込まれる設定は、設定イメージファイルには含まれません。

(b-2) 基本操作

- ① [File] → [Export] → [Configuration Image] メニューをクリックし，“Select file for configuration image” ダイアログボックスを表示させます。
“Select file for configuration image” ダイアログボックスについては、本節(6) (b-3)を参照してください。
- ② 設定イメージファイルのファイル名を入力します。
- ③ Save ボタンをクリックし、入力したファイル名の設定イメージファイルをエクスポートさせます。

(b-3) 表示／設定画面

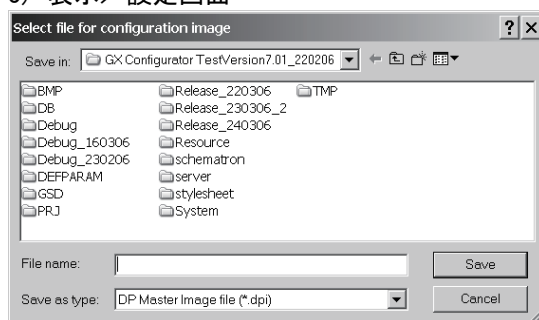


図5-9 Select file for configuration imageダイアログボックス

表5-10 Select file for configuration imageダイアログボックスの項目

項 目	内 容
Save in	設定イメージファイルを作成するフォルダを選択します。
File name	設定イメージファイルのファイル名を入力します。
Save ボタン	入力されたファイル名で設定イメージファイルを保存します。

(7) Change Master Typeコマンド

設定対象のマスタユニットと動作モードを変更します。

備 考

本コマンドは、マスタユニットのプロジェクトを最前面に表示している場合のみ、実行できます。

マスタユニットのプロジェクトを最前面に表示していない場合は、実行できません。

(a) 基本操作

- ① [File]→[Change Master Type]メニューを選択し、“Change Master Type”ダイアログボックスを表示させます。
- ② 変更するマスタユニットを選択します。
- ③ **OK**ボタンをクリックし、プロジェクトの設定対象のマスタユニットと動作モードを変更させます。
- ④ 変更後の各パラメータで入出力データ交信させたときに、問題が発生しないか各パラメータを確認します。

(b) 表示／設定画面

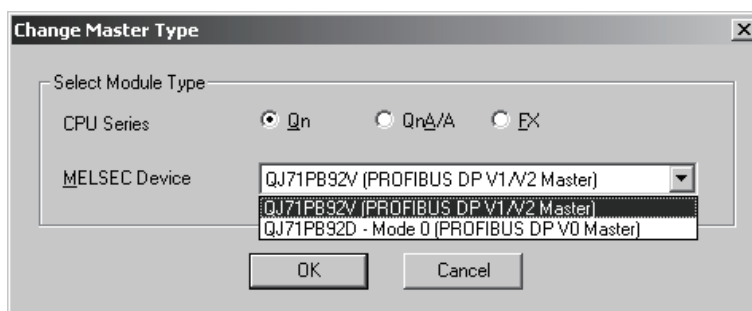


図5-10 Change Master Typeダイアログボックス

表5-11 Change Master Typeダイアログボックスの項目

項 目	内 容
CPU Series	マスタユニットの対応シーケンサシリーズを選択します。 Qn : MELSEC-Qシリーズ QnA/A : MELSEC-QnAシリーズまたはMELSEC-Aシリーズ FX : MELSEC-F FXシリーズ
MELSEC Device	“CPU Series” の選択後に、マスタユニットを選択します。 QJ71PB92D (PROFIBUS DP V0 Master) : QJ71PB92D (拡張サービスモード (MODE E)) QJ71PB92V (PROFIBUS DP V1/V2 Master) : QJ71PB92V QJ71PB92D - Mode 0 (PROFIBUS-DP V0 Master) : QJ71PB92D (通常サービスモード (MODE 0)) A(1S)J71PB92D (PROFIBUS DP V0 Master) : A(1S)J71PB92D (拡張サービスモード (MODEスイッチ : No. E)) A(1S)J71PB92D - Mode 0 (PROFIBUS DP V0 Master) : A(1S)J71PB92D (通常サービスモード (MODEスイッチ : No. 0)) FX3U-64DP-M (PROFIBUS DP V1 Master) : FX3U-64DP-M

(8) Printコマンド

各パラメータの一覧を印刷します。

印刷するパラメータは“Page Setup” コマンドで選択します。

“Page Setup” コマンドについては、本節(9)を参照してください。

備 考

本コマンドは、マスタユニットのプロジェクトを最前面に表示している場合のみ、実行できます。

マスタユニットのプロジェクトを最前面に表示していない場合は、実行できません。


(a) 基本操作

① プロジェクトを保存します。

プロジェクトの保存方法については、下記を参照してください。

- ・ 上書き保存 本節(4)
- ・ 名前を付けて保存 本節(5)

② 下記いずれかを実行し、Webブラウザを起動して各パラメータの一覧を表示させます。

- ・ [File]→[Print]メニュー () をクリックします。
- ・ キーボードから **Ctrl** + **P** キーを入力します。

③ Webブラウザで、各パラメータの一覧を印刷させます。

(b) 表示/設定画面

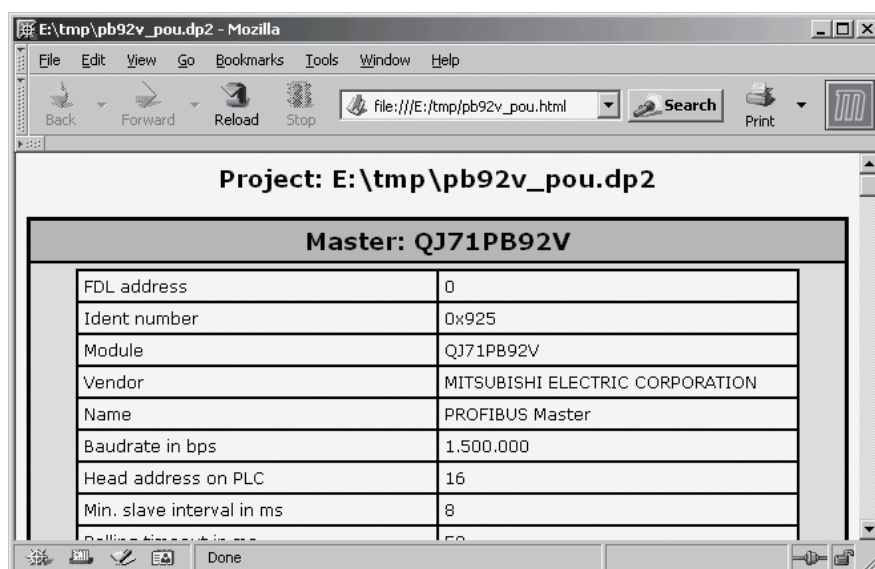


図5-11 Webブラウザの表示例

(9) Page Setupコマンド

印刷するパラメータを選択します。

印刷については、本節(8)を参照してください。

備 考

本コマンドは、マスタユニットのプロジェクトを最前面に表示している場合のみ、実行できます。

マスタユニットのプロジェクトを最前面に表示していない場合は、実行できません。

(a) 基本操作

- ① [File]→[Page Setup]メニューを選択し、“Page Setup”ダイアログボックスを表示させます。
- ② 印刷するパラメータの選択と、ヘッダを設定します。
パラメータの選択とヘッダの設定は、本節(9)(b)を参照してください。
- ③ OK ボタンをクリックし、設定を終了させます。

(b) 表示／設定画面

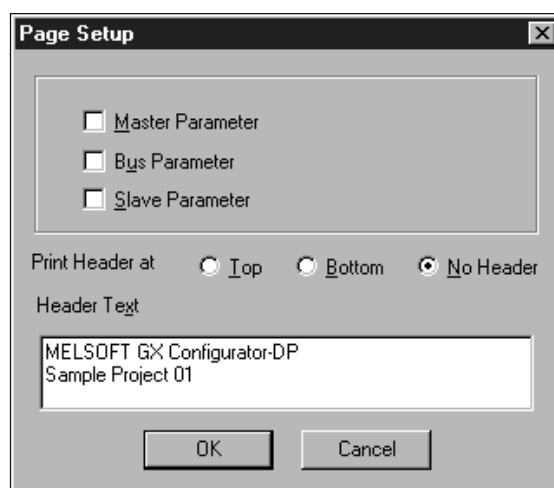


図5-12 Page Setupダイアログボックス

表5-12 Page Setupダイアログボックスの項目

項 目	内 容
Master Parameter, Bus Parameter, Slave Parameter	印刷するパラメータを選択します。
Print Header at	下記の“Header Text”の設定内容を印刷するかしないか、または印刷位置を選択します。 Top : “Header Text”をパラメーター一覧より上に印刷されます。 Bottom : “Header Text”をパラメーター一覧より下に印刷されます。 No Header : “Header Text”を印刷されません。
Header Text	ヘッダまたはフッタとして印刷する文字列を入力します。

(10) Recent Filesコマンド

最近開いたプロジェクトファイルが4つ表示されます。

この中からプロジェクトファイルを選択すると、選択したプロジェクトファイルを開くことができます。

(11) Exitコマンド

GX Configurator-DPを終了します。

備 考

プロジェクトを保存していない場合は、下記ダイアログボックスが表示され、プロジェクトを保存することができます。

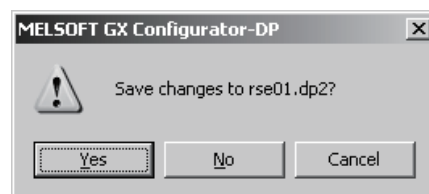


図5-13 プロジェクトの保存の確認

5.2 Setupメニュー

Setupメニューは、マスタユニットとCPUユニット間のデータ交信設定、GSDデバイスデータベースの編集などを行う機能を含みます。

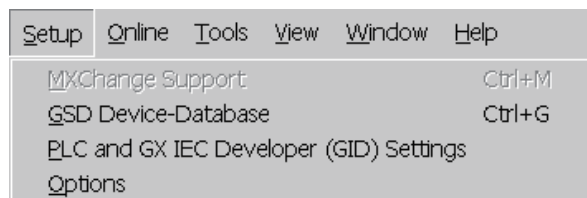


図5-14 Setupメニュー

表5-13 Setupメニューのコマンド

コマンド	内 容	ショートカットキー
MXChange Support* ¹	本コマンドは使用できません。	Ctrl + M キー
GSD Device-Database* ¹	GSDデバイスデータベースを操作します。	Ctrl + G キー
PLC and GX IEC Developer (GID) Settings* ²	マスタユニットのバッファメモリとCPUユニット間のデータ交信について設定します。	—
Options	GSDデバイスデータベースの選択, およびGSDデータの開き方／上書き保存について設定します。	—

*1 マスタユニットのプロジェクトを最前面に表示している場合、またはプロジェクトをすべて閉じている場合に、表示されます。

スレーブユニットのプロジェクトを表示している場合は、表示されません。

*2 マスタユニットのプロジェクトを最前面に表示している場合のみ、表示されます。

マスタユニットのプロジェクトを最前面に表示していない場合は、表示されません。

*3 QJ71PB92□のプロジェクトを最前面に表示している場合のみ、表示されます。

QJ71PB92□以外のプロジェクトを最前面に表示している場合は、表示されません。

(1) MXChange Supportコマンド

本コマンドは使用できません。


(2) GSD Device-Databaseコマンド

GSDデバイスデータベースを編集します。

備 考

本コマンドは、プロジェクトを開いていない場合のみ、実行できます。
プロジェクトを開いていると、実行できません。

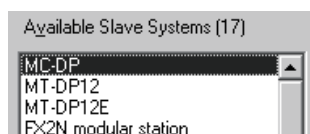
(a) 基本操作

- ① 下記いずれかを実行し、“Device Database” ダイアログボックスを表示させます。
 - ・ [Setup]→[GSD Device-Database]メニュー () をクリックします。
 - ・ キーボードから **Ctrl** + **G** キーを入力します。

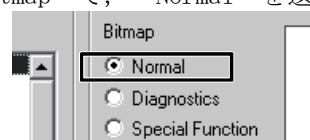
“Device Database” ダイアログボックスの各項目については、本節 (2) (b) を参照してください。
- ② GSDデバイスデータベースに、下記の編集をします。
 - ・ スレーブ局の画像変更 …………… 本節 (2) (a-1) 参照
 - ・ スレーブ局の登録追加 …………… 本節 (2) (a-2) 参照
 - ・ スレーブ局の登録削除 …………… 本節 (2) (a-3) 参照
 - ・ スレーブデバイスグループの変更 …………… 本節 (2) (a-4) 参照
 - ・ GSDデバイスデータベースのインポート …… 本節 (2) (a-5) 参照
- ③ **Leave** ボタンをクリックし、GSDデバイスデータベースの編集を終了します。

(a-1) スレーブ局の画像変更

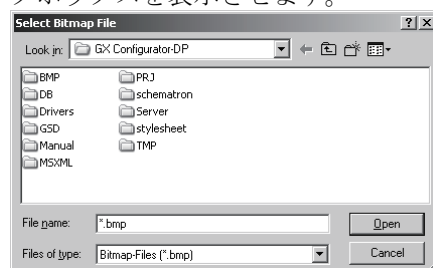
- ① “Available Slave Systems” で、画像を変更するスレーブ局を選択します。



- ② “Bitmap” で、“Normal” を選択します。



- ③ **Replace Bitmap** ボタンをクリックし、“Select Bitmap File” ダイアログボックスを表示させます。

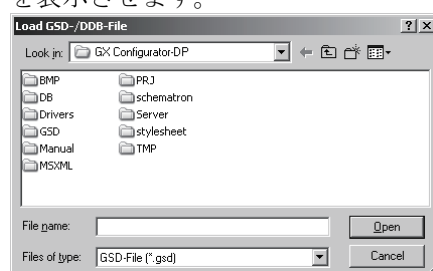


- ④ 新たにスレーブ局として表示にする画像ファイルを選択します。

- ⑤ **Open** ボタンをクリックし、スレーブ局の画像を変更させます。

(a-2) スレーブ局の登録追加

- ① **Add** ボタンをクリックし、“Load GSD-/DDB-File” ダイアログボックスを表示させます。

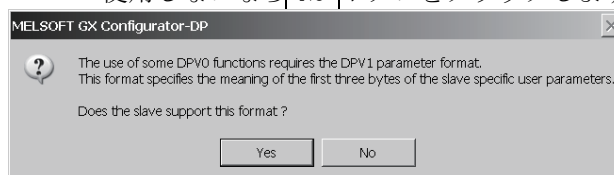


- ② 追加するスレーブ局のGSD (DDB) ファイルを選択し、**Open** ボタンをクリックします。

- ③ 下記ダイアログボックスが表示された場合、PROFIBUS-DPV1機能のパラメータ形式の使用可否を選択できます。

使用するなら **Yes** ボタンをクリックします。

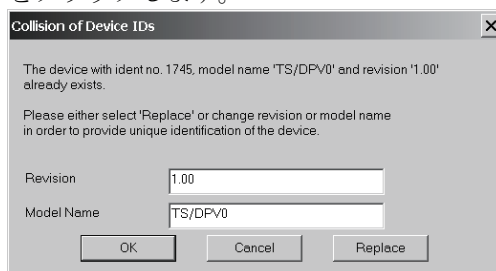
使用しないなら **No** ボタンをクリックします。



- ④ 下記ダイアログボックスが表示された場合、すでに同じ名前のスレーブ局が登録されています。

スレーブ局のリビジョンまたは名前を変更する場合は、“Revision”または“Model name”を変更して **OK** ボタンをクリックします。

すでに登録されているスレーブ局と置き換える場合は、**Replace** ボタンをクリックします。



備 考

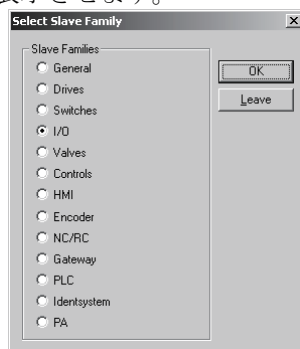
スレーブ局の追加時にスレーブ局の画像ファイルを要求された場合は、メッセージに従って画像ファイルを選択してください。

(a-3) スレーブ局の登録削除

- ① “Available Slave Systems” で、削除するスレーブ局を選択します。
- ② **Delete** ボタンをクリックし、GSDデバイスデータベースからスレーブ局を削除させます。

(a-4) スレーブデバイスグループの変更

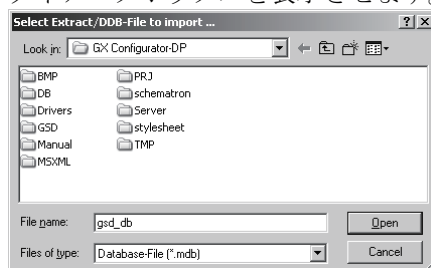
- ① “Available Slave Systems” で、スレーブデバイスグループを変更するスレーブ局を選択します。
- ② **Group** ボタンをクリックし、“Select Slave Family” ダイアログボックスを表示させます。



- ③ “Slave Families” から、新たに割り当てるスレーブデバイスグループを選択します。
- ④ **OK** ボタンをクリックし、スレーブデバイスグループを変更させます。

(a-5) GSDデバイスデータベースのインポート

- ① **Import** ボタンをクリックし、“Select Extract/DDB-File to import” ダイアログボックスを表示させます。



- ② インポートするGSDデバイスデータベースを含むファイルを選択します。
- ③ **Open** ボタンをクリックし、GSDデバイスデータベースをインポートさせます。

(b) 表示／設定画面

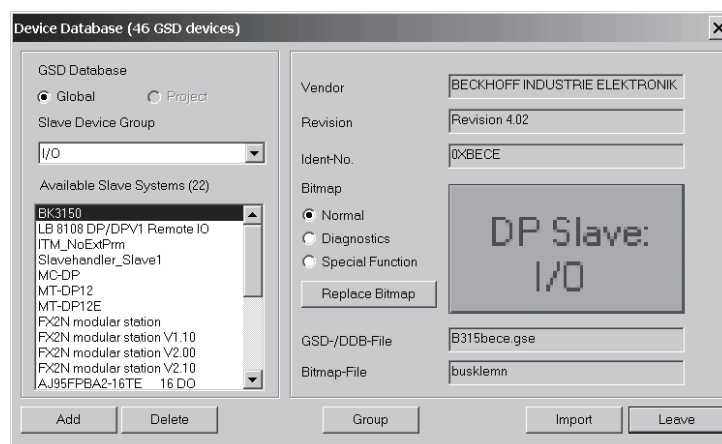


図5-15 Device Databaseダイアログボックス

表5-14 Device Databaseダイアログボックスの項目

項 目	内 容
GSD Database	使用するGSDデバイスデータベースが表示されます。 Global : GX Configurator-DP内蔵のGSDデバイスデータベースが使用されます。 Project : 本項目は選択できません。
Slave Device Group	“Available Slave Systems” に表示する、スレーブ局のグループを選択します。
Available Slave Systems	スレーブ局を選択すると、選択したスレーブ局の情報が表示され、情報の編集などができます。
Vendor	スレーブ局のメーカーが表示されます。
Revision	スレーブ局のリビジョンが表示されます。
Ident-No.	スレーブ局のアイデントNo. が表示されます。
Bitmap	GSDデバイスデータベースに登録された画像を、表示または変更します。 Normal ^{*1} : 通常操作時の画像が表示されます。 Diagnostics ^{*1} : 診断時の画像が表示されます。 Special Function ^{*1} : 特殊機能時の画像が表示されます。 Replace Bitmap : 表示されている画像を変更します。 画像の仕様については、本節(2)(c)を参照してください。
GSD-/DDB-File	スレーブ局のGSD(DDB)ファイルが表示されます。
Bitmap-File	スレーブ局の画像ファイルが表示されます。
Add ボタン	GSDデバイスデータベースにスレーブ局のGSD(DDB)ファイルが追加登録されます。
Delete ボタン	GSDデバイスデータベースからスレーブ局を削除します。
Group ボタン	スレーブ局のスレーブデバイスグループを変更します。
Import ボタン	GSDデバイスデータベースをインポートします。
Leave ボタン	GSDデバイスデータベースの編集を終了します。

*1 グラフィカルネットワークエディタには、“Normal”を選択したときの画像が表示されます。

“Diagnostics” または “Special Function” を選択したときの画像は表示されません。

(c) スレーブ局として表示する画像の仕様

スレーブ局として表示する画像の仕様は、下記仕様のビットマップファイルを推奨します。

表5-15 画像の仕様

項 目	内 容
幅	70ピクセル
高さ	40ピクセル
色	16色
拡張子	BMPまたはDIB

上記仕様以外のビットマップファイルを使用できますが、警告メッセージを表示する場合があります。

(d) インポート可能なファイル

GSDデバイスデータベースにインポートできるファイルを、下記に示します。

表5-16 インポート可能なファイル

ファイルの種類	内 容
Database-File (*.mdb)	GX Configurator-DPが内部に持っている、GSDデバイスデータベースのファイル。
GSD-Extract-File (*.ext)	GX Configurator-DP Version6 以前で作成した、GSD抽出ファイル。
Project File (*.dp2)	GX Configurator-DP Version7 以降で保存した、GSDデータを含んだプロジェクトファイル。

(e) 注意事項

- (e-1) GSD (DDB) ファイルについては、各スレーブ局のメーカーにお問い合わせください。
- (e-2) 追加したスレーブ局のGSDファイルに、スレーブデバイスグループの記述がない場合は、“General” グループに割り付けられます。

(3) PLC and GX IEC Developer (GID) Settingsコマンド

マスタユニットのバッファメモリとCPUユニット間のデータ通信について設定します。

データ通信は、FROM/TO/MOV命令を使用する方法か、自動リフレッシュを使用する方法かを選択できます。

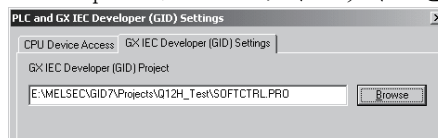
備 考

本項目は、マスタユニットのプロジェクトを最前面に表示している場合のみ、実行できます。

マスタユニットのプロジェクトを最前面に表示していない場合は、実行できません。

(a) 基本操作

- ① [Setup]→[PLC and GX IEC Developer (GID) Settings]メニューを選択し、“PLC and GX IEC Developer (GID) Settings” ダイアログボックスを表示させます。
- ② “CPU Device Access” タブを開き、マスタユニットとCPUユニット間の通信で使用するCPUユニットのデバイスを設定し、通信方法を選択します。
“CPU Device Access” タブの詳細については、本節(3) (b)を参照してください。
- ③ “Data Transfer using” で “AutoRefresh(Update of GID Project)” を選択した場合は、“GX IEC Developer (GID) Settings” タブを開き、GX IEC Developerのプロジェクトファイルを設定します。



- ④ **OK** ボタンをクリックし、設定を終了します。

(b) 表示／設定画面

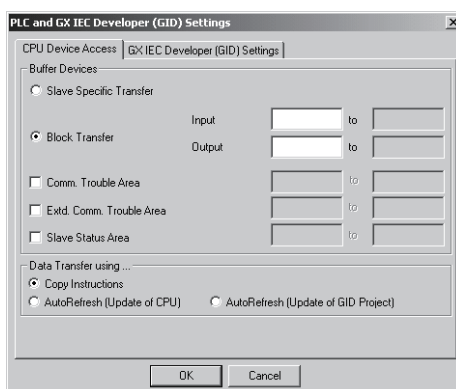


図5-16 CPU Device Accessダイアログボックス

表5-17 CPU Device Accessダイアログボックスの項目

項 目	内 容
Buffer Devices	マスタユニットとCPUユニット間の通信で使用するCPUユニットのデバイスを設定します。
Slave Specific Transfer	通信で使用するデバイスを、スレーブ局単位で設定する場合に選択します。 デバイスの設定は、本項目選択後に“I/O Mapping”ダイアログボックスを開き、各スレーブ局の“Buffer MIT-Address”で設定します。 “I/O Mapping”ダイアログボックスについては、8章を参照してください。
Block Transfer	通信で使用するデバイスを、全スレーブ局で同一のデバイスに設定する場合に設定します。 デバイスの設定は、下記“Input”および“Output”に設定します。 Input : 入力データの通信に使用するデバイスを設定します。 ビットデバイスを設定する場合は、16点単位で設定してください。 Output : 出力データの通信に使用するデバイスを設定します。 ビットデバイスを設定する場合は、16点単位で設定してください。
Comm. Trouble Area	通信障害情報エリアの通信に使用するデバイスを設定します。 マスタユニットが、QJ71PB92□またはA(1S)J71PB92Dの場合に、設定可能になります。
Extd. Comm. Trouble Area	拡張通信障害情報エリアの通信に使用するデバイスを設定します。 マスタユニットが、QJ71PB92□またはA(1S)J71PB92Dの場合に、設定可能になります。
Slave Status Area	スレーブステータスエリアの通信に使用するデバイスを設定します。 マスタユニットが、QJ71PB92□またはA(1S)J71PB92Dの場合に、設定可能になります。
Data Transfer using	マスタユニットとCPUユニット間の通信方法を設定します。
Copy Instructions	FROM/TO/MOV命令を使用して通信する場合に選択します。
AutoRefresh (Update of CPU)	自動リフレッシュを使用して通信する場合に選択します。 本項目を選択した場合は、プロジェクトをダウンロードしたときに、自動リフレッシュパラメータをCPUユニットへ書き込みます。 マスタユニットが、QJ71PB92□の場合に、設定可能になります。
AutoRefresh (Update of GID Project)	自動リフレッシュを使用して通信する場合に選択します。 本項目を選択した場合は、自動リフレッシュパラメータを、GX IEC Developerのプロジェクトファイルへ書き込みます。 CPUユニットへの書き込みは、GX IEC Developerから行います。 マスタユニットが、QJ71PB92□の場合に、設定可能になります。

(c) 自動リフレッシュパラメータの設定個数について

CPUユニットに設定可能な自動リフレッシュパラメータの設定個数には、制限があります。

自動リフレッシュパラメータは、下記に示す設定個数を超えないように設定してください。

- (c-1) 全インテリジェント機能ユニットの自動リフレッシュパラメータ設定個数
複数のインテリジェント機能ユニットを装着した場合、下記の設定個数を超えないように自動リフレッシュパラメータを設定してください。

表5-18 最大自動リフレッシュパラメータ設定個数

CPUタイプ	最大自動リフレッシュパラメータ設定個数
Q00J/Q00/Q01CPU	256
Q02/Q02H/Q06H/Q12H/Q25HCPU	256
Q12PH/Q25PHCPU	256
Q12PRH/Q25PRHCPU	256

(c-2) QJ71PB92□の自動リフレッシュパラメータ設定個数

QJ71PB92□の自動リフレッシュパラメータ設定個数は、入出力データの自動リフレッシュ設定方法により、設定個数が異なります。

- ・“Block Transfer” で設定した場合

入出力データの自動リフレッシュ設定を“Block Transfer” で設定した場合（全スレーブ局の入出力データを同一デバイスにリフレッシュさせる場合），QJ71PB92□1台あたり最大5個となります。

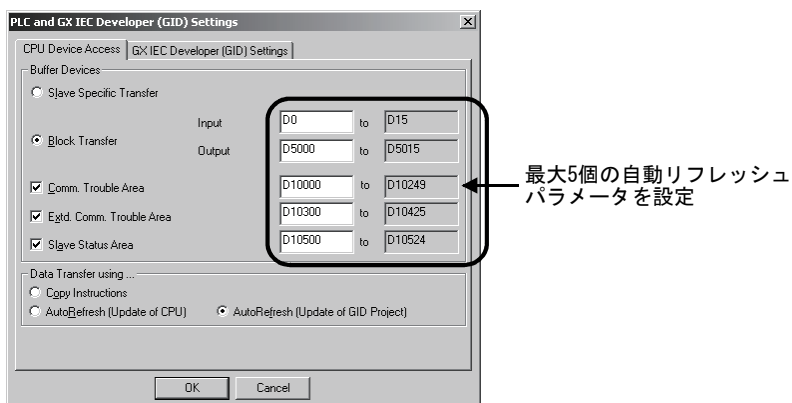


図5-17 QJ71PB92□の自動リフレッシュパラメータ設定個数（“Block Transfer” で設定時）

- “Slave Specific Transfer” で設定した場合
入出力データの自動リフレッシュ設定を“Slave Specific Transfer”で設定した場合（スレーブ局単位でリフレッシュ先デバイスを変更する場合），QJ71PB92□1台あたり下記の個数となります。

$$\text{最大設定個数} = \{ (\text{スレーブ局の接続台数}) \times 2 \} + 3$$

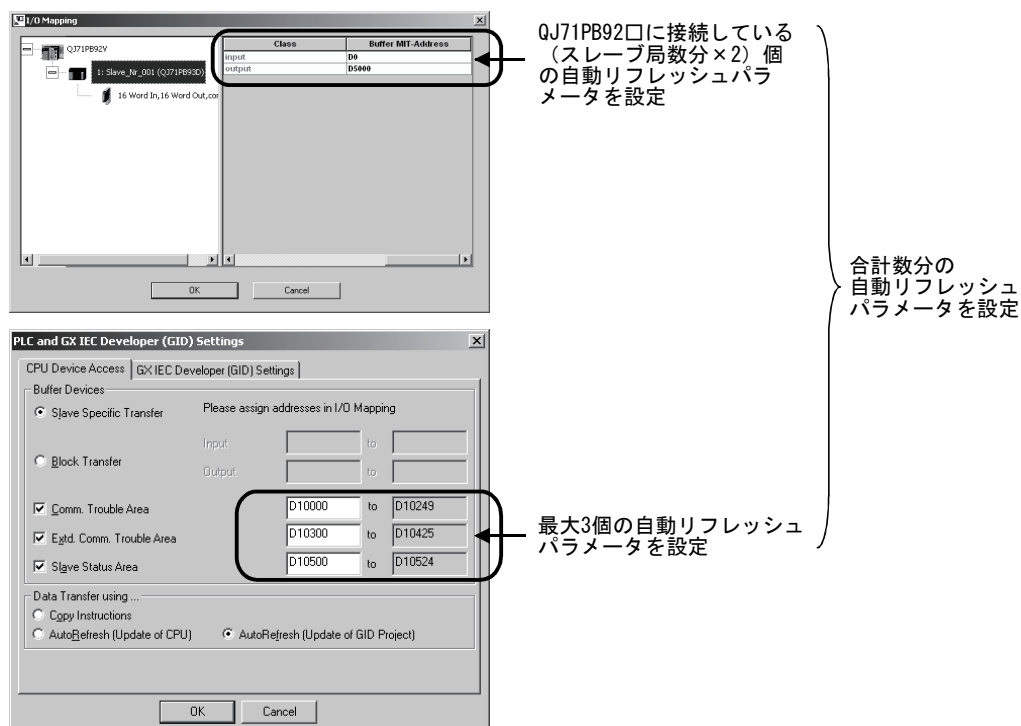


図5-18 QJ71PB92□の自動リフレッシュパラメータ設定個数（“Slave Specific Transfer”で設定時）

(4) Optionsコマンド

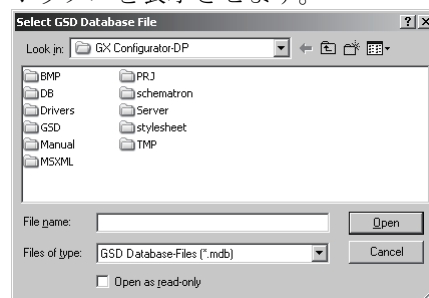
GSDデバイスデータベースの選択, およびプロジェクトファイルを開くときに優先して使用するGSDデータを設定します。

(a) 基本操作

- ① [Setup]→[Options]メニューを選択し, “Options” ダイアログボックスを表示させます。
“Options” ダイアログボックスについては, 本節(4) (b)を参照してください。
- ② 下記の設定を行います。
 - ・ GSDデバイスデータベースの選択 …………… 本節(4) (a-1) 参照
 - ・ プロジェクトファイル内のGSDデータの扱いを設定する場合は, “GSD database has priority” で設定します。
“GSD database has priority” については, 本節(4) (c)を参照してください。
- ③ **OK** ボタンをクリックし, 設定を終了します。

(a-1) GSDデバイスデータベースの選択

- ① **Browse** ボタンをクリックし, “Select GSD Database File” ダイアログボックスを表示させます。



- ② 使用するGSDデバイスデータベースのファイルを選択します。
- ③ **Open** ボタンをクリックし, GSDデバイスデータベースの選択を終了します。

(b) 表示／設定画面

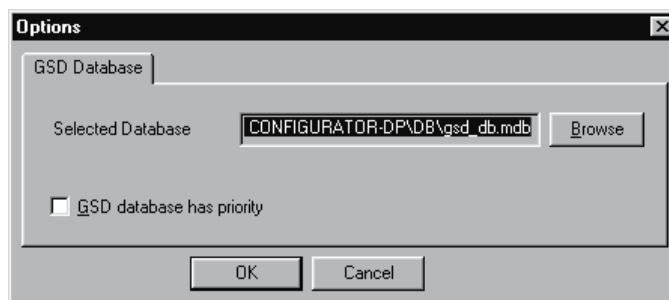


図5-19 Optionsダイアログボックス

表5-19 Optionsダイアログボックスの項目

項 目	内 容
Select Database Browse ボタン	GX Configurator-DPが内部に持つGSDデバイスデータベースを選択します。
GSD database has priority	プロジェクトファイルを開くときに優先して使用するGSDデータを、下記いずれかに設定します。 ・プロジェクトファイルに保存されているGSDデータ ・GSDデバイスデータベースに登録されているGSDデータ 本項目設定の詳細は、本節(4)(c)を参照してください。

(c) GSD database has priorityについて

“GSD database has priority” の設定により、GSDデータを下記のように扱います。

(c-1) GSD database has priorityのチェックをはずした場合

GSDデータの読み出し処理／保存処理の詳細を、下記に示します。

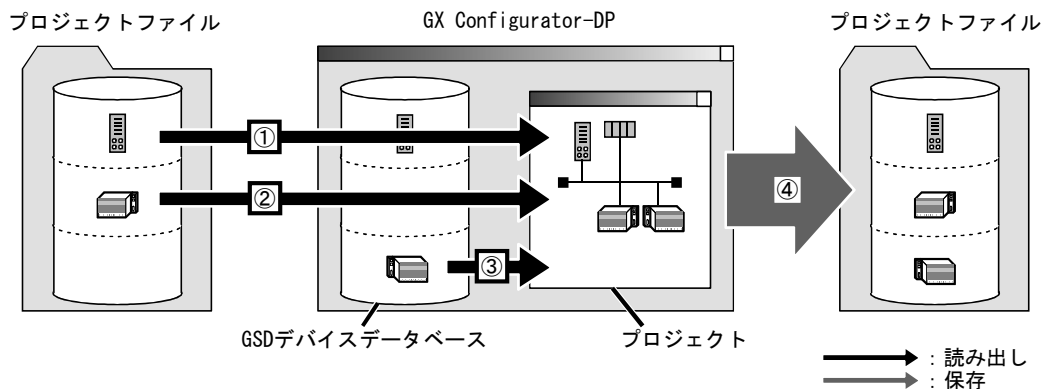


図5-20 GSDデータの読み出し処理／保存処理のイメージ

表5-20 GSDデータの読み出し処理／保存処理

読み出し／ 保存区分	No.	GSDデータの状態	処 理
読み出し	①	プロジェクトファイルとGSDデバイスデータベースの両方に、同一機種のGSDデータが保存されている場合	プロジェクトファイルのGSDデータを読み出します。
	②	プロジェクトファイルのみにGSDデータが保存されている場合	プロジェクトファイルのGSDデータを読み出します。
	③*1	GSDデバイスデータベースのみにGSDデータが保存されている場合	GSDデバイスデータベースのGSDデータを読み出します。
	—*1	プロジェクトファイルとGSDデバイスデータベースの両方とも、GSDデータベースが保存されていない場合	プロジェクトを開けません。 必要な機種のGSD (DDB) ファイルをGSDデバイスデータベースに追加し、プロジェクトを開いてください。 詳細については、5.2節(2)を参照してください。
保存	④	—	プロジェクトで使用しているすべてのGSDデータを、プロジェクトファイルに保存します。

*1 GX Configurator-DP Version6 以前で保存したプロジェクトを開く場合は、“③” または “—” の読み出し処理を行います。

備 考

プロジェクトから削除されて使われなくなったスレーブ局のGSDデータは、プロジェクトファイルから削除されます。

(c-2) GSD database has priorityにチェックしている場合

GSDデータの読み出し処理／保存処理の詳細を、下記に示します。

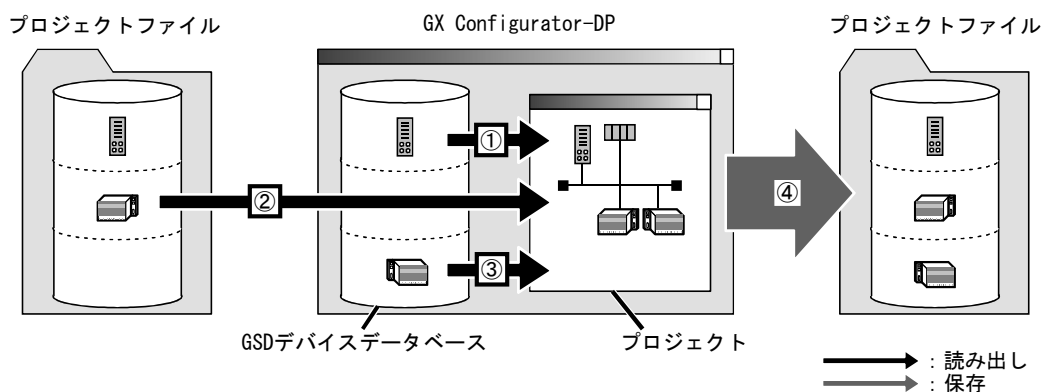


図5-21 GSDデータの読み出し処理／保存処理のイメージ

表5-21 GSDデータの読み出し処理／保存処理

読み出し／ 保存区分	No.	GSDデータの状態	処 理
読み出し	①	プロジェクトファイルとGSDデバイスデータベースの両方に、同一機種のGSDデータが保存されている場合	GSDデバイスデータベースのGSDデータを読み出します。
	②	プロジェクトファイルのみにGSDデータが保存されている場合	プロジェクトファイルのGSDデータを読み出します。
	③*1	GSDデバイスデータベースのみにGSDデータが保存されている場合	GSDデバイスデータベースのGSDデータを読み出します。
	—*1	プロジェクトファイルとGSDデバイスデータベースの両方とも、GSDデータベースが保存されていない場合	プロジェクトを開けません。 必要な機種のGSD (DDB) ファイルをGSDデバイスデータベースに追加し、プロジェクトを開いてください。 詳細については、5.2節(2)を参照してください。
保存	④	—	プロジェクトで使用しているすべてのGSDデータを、プロジェクトファイルに保存します。

*1 GX Configurator-DP Version6 以前で保存したプロジェクトを開く場合は、
“③” または “—” の読み出し処理を行います。

備 考

プロジェクトから削除されて使われなくなったスレーブ局のGSDデータは、プロジェクトファイルから削除されます。

5.3 Onlineメニュー

Onlineメニューは、接続先の設定、パラメータの書込み、PROFIBUS通信の開始／停止などを行う機能を含みます。

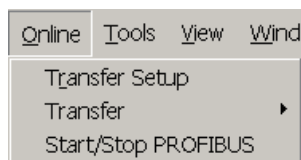


図5-22 Onlineメニュー

表5-22 Onlineメニューのコマンド

コマンド	内 容
Transfer Setup	パソコンとシーケンサCPUの接続を設定します。
Transfer	“Transfer Setup” ダイアログボックスで指定したユニットに対して、プロジェクトのダウンロードなどを行います。
Download to Module	プロジェクトをユニットにダウンロードします。 プロジェクトの書込み中は、入出力データ通信を停止し、書込みが完了すると再開されます。
Verify	プロジェクトの設定内容と、ユニットにダウンロードされている設定内容を照合します。 A(1S)J71PB92DまたはQJ71PB92Dの場合、照合中は入出力データ通信を停止し、照合が終了すると再開されます。 上記以外のマスタユニットの場合は、照合中に入出力データ通信は停止しません。 照合結果については、本節(2)(b)を参照してください。
Upload Config. Image	マスタユニット内の設定イメージファイルを、パソコンにアップロードします。
Download Config. Image	パソコン内の設定イメージファイルを、マスタユニットにダウンロードします。
Start/Stop PROFIBUS	PROFIBUS-DPの入出力データ通信を起動／停止します。

備 考

本メニューは、マスタユニットのプロジェクトを最前面に表示している場合のみ、実行できます。
マスタユニットのプロジェクトを最前面に表示していない場合は、実行できません。

(1) Transfer Setupコマンド

パソコンとシーケンサCPUの接続を設定します。
詳細については、9章を参照してください。

(2) Transferコマンド

“Transfer Setup”ダイアログボックスで指定したユニットに対して、プロジェクトのダウンロードなどを行います。

Transferコマンド内のコマンドを実行する前に、下記の操作を行ってください。

- ① 接続しているマスタユニットと、プロジェクトのマスタユニットが同じ機種か確認します。
マスタユニットが違う機種の場合は、下記いずれかを行います。
 - ・接続しているマスタユニットを、プロジェクトのマスタユニットと同じ機種に交換します。
 - ・“Change Master Type”コマンドで、プロジェクトのマスタユニットを接続しているマスタユニットに変更します。
“Change Master Type”コマンドについては、5.1節(7)を参照してください。
- ② シーケンサCPUとマスタユニット間が、交信していないことを確認します。
(FROM/TO/MOV命令の交信を含む。)
- ③ パソコンとシーケンサCPU間を接続したケーブルが、正しく接続されていることを確認します。
- ④ パソコンとシーケンサCPU間の接続を設定します。
接続の設定については、9章を参照してください。
- ⑤ プロジェクトを保存します。
プロジェクトの保存方法については、下記を参照してください。
 - ・上書き保存 5.1節(4)
 - ・名前を付けて保存 5.1節(5)
- ⑥ [Online]→[Transfer]以下のメニューを選択し、プロジェクトのダウンロードなどを行います。

(a) Download to Moduleコマンド

プロジェクトをユニットにダウンロードします。

プロジェクトの書き込み中は、入出力データ通信を停止し、書き込みが完了すると再開されます。

(a-1) 基本操作

① 下記いずれかを実行し、確認のダイアログボックスを表示させます。

- ・ [Online]→[Transfer]→[Download to Module]メニューをクリックします。
- ・ グラフィカルネットワークエディタのマスタ局の図上で右クリックし、[Transfer]→[Download to Module]メニューをクリックします。

② **Yes** ボタンをクリックし、プロジェクトをユニットにダウンロードします。

自動リフレッシュパラメータを書き込むときに、QCPUがRUN状態の場合は、下記ダイアログボックスが表示されます。

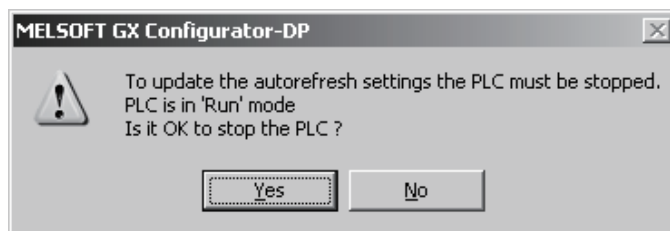


図5-23 自動リフレッシュパラメータ書き込み時にQCPUがRUN状態の場合

Yes ボタンをクリックするとQCPUがSTOP状態になり、自動リフレッシュパラメータがQCPUに書き込まれます。

③ 自動リフレッシュパラメータを書き込んだ場合は、QCPUをリセットします。

(a-2) ダウンロード実行時の注意事項

- ・ 接続したマスタユニットとプロジェクトの設定が違う場合

接続したマスタユニットとプロジェクトのマスタユニットが違う場合は、下記ダイアログボックスが表示されます。



図5-24 マスタユニットが違う場合

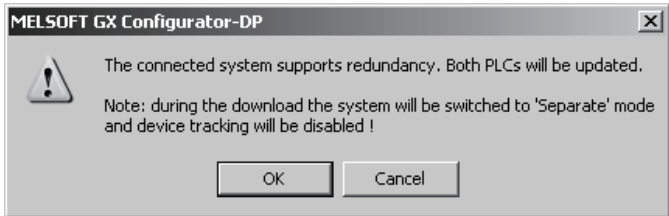
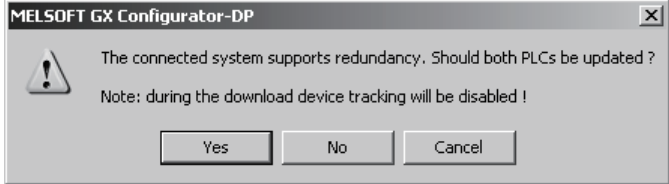
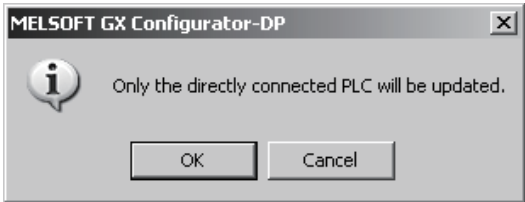
上記ダイアログボックスが表示された場合は、“Change Master Type” コマンドで、マスタユニットのタイプを、接続しているマスタユニットと同じタイプに変更してください。(5.1節(7)参照)

- ・ 自動リフレッシュ設定の更新
“PLC and GX IEC Developer (GID) Settings” ダイアログボックスで,
“AutoRefresh (Update of CPU)” を選択している場合は, ダウンロード時に自動リフレッシュ設定がQCPUに書き込まれます。(5.2節(3)参照)
“AutoRefresh (Update of GID Project)” を選択している場合は, GX IEC Developerのプロジェクトが更新されます。(自動リフレッシュ設定は, QCPUに書き込まれません。)
- ・ A(1S)J71PB92Dの動作モード
A(1S)J71PB92Dユニットを使用する場合は, ユニット正面のモード設定スイッチを1 (パラメータ設定モード) に設定してください。
モードの変更は, シーケンサCPUをリセットすると反映されます。

(a-3) 接続先が二重化システムの場合

二重化CPUの運転モードにより、ダウンロード先が異なります。

表5-23 運転モードによるダウンロード先

項 目	ダウンロード先		内 容
	A系とB系の 両方	片側の系	
バックアップモード	○	×	 <p><input type="button" value="OK"/> ボタンをクリックすると、A系とB系の両方にダウンロードされます。ダウンロード時は、二重化CPUの運転モードがセパレートモードに変更され、トラッキング転送が停止します。</p>
セパレートモード	○	○*1	 <p><input type="button" value="Yes"/> ボタンをクリックすると、A系とB系の両方にダウンロードされます。</p> <p><input type="button" value="No"/> ボタンをクリックすると、片側の系*1にダウンロードされます。ダウンロード時は、二重化CPUのトラッキング転送が停止します。</p>
デバッグモード	×	○	 <p><input type="button" value="OK"/> ボタンをクリックすると、ケーブル（RS-232ケーブル、USBケーブルなど）を接続した二重化CPUの系に、ダウンロードされます。</p>

○：ダウンロード可能 ×：ダウンロード不可能

*1 “Transfer Setup” ダイアログボックスの“Target system”で設定した二重化CPUの系に、ダウンロードされます。

ただし、“Target system”で“Not specified”に設定した場合は、ケーブル（RS-232ケーブル、USBケーブルなど）を接続した二重化CPUの系に、ダウンロードされます。

ポイント

二重化CPUのトラッキングケーブルが接続されていない場合は、二重化CPUの運転モードに関係なく、ケーブル（RS-232ケーブル、USBケーブルなど）を接続した二重化CPUの系に、ダウンロードされます。

(b) Verifyコマンド

プロジェクトの設定内容と、ユニットにダウンロードされている設定内容を照合します。

A(1S)J71PB92DまたはQJ71PB92Dの場合、照合中は入出力データ通信を停止し、照合が終了すると再開されます。

上記以外のマスタユニットの場合は、照合中に入出力データ通信は停止しません。

(b-1) 基本操作

- ① 下記いずれかを実行すると、プロジェクトを照合します。
- ・ [Online]→[Transfer]→[Verify]メニューをクリックします。
 - ・ グラフィカルネットワークエディタのマスタ局の図上で右クリックし、[Transfer]→[Verify]メニューをクリックします。

(b-2) 表示／設定画面

照合結果は、下記のように表示されます。

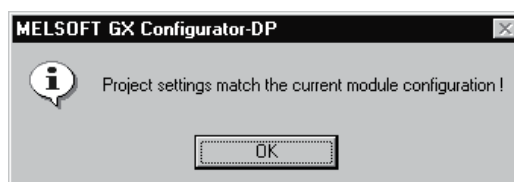


図5-25 一致した場合

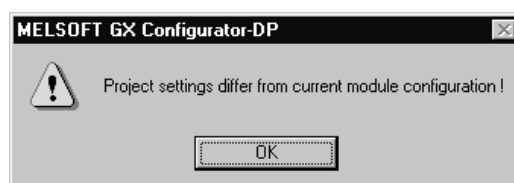
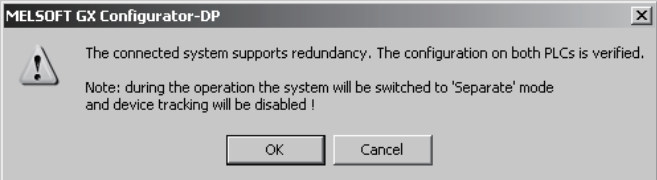
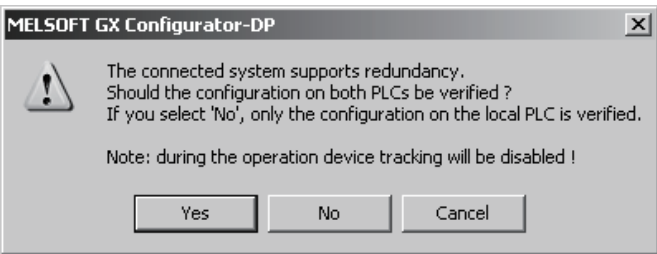
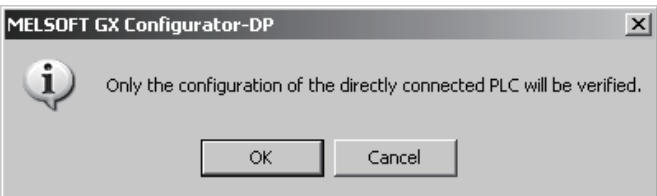


図5-26 不一致の場合

(b-3) 接続先が二重化システムの場合

二重化CPUの運転モードにより、照合の対象が異なります。

表5-24 運転モードによる照合の対象

項 目	照合の対象		内 容
	A系とB系の 両方	片側の系	
バックアップモード	○	×	 <p><input type="button" value="OK"/> ボタンをクリックすると、A系とB系の両方に対して照合が行われます。</p> <p>照合時は、二重化CPUの運転モードがセパレートモードに変更され、トラッキング転送が停止します。</p>
セパレートモード	○	○*1	 <p><input type="button" value="Yes"/> ボタンをクリックすると、A系とB系の両方に対して照合が行われます。</p> <p><input type="button" value="No"/> ボタンをクリックすると、片側の系*1に対して照合が行われます。</p> <p>照合時は、二重化CPUのトラッキング転送が停止します。</p>
デバッグモード	×	○	 <p><input type="button" value="OK"/> ボタンをクリックすると、ケーブル（RS-232ケーブル、USBケーブルなど）を接続した二重化CPUのマスタユニットに対して、照合が行われます。</p>

○：照合可能 ×：照合不可能

*1 “Transfer Setup” ダイアログボックスの“Target system”で設定した二重化CPUの系に対して、照合が行われます。

ただし、“Target system”で“Not specified”に設定した場合は、ケーブル（RS-232ケーブル、USBケーブルなど）を接続した二重化CPUのマスタユニットに対して、照合が行われます。

ポイント

二重化CPUのトラッキングケーブルが接続されていない場合は、二重化CPUの運転モードに関係なく、ケーブル（RS-232ケーブル、USBケーブルなど）を接続した二重化CPUのマスタユニットに対して、照合が行われます。

(c) Upload Config. Imageコマンド

マスタユニット内の設定イメージファイルを、パソコンにアップロードします。

(c-1) 基本操作

- ① [Online]→[Transfer]→[Upload Config. Image]メニューをクリックし、“Select file for configuration image”ダイアログボックスを表示させます。
“Select file for configuration image”ダイアログボックスについては、本節(2)(c-2)を参照してください。
- ② 設定イメージファイルを選択します。
- ③ Save ボタンをクリックし、設定イメージファイルをパソコンにアップロードします。

(c-2) 表示／設定画面

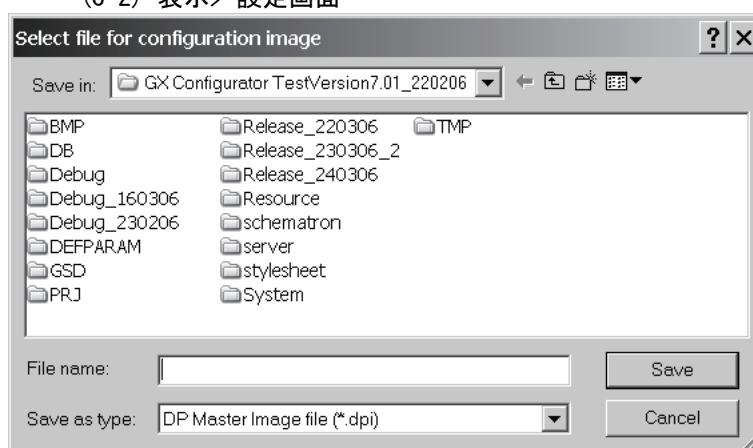


図5-27 Select file for configuration imageダイアログボックス

表5-25 Select file for configuration imageダイアログボックスの項目

項 目	内 容
Save in	設定イメージファイルを保存するフォルダを選択します。
File name	設定イメージファイルのファイル名を入力します。
Save ボタン	入力されたファイル名で設定イメージファイルを保存します。

(c-3) Upload Config. Imageコマンド実行時の注意事項

本コマンドでは、マスタユニット内のパラメータがパソコンにアップロードされます。

シーケンサCPUに保存されるパラメータ（自動リフレッシュ設定など）は、アップロードされません。（5.1節(6)(b-1)参照）

(c-4) 接続先が二重化システムの場合

ケーブル（RS-232ケーブル、USBケーブルなど）を接続した二重化CPUのマスタユニットが、アップロードの対象になります。

備 考

設定イメージファイルについての詳細は、5.1節(6)(b)を参照してください。

(d) Download Config. Imageコマンド

パソコン内の設定イメージファイルを、マスタユニットにダウンロードします。

(d-1) 基本操作

- ① [Online]→[Transfer]→[Download Config. Image]メニューをクリックし、“Select file for configuration image”ダイアログボックスを表示させます。

“Select file for configuration image”ダイアログボックスについては、本節(2)(d-2)を参照してください。

- ② 設定イメージファイルのファイル名を入力します。
 ③ **Save** ボタンをクリックし、設定イメージファイルをマスタユニットにダウンロードします。

(d-2) 表示／設定画面

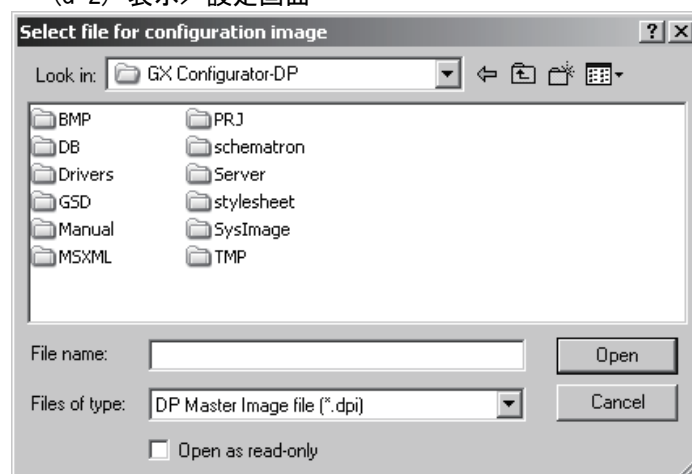


図5-28 Select file for configuration imageダイアログボックス

表5-26 Select file for configuration imageダイアログボックスの項目

項 目	内 容
Look in	設定イメージファイルが格納されているフォルダを選択します。
File name	選択した設定イメージファイルのファイル名が表示されます。
Open as read-only	設定イメージファイルを、読み取り専用ファイルとして開く場合にチェックします。
Open ボタン	選択した設定イメージファイルをダウンロードします。

(d-3) Download Config. Imageコマンド実行時の注意事項

ダウンロードする設定イメージファイルには、下記のいずれかを選択してください。

- ・ Configuration Imageコマンドでエクスポートした設定イメージファイル (5.1節(6)(b)参照)
- ・ Upload Config. Imageコマンドでアップロードした設定イメージファイル (本節(2)(c)参照)

また、プロジェクトのマスタユニットのタイプは、設定イメージファイルのマスタユニットのタイプと同じタイプにしてください。

マスタユニットのタイプが異なる場合は、ダウンロードできません。

(d-4) 接続先が二重化システムの場合

二重化CPUの運転モードにより、ダウンロード先が異なります。（本節(2) (a-3) 参照）

備 考

設定イメージファイルについての詳細は、5.1節(6) (b)を参照してください。

(3) Start/Stop PROFIBUSコマンド

PROFIBUS-DPの入出力データ交信を起動／停止します。

(a) 基本操作

- ① [Online]→[Transfer]→[Start/Stop PROFIBUS]メニューをクリックし、
PROFIBUS-DPの入出力データ交信を起動／停

5.4 Toolsメニュー

Toolsメニューは、Webベースオンラインアクセス機能のサーバ／クライアント、およびGX Configurator-STの起動などを行う機能を含みます。

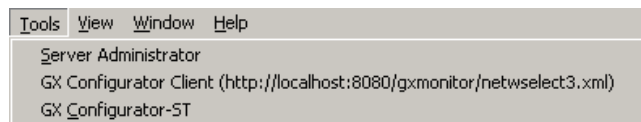


図5-29 Toolsメニュー

表5-27 Toolsメニューのコマンド

コマンド	内 容
Server Administrator	Webベースオンラインアクセス機能のサーバを起動／停止します。 Webベースオンラインアクセス機能については、10章を参照してください。
GX Configurator Client	Webブラウザを起動し、Webベースオンラインアクセス機能のサーバにアクセスします。
GX Configurator-ST	GX Configurator-STを起動します。

(1) GX Configurator-STの起動

GX Configurator-STを起動します。

GX Configurator-STでは、MELSEC-STシステムの設定、モニタ、テストなどができます。

GX Configurator-STの詳細は、GX Configurator-ST Version1 オペレーティングマニュアルを参照してください。

備 考

本コマンドは、GX Configurator-STがインストールされている場合のみ、実行できます。

GX Configurator-STがインストールされていない場合は、実行できません。

(a) 基本操作

[Tools]→[GX Configurator-ST]メニューを選択し、GX Configurator-STを起動させます。

ポイント

GX Configurator-DPからGX Configurator-STを起動できますが、終了はできません。
GX Configurator-STを終了する場合は、GX Configurator-STを操作して終了してください。

5.5 Viewメニュー

Viewメニューは、ツールバーやステータスバーの表示／非表示、またはグラフィカルネットワークエディタの表示を拡大／縮小する機能を含みます。

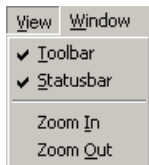


図5-30 Viewメニュー

表5-28 Viewメニューのコマンド

コマンド	内 容
Toolbar	ツールバーの表示／非表示を切り換えます。
Statusbar	ステータスバーの表示／非表示を切り換えます。
Zoom In	グラフィカルネットワークエディタの表示を拡大します。
Zoom Out	グラフィカルネットワークエディタの表示を縮小します。

(1) Toolbarコマンド

ツールバーの表示／非表示を切り換えます。

ツールバーについては、5章(2)(b)を参照してください。

(a) 基本操作

[View]→[Toolbar]メニューを選択し、ツールバーの表示／非表示を切り換えます。

(2) Statusbarコマンド

ステータスバーの表示／非表示を切り換えます。

ステータスバーには、選択した項目の説明、GX Configurator-DPの状態などを表示します。

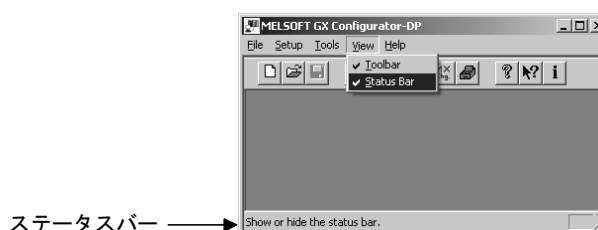


図5-31 ステータスバー

(a) 基本操作

[View]→[Statusbar]メニューを選択し、ステータスバーの表示／非表示を切り換えます。

(b) 表示／設定画面

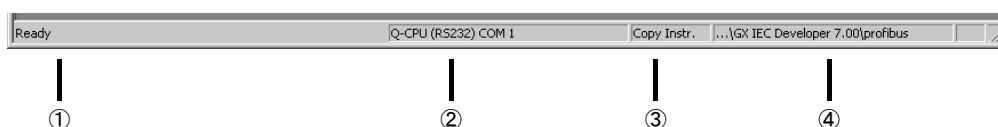


図5-32 ステータスバーの表示

表5-29 ステータスバーの項目

No.	項 目	内 容
①	選択している項目の説明	選択している項目（メニューなど）の説明が表示されます。
②	接続先の表示	“Transfer Setup” ダイアログボックスで設定した接続先が表示されます。
③	自動リフレッシュの有効／無効	自動リフレッシュの有効／無効が表示されます。 TO/FROM : 自動リフレッシュ無効 AutoRefresh : 自動リフレッシュ有効
④	GX IEC Developerのプロジェクトパス	“PLC and GX IEC Developer (GID) Settings” ダイアログボックスで設定した、GX IEC Developerのプロジェクトパスが表示されます。

(3) Zoom Inコマンド

グラフィカルネットワークエディタの表示を拡大します。

備 考

本コマンドは、マスタユニットのプロジェクトを最前面に表示している場合のみ、実行できます。
マスタユニットのプロジェクトを最前面に表示していない場合は、実行できません。

(a) 基本操作

[View]→[Zoom In]メニューを選択し、グラフィカルネットワークエディタの表示を拡大します。

(4) Zoom Outコマンド

グラフィカルネットワークエディタの表示を縮小します。

備 考

本コマンドは、マスタユニットのプロジェクトを最前面に表示している場合のみ、実行できます。
マスタユニットのプロジェクトを最前面に表示していない場合は、実行できません。

(a) 基本操作

[View]→[Zoom Out]メニューを選択し、グラフィカルネットワークエディタの表示を縮小します。

5.6 Windowメニュー

Windowメニューには、ダイアログボックスの配置を操作する機能を含みます。

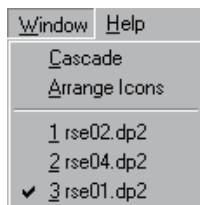


図5-33 Windowメニュー

表5-30 Windowメニューのコマンド

コマンド	内 容
Cascade	開いているダイアログボックスを、重ねて表示します。
Arrange Icons	最小化されたダイアログボックスを整列します。
1, 2, 3, ...	選択されたプロジェクトのダイアログボックスを、最前面に表示します。

5.7 Helpメニュー

Helpメニューには、ヘルプを表示する機能、ソフトウェアバージョンを表示する機能を含みます。



図5-34 Helpメニュー

表5-31 Helpメニューのコマンド

コマンド	内 容
Index	GX Configurator-DPのヘルプを表示します。
Using Help	ヘルプの使い方を表示します。
About	ソフトウェアバージョンを表示します。

(1) Indexコマンド

GX Configurator-DPのヘルプを表示します。

(a) 基本操作

[Help]→[Index]メニューを選択すると、GX Configurator-DPのヘルプを表示させます。

ポイント
キーボードから[F1]キーを入力すると、キー入力時に使用していた機能のヘルプを表示します。

(2) Using Helpコマンド

ヘルプの使い方を表示します。

(a) 基本操作

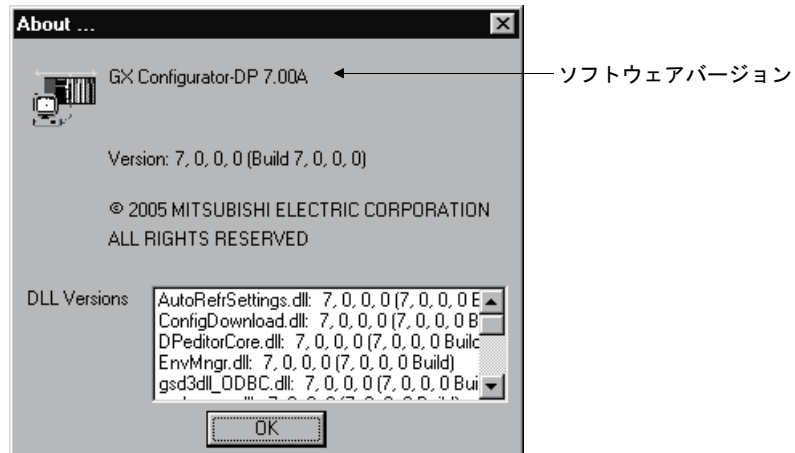
[Help]→[Using Help]メニューを選択し、ヘルプの使い方を表示させます。

(3) Aboutコマンド

GX Configurator-DPのソフトウェアバージョンを表示します。

(a) 基本操作

- ① [Help]→[About]メニューを選択し，“About”ダイアログボックスを表示させます。



(GX Configurator-DP Version 7.00Aの場合)

- ② ボタンをクリックし，“About”ダイアログボックスを閉じます。

第6章 マスタユニットのパラメータ設定

本章では、マスタユニットの各パラメータを設定し、保存する方法を説明します。

(1) 概 要

マスタユニットの各パラメータ設定は、グラフィカルネットワークエディタから、各パラメータの設定用ダイアログボックスを表示させて行います。
グラフィカルネットワークエディタについては、本章(2)を参照してください。

各パラメータの設定後は、プロジェクトを保存します。
保存方法については、下記を参照してください。

- ・ 上書き保存…………… 5.1節(4)
- ・ 名前を付けて保存…………… 5.1節(5)

プロジェクトの保存後は、プロジェクトをマスタユニットに書き込みます。
詳細については、下記を参照してください。

- ・ “Download to Module” コマンド…………… 5.3節(2)(a)
- ・ “Module Configuration” ページ…………… 10章(3)(d)

(2) グラフィカルネットワークエディタ

グラフィカルネットワークエディタで、各パラメータの設定、スレーブ局の追加などを行います。

グラフィカルネットワークエディタは、下記いずれかを行い表示させます。

- ・新規にマスタユニットのプロジェクトを作成…………… 3.3.1項
- ・既存のマスタユニットのプロジェクトファイルを開く…… 3.3.2項

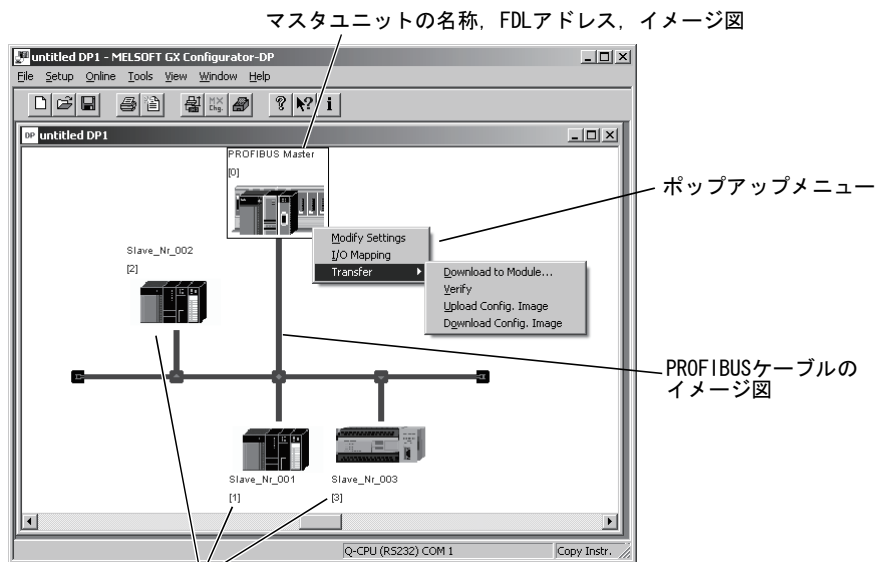


図6-1 グラフィカルネットワークエディタ

(a) 機能一覧

グラフィカルネットワークエディタの機能を下記に示します。

表6-1 グラフィカルネットワークエディタの機能一覧

機 能	内 容	参照項
マスタパラメータ設定	マスタ局の伝送速度, 局番などを設定します。	本章(3)
バスパラメータ設定	PROFIBUS-DPのバスパラメータを設定します。	本章(4)
スレーブ局の追加	PROFIBUS-DPにスレーブ局を追加します。	本章(5)
スレーブ局のコピー	PROFIBUS-DP上のスレーブ局をコピーします。	本章(6)
スレーブ局の削除	PROFIBUS-DPからスレーブ局を削除します。	本章(7)
スレーブパラメータの設定	各スレーブ局のパラメータを設定します。	本章(8)

(b) ポップアップメニュー

ポップアップメニューは、グラフィカルネットワークエディタ上で右クリックし、表示させます。

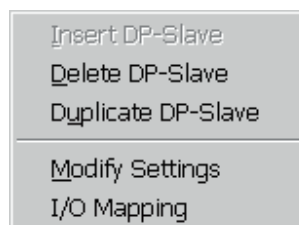


図6-2 ポップアップメニュー

表6-2 ポップアップメニューの項目

項 目	内 容	参照項
Insert DP-Slave ^{*1}	PROFIBUS-DPにスレーブ局を追加します。	本章(5)
Delete DP-Slave ^{*2}	PROFIBUS-DPからスレーブ局を削除します。	本章(7)
Duplicate DP-Slave ^{*2}	PROFIBUS-DP上のスレーブ局をコピーします。	本章(6)
Modify Settings ^{*3}	各パラメータを設定します。	マスタパラメータ
		バスパラメータ
		スレーブパラメータ
I/O Mapping	I/O Mappingを設定します。	8章
Transfer ^{*4}	プロジェクトのダウンロードまたは照合を行います。	Download to Module
		Verify

*1 ケーブルの図上で右クリックした場合のみ、選択可能です。

*2 スレーブ局の図上で右クリックした場合のみ、選択可能です。

*3 マスタ局またはスレーブ局の図上で右クリックした場合のみ、選択可能です。

*4 マスタ局の図上で右クリックした場合のみ表示します。

(3) マスタパラメータ設定

マスタ局の伝送速度、局番などを設定します。

(a) 基本操作

- ① グラフィカルネットワークエディタで下記いずれかを実行し，“Master Settings”ダイアログボックスを表示させます。
 - ・マスタ局の図をダブルクリックします。
 - ・マスタ局の図上で右クリックし，[Modify Settings]メニューを選択します。
- ② マスタパラメータを設定します。
マスタパラメータの設定については，本章(3) (b)を参照してください。
- ③ OK ボタンをクリックし，マスタパラメータの設定を終了します。

(b) 表示／設定画面

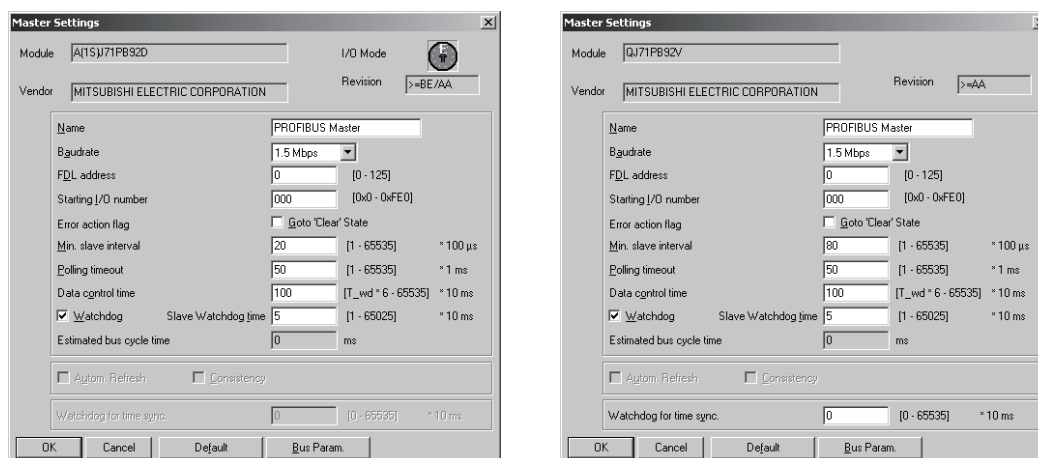


図6-3 マスタパラメータ設定 (A(1S)J71PB92DとQJ71PB92Vの場合)

表6-3 Master Settingsダイアログボックスの項目

項 目	内 容
I/O Mode	マスタユニットの動作モードが表示されます。
Name	マスタユニットの名称を設定します。 設定範囲：英数字17文字まで
Baudrate	PROFIBUS-DPの伝送速度を設定します。 設定範囲：9.6kbps～12Mbps（デフォルト：1.5Mbps）
FDL address	FDLアドレス（局番）を設定します。 設定範囲：0～125（デフォルト：0）
Starting I/O number	マスタユニットの先頭入出力番号の上2桁を設定します。 GX Configurator-DPの“POU for GX IEC Developer”コマンドを使用する場合に設定します。 設定範囲：00 _H ～*1参照（デフォルト：00 _H ）

*1 “Starting I/O number” の設定範囲の上限は，マスタユニットを装着しているCPUユニットにより変わります。
詳細については，CPUユニットのマニュアルを参照してください。

(次のページへつづく)

表6-3 Master Settingsダイアログボックスの項目（続き）

項 目	内 容
Error action flag	<p>マスタユニットから全スレーブ局に対してクリア要求を送信する場合にチェックします。</p> <p>1台でもスレーブ局に通信障害が発生すると、全スレーブ局に対してクリア要求が送信されます。</p> <p>チェックなし：全スレーブ局にクリア要求を送信しない</p> <p>チェックあり：全スレーブ局にクリア要求を送信する</p>
Min. slave interval	<p>スレーブポーリングサイクルから、次のスレーブポーリングサイクルまでの必要最小時間を設定します。</p> <p>本設定値は、接続しているすべてのスレーブ局に対して有効となります。</p> <p>必要時間が最も長いスレーブ局の値を設定してください。</p> <p>設定範囲：1～65535（単位：$\times 100 \mu s$，デフォルト：*2参照）</p>
Polling timeout	<p>マスタ局間通信時に、リクエストが応答を受け取るのに要する最大時間を設定します。</p> <p>設定範囲：1～65535（単位：$\times 1ms$，デフォルト：$50 \times 1ms$）</p>
Data control time	<p>マスタユニットがスレーブ局の動作状態を通知する時間を設定します。</p> <p>設定値は、スレーブ局のウォッチドグタイマの設定値に対し、6倍以上の値を設定してください。</p> <p>設定範囲：1～65535（単位：$\times 10ms$，デフォルト：$100 \times 10ms$）</p>
Watchdog	<p>全スレーブ局のウォッチドグタイマを一括で有効にする場合にチェックします。</p> <p>マスタパラメータの“Watchdog”をチェックすると、スレーブパラメータの“Watchdog”は設定できなくなります。</p> <p>チェックなし：全スレーブ局のウォッチドグタイマ設定が無効</p> <p>チェックあり：全スレーブ局のウォッチドグタイマ設定が有効</p>
Slave Watchdog time	<p>全スレーブ局のウォッチドグタイマの値を一括で設定します。</p> <p>“Watchdog”をチェック時に、設定可能となります。</p> <p>設定範囲：1～65025（単位：$\times 10ms$，デフォルト：$5 \times 10ms$）</p>
Estimated bus cycle time	<p>バスサイクルタイムの予測最小間隔が表示されます。</p> <p>他のマスタユニットとの通信および非周期データ通信などを行った場合、バスサイクルタイムは表示される値より長くなります。</p> <p>本項目に表示される値を使用し、“Min. slave interval”や“Watchdog”を設定する場合は、他のマスタユニットとの通信および非周期データ通信などの時間を考慮し、十分な時間を設定してください。</p> <p>バスサイクルタイムについては、マスタユニットのマニュアルを参照してください。</p>
Autom. Refresh	<p>自動リフレッシュの有効／無効が表示されます。</p> <p>自動リフレッシュの有効／無効は、“PLC and GX IEC Developer (GID) Settings”で設定します。（5.2節(3)参照）</p> <p>チェックなし：自動リフレッシュ無効</p> <p>チェックあり：自動リフレッシュ有効</p>

(次のページへつづく)

表6-3 Master Settingsダイアログボックスの項目（続き）

項 目	内 容
Consistency	自動リフレッシュ実行時に、泣き別れ防止機能を使用する場合にチェックします。 “Autom. Refresh” が有効の場合に、チェック可能となります。 泣き別れ防止機能については、QJ71PB92□のマニュアルを参照してください。 チェックなし：泣き別れ防止機能無効 チェックあり：泣き別れ防止機能有効
Watchdog for time sync.	タイムマスタからの時計データの送信間隔を監視する時間を設定します。 マスタユニットがQJ71PB92Vの場合に設定可能になります。 設定範囲：0～65535（単位：×10ms，デフォルト：0×10ms）
Bus Param. ボタン	バスパラメータを設定します。 バスパラメータの設定については、本章(4)を参照してください。

*2 “Min. slave interval” のデフォルトは、マスタユニットの種類によって下記の値になります。

- A(1S)J71PB92D : 20×100 μ s
- QJ71PB92D : 20×100 μ s
- QJ71PB92V : 80×100 μ s
- FX_{3U}-64DP-M : 30×100 μ s

ポイント

<p>伝送速度を変更する場合は、スレーブ局の電源をOFFしてください。 電源をOFFしないと、スレーブ局は変更された伝送速度に同期できなくなる場合があります。</p>

(c) QJ71PB92□以外のユニットのインテリジェント機能ユニットパラメータを設定する場合

(c-1) GX Developerを使用している場合

GX Configurator-DPで自動リフレッシュパラメータを書込み後に、GX Developerの“Read from PLC”でインテリジェント機能ユニットパラメータを読み出してください。

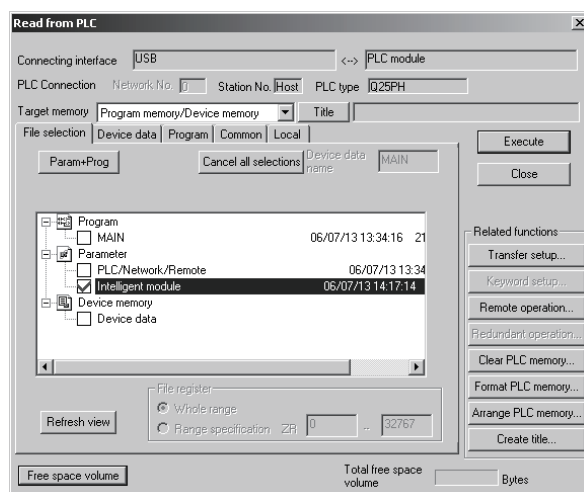


図6-4 GX DeveloperのPC読出

上記操作を行わずに、QJ71PB92□以外のユニットのインテリジェント機能ユニットパラメータをQCPUに書き込むと、設定したQJ71PB92□の自動リフレッシュパラメータが削除されます。

備考

(1) GX Developerのインテリジェント機能ユニットユーティリティでは、QJ71PB92□の製品形名を“*”で表示します。

Parameter setting module			
Intelligent function module parameter			
Start I/O No.	Initial setting	Auto refresh	
0001	Available	Available	
0002	Available	Available	
0040	Available	Available	
0050	Available	Available	

図6-5 QJ71PB92□の表示

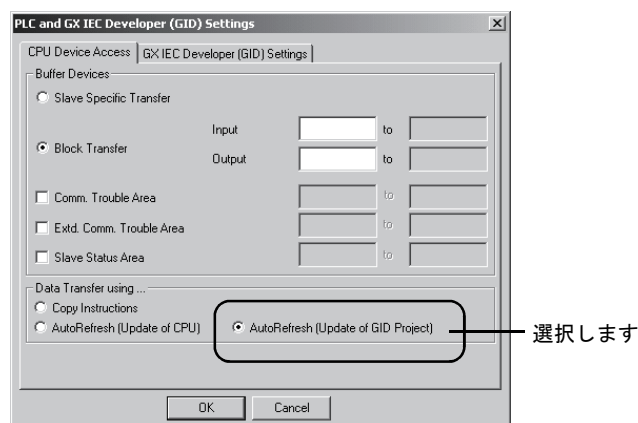
(2) Webベースオンラインアクセス機能の“Auto Refresh Settings”ページで、自動リフレッシュパラメータを確認できます。(10章(3)(e)参照)

(c-2) GX IEC Developerを使用している場合

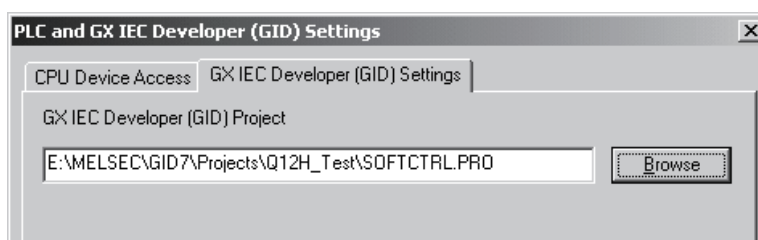
下記の手順で自動リフレッシュをQCPUに書き込んでください。

下記の手順を行わずに、GX IEC Developerで自動リフレッシュ設定を編集すると、QJ71PB92□の自動リフレッシュパラメータが削除されます。

- ① “PLC and GX IEC Developer (GID) Settings” ダイアログボックスで
“AutoRefresh (Update of GID Project)” を選択します。(5.2節(3)参照)

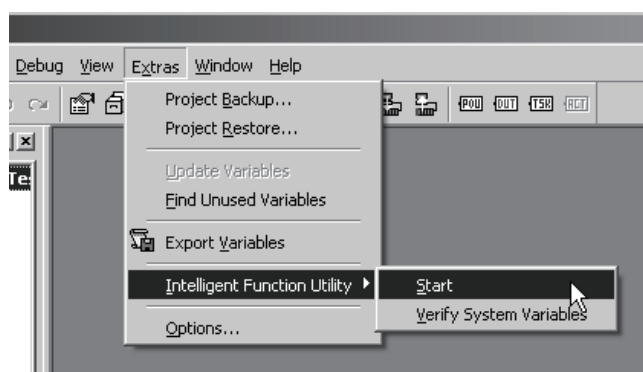


- ② “PLC and GX IEC Developer (GID) Settings” ダイアログボックスで、
GX IEC Developerのプロジェクトファイルを設定します。(5.2節(3)参照)



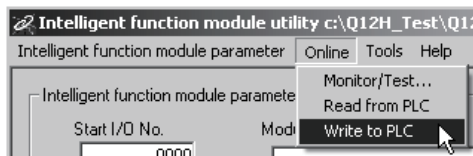
- ③ “Download to Module” コマンドで、マスタユニットにパラメータを書き込むと、GX IEC Developerのプロジェクトに、GX Configurator-DPで設定した自動リフレッシュパラメータが追加されます。(5.3節(2)参照)

- ④ GX IEC Developerからインテリジェント機能ユニットユーティリティを起動します。



⑤ インテリジェント機能ユニットユーティリティで自動リフレッシュを編集します。

⑥ インテリジェント機能ユニットパラメータを、QCPUに書き込みます。



備 考

(1) GX Developerのインテリジェント機能ユニットユーティリティでは、QJ71PB92□の製品形名を“*”で表示します。

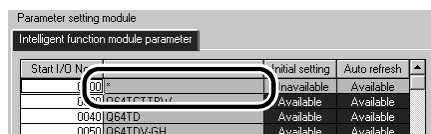


図6-6 QJ71PB92□の表示

(2) Webベースオンラインアクセス機能の“Auto Refresh Settings”ページで、自動リフレッシュパラメータを確認できます。(10章(3)(e)参照)

(4) バスパラメータ

PROFIBUS-DPのバスパラメータを設定します。

バスパラメータは、通常はデフォルトでご使用ください。

変更する場合は、PROFIBUS-DPの規格をご理解の上、本章(4)(c)を参照してから変更してください。

(a) 基本操作

- ① “Master Settings” ダイアログボックスの **Bus Param.** ボタンをクリックします。
“Master Settings” ダイアログボックスについては、本章(3)を参照してください。
- ② バスパラメータを設定します。
バスパラメータの設定については、本章(4)(b)を参照してください。
- ③ **OK** ボタンをクリックし、バスパラメータの設定を終了します。

(b) 表示／設定画面

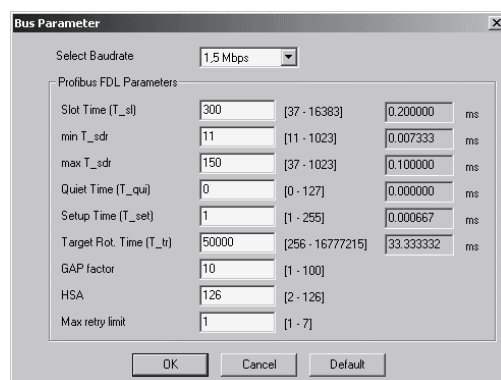


図6-7 バスパラメータ

表6-4 バスパラメータダイアログボックスの項目

項 目	内 容
Select Baudrate	PROFIBUS-DPの伝送速度を設定します。 本ダイアログボックスで設定値を変更すると、“Master Settings”ダイアログボックスの“Baudrate”の設定値も自動的に変更されます。 設定範囲：9.6kbps～12Mbps（デフォルト：1.5Mbps）
Slot Time (T_sl)	スロット時間（レスポンスを待つ最大時間）を設定します。 設定時間を超えるとエラーを検出します。 設定範囲：37～16383（単位：×T _{Bit} ，デフォルト：伝送速度により異なる）
min T_sdr	レスポндаの最小応答時間を設定します。 設定範囲：11～1023（単位：×T _{Bit} ，デフォルト：11×T _{Bit} ）
max T_sdr	レスポндаの最大応答時間を設定します。 設定範囲：37～1023（単位：×T _{Bit} ，デフォルト：伝送速度により異なる）
Quiet Time (T_qui)	リピータ切換え時間（リピータの送信方向切換えに必要な時間）を設定します。 リピータが存在しない場合は、0に設定してください。 設定範囲：0～127（単位：×T _{Bit} ，デフォルト：伝送速度により異なる）
Setup Time (T_set)	セットアップ時間を設定します。 設定範囲：1～255（単位：×T _{Bit} ，デフォルト：伝送速度により異なる）
Target Rot. Time (T_tr)	目標トークン巡回時間を設定します。 設定範囲：256～16777215（単位：×T _{Bit} ，デフォルト：50000×T _{Bit} ）
GAP factor	GAPアップデート時間(T_gud)を制御する定数を設定します。 設定範囲：1～100（デフォルト：10）
HSA	回線上に存在するスレーブ局の最大局番を設定します。 設定範囲：2～126（デフォルト：126）
Max retry limit	各送信データの最大リトライ回数を設定します。 設定範囲：1～7（デフォルト：伝送速度により異なる）

ポイント

伝送速度を変更する場合は、スレーブ局の電源をOFFにしてください。
電源をOFFにしないと、スレーブ局は変更した伝送速度に同期できない場合があります。

備 考

単位[TBit] (Bit Time) は、1 ビットのデータを送信するために必要な時間を“1”
として表す単位です。

実際の処理時間は伝送速度により下記のように異なります。

$$\bullet 1.5\text{Mbpsの場合 } 1[\text{TBit}] = 1 \div (1.5 \times 10^6) = 0.667 \times 10^{-6}[\text{s}]$$

$$\bullet 12\text{Mbpsの場合 } 1[\text{TBit}] = 1 \div (12 \times 10^6) = 0.083 \times 10^{-6}[\text{s}]$$

GX Configurator-DPでは、TBitからmsへの換算を自動で行います。

msへの換算結果は、画面右側に表示されます。

(c) 注意事項

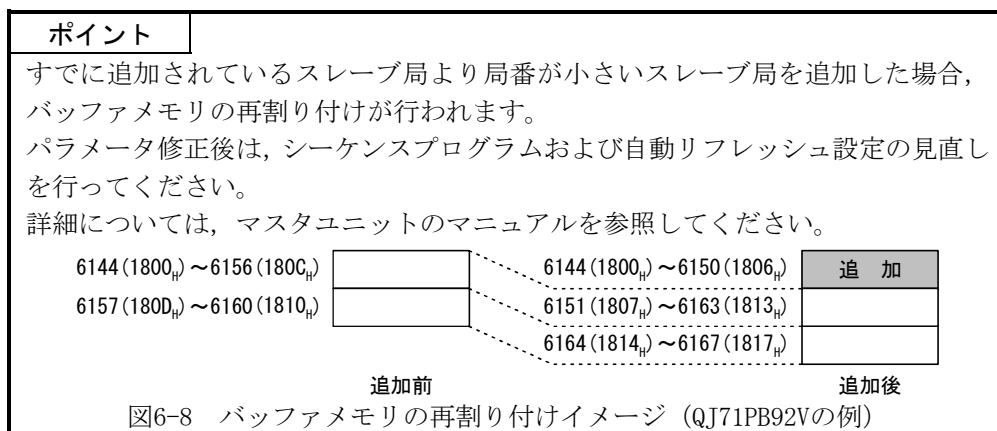
バスパラメータの設定値は、下記計算式を満たす値を設定してください。

下記計算式を満たしていない場合は、**OK** ボタンをクリックしたときにエラーメッセージを表示します。

$$\begin{aligned} \text{Quiet Time (T_qui)} < \min \text{ T_sdr} < \max \text{ T_sdr} < \text{Slot Time (T_sl)} \\ < \text{Target Rot. Time (T_tr)} \end{aligned}$$

(5) スレーブ局の追加

PROFIBUS-DPにスレーブ局を追加します。



(a) 基本操作

- ① グラフィカルネットワークエディタのケーブルの図上で右クリックし、[Insert DP-Slave]メニューを選択して、“Device Database”ダイアログボックスを表示させます。
“Device Database”ダイアログボックスについては、本章(5) (b)を参照してください。
- ② PROFIBUS-DPに追加するスレーブ局を選択します。
- ③ **OK** ボタンをクリックし、“Slave Parameter Settings”ダイアログボックスを表示させます。
“Slave Parameter Settings”ダイアログボックスについては、本章(8)を参照してください。
- ④ スレーブパラメータを設定します。
- ⑤ **OK** ボタンをクリックし、グラフィカルネットワークエディタ上にスレーブ局を追加させます。

(b) 表示／設定画面

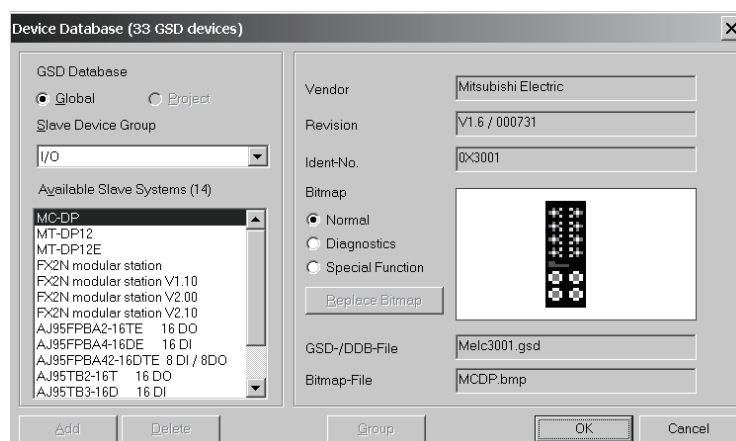


図6-9 Device Databaseダイアログボックス

表6-5 Device Databaseダイアログボックスの項目

項 目	内 容
GSD Database	追加するスレーブ局のGSDデータが保存されている場所を選択します。 Global : GX Configurator-DP内部のGSDデバイスデータベース Project : プロジェクトファイル
Slave Device Group	<div>Replace Bitmap</div> ボタン以外は、メニューバーから開いた“Device Database”ダイアログボックスと同じです。 メニューバーから開いた“Device Database”ダイアログボックスについては、5.2節(2)を参照してください。 <div>Replace Bitmap</div> ボタンは使用できません。
Available Slave Systems	
Vendor	
Revision	
Ident-No.	
Bitmap	
GSD-/DDB-File	
Bitmap-File	
<div>Add</div> ボタン	使用できません。
<div>Delete</div> ボタン	
<div>Group</div> ボタン	

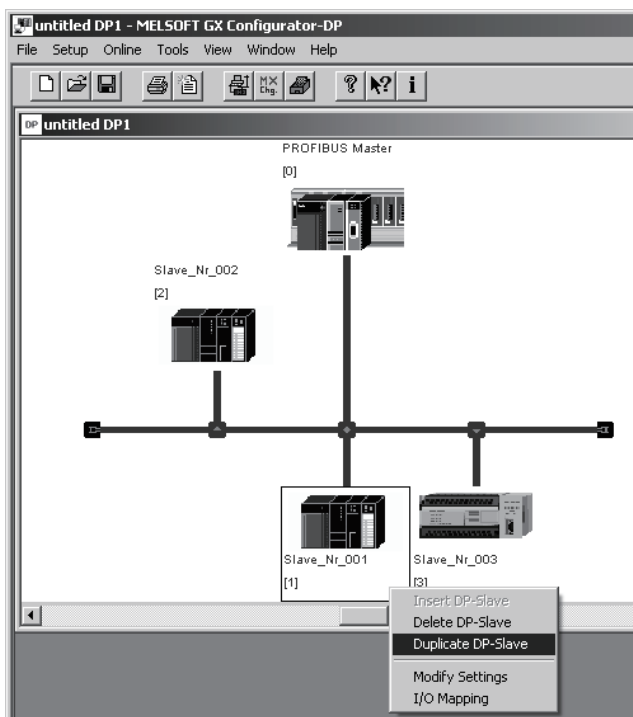
(6) スレーブ局のコピー

PROFIBUS-DPのスレーブ局をコピーします。

同じ設定のスレーブ局を複数台使用する場合などに、スレーブ局をコピーすると設定内容もコピーされるため、設定作業を減らすことができます。

(a) 基本操作

- ① コピーするスレーブ局の図上で右クリックし、[Duplicate DP-Slave]メニューを選択して、スレーブ局をコピーさせます。

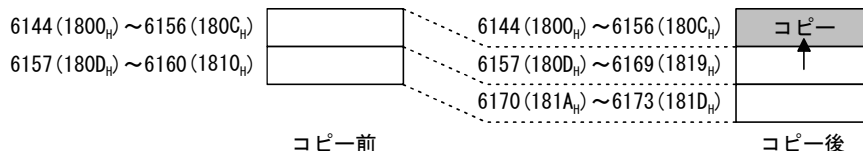


- ② スレーブパラメータの“Name”および“FDL Address”を変更します。
 “Name”および“FDL Address”が他のスレーブ局と重複していると、プロジェクトを保存できなくなります。
 スレーブパラメータの変更方法については、本章(8)を参照してください。

ポイント

スレーブ局をコピーしたときに、すでに追加されているスレーブ局より局番が小さいスレーブ局が増えた場合は、バッファメモリの再割り付けが行われます。パラメータ修正後は、シーケンスプログラムおよび自動リフレッシュ設定の見直しを行ってください。

詳細については、マスタユニットのマニュアルを参照してください。



コピー前

コピー後

図6-10 バッファメモリ再割り付けイメージ (QJ71PB92Vの例)

(7) スレーブ局の削除

スレーブ局の削除は、グラフィカルネットワークエディタで行います。

ポイント	
局番が一番大きいスレーブ局以外のスレーブ局を削除した場合、バッファメモリの再割り付けが行われます。	
パラメータ修正後は、シーケンスプログラムの見直しを行ってください。	
詳細については、マスタユニットのマニュアルを参照してください。	
<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: flex-start;"> <div>6144 (1800_H) ~ 6150 (1806_H)</div> <div>6151 (1807_H) ~ 6163 (1813_H)</div> <div>6164 (1814_H) ~ 6167 (1817_H)</div> </div>	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px;">削 除</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px;"></div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div>削除前</div> <div>削除後</div> </div>

図6-11 バッファメモリの再割り付けイメージ (QJ71PB92Vの例)

(a) 基本操作

- ① 下記いずれかを行い、スレーブ局を削除します。
 - ・削除するスレーブ局の図上で右クリックし、[Delete DP-Slave]を選択します。
 - ・削除するスレーブ局の図を選択し、キーボードから Delete キーを入力します。

(8) スレーブパラメータの設定

各スレーブ局のパラメータを設定します。

(a) 基本操作

- ① 下記いずれかを実行し，“Slave Parameter Settings”ダイアログボックスを表示させます。
 - ・スレーブ局の図をダブルクリックします。
 - ・スレーブ局の図上で右クリックし，[Modify Settings]メニューを選択します。
- ② スレーブパラメータを設定します。
スレーブパラメータの設定については，本項(8) (b)を参照してください。
- ③ OK ボタンをクリックし，スレーブパラメータの設定を終了します。

(b) 表示／設定画面

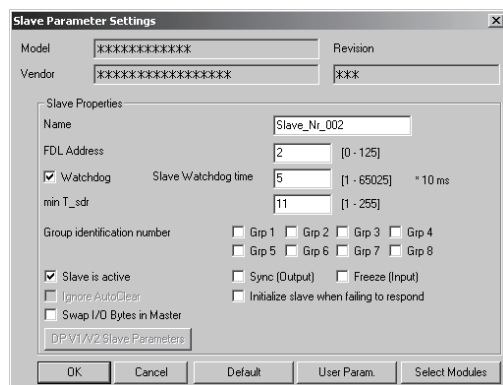


図6-12 Slave Parameter Settingsダイアログボックス

表6-6 Slave Parameter Settingsダイアログボックスの項目

項 目	内 容
Name	スレーブ局の名称を設定します。 設定範囲：英数字17文字まで
FDL Address	FDLアドレス（局番）を設定します。 設定範囲：0～125
Watchdog	<p>ウォッチドグタイマを使用する場合にチェックします。 本設定を行うと，“Slave Watchdog time”で設定した時間内に，マスタユニットからデータを受信しないと通信異常を検出します。 （設定を行わない場合は，マスタユニットからデータを受信しなくなっても通信異常を検出しません。） マスタパラメータの“Watchdog”をチェックすると，スレーブパラメータの“Watchdog”は設定できなくなります。 チェックなし：ウォッチドグタイマ無効（デフォルト） チェックあり：ウォッチドグタイマ有効</p> <p>通信異常時の出力データが，スレーブ局から外部機器へ出力されるかは，スレーブ局の設定により異なります。 詳細については，スレーブ局のマニュアルを参照してください。</p>

(次のページへつづく)

表6-6 Slave Parameter Settingsダイアログボックスの項目(続き)

項 目	内 容
Slave Watchdog time	<p>ウォッチドグタイマの時間を設定します。 “Watchdog” をチェック時に、設定可能となります。 設定値は、下記を満たす範囲内で設定してください。</p> <p>バスサイクルタイム ≤ “Slave Watchdog time” の設定値 ÷ (“Data control time” の設定値) ÷ 6</p> <p>設定範囲：1～65025（単位：×10msまたは×1ms，デフォルト：5×10ms）</p>
min T_sdr	<p>スレーブ局がマスタユニットへ応答フレームを送信するまでの最小応答時間を設定します。 通常はデフォルト値を使用してください。 設定範囲：1～255（単位：×TBit，デフォルト：11×TBit）</p>
Group identification number	<p>スレーブ局のグループNo. (Grp 1～Grp 8)を設定します。 複数のグループNo.を設定することも可能です。 チェックなし：該当グループNo.に未所属 チェックあり：該当グループNo.に所属</p>
Slave is active	<p>スレーブ局を予約局として設定する場合にチェックをはずします。 チェックなし：予約局に設定 チェックあり：入出力データ交信を行う局に設定</p>
Sync (Output)	<p>初期化交信時に、スレーブ局がSync機能に対応しているか確認する場合にチェックします。 スレーブ局がSync機能に対応していない場合、マスタユニットの通信障害情報エリアに障害情報が格納されます。 スレーブ局が本機能に対応している場合に設定可能になります。 チェックなし：機能チェックを行わない チェックあり：機能チェックを行う</p>
Freeze (Input)	<p>初期化交信時に、スレーブ局がFreeze機能に対応しているか確認する場合にチェックします。 スレーブ局がFreeze機能に対応していない場合、マスタユニットの通信障害情報エリアに障害情報が格納されます。 スレーブ局が本機能に対応している場合に設定可能になります。 チェックなし：機能チェックを行わない チェックあり：機能チェックを行う</p>
Ignore AutoClear	<p>マスタパラメータの“Error action flag”の設定を有効にしたときに、このスレーブ局の通信障害検出でクリア要求を送信したくない場合にチェックします。 マスタパラメータの“Error action flag”の設定を有効にした場合に設定可能となります。 チェックなし：“Error action flag”の設定を有効にする チェックあり：“Error action flag”の設定を無効にする</p>
Initialize slave when failing to respond	<p>スレーブ局が通信異常から復帰するときに、マスタ局がスレーブ局にパラメータを再送する場合にチェックします。 チェックなし：スレーブ局にパラメータを再送しない チェックあり：スレーブ局にパラメータを再送する</p>
Swap I/O Bytes in Master	<p>スレーブ局の入出力データを、QJ71PB92□またはFX_{3U}-64DP-Mのバッファメモリ上でスワップさせる場合にチェックします。 マスタユニットがQJ71PB92□またはFX_{3U}-64DP-Mの場合に、設定可能になります。 チェックなし：スワップさせない チェックあり：スワップさせる</p>

(次のページへつづく)

表6-6 Slave Parameter Settingsダイアログボックスの項目（続き）

項 目	内 容
<div>DP V1/V2 Slave Parameters</div> ボタン	<p>PROFIBUS-DPV1機能を使用する場合に設定します。</p> <p>下記の条件をすべて満たしている場合に、設定可能になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マスタユニットがQJ71PB92VまたはFX_{3U}-64DP-Mの場合 ・ スレーブ局がPROFIBUS-DPV1機能に対応している場合 ・ スレーブ局のGSDファイルで、“DPV1_Slave”の項目に“1”が設定されている場合 <p>“DP V1/V2 Slave Parameters”ダイアログボックスについては、本項(8)(b-1)を参照してください。</p>
<div>User Param.</div> ボタン	<p>スレーブ局独自のパラメータを設定します。</p> <p>スレーブ局が本機能に対応している場合に設定可能になります。</p> <p>詳細については、本項(8)(b-3)を参照してください。</p>
<div>Select Modules</div> ボタン	<p>スレーブ局に装着されているユニットを設定します。</p> <p>スレーブ局が本機能に対応している場合に設定可能になります。</p> <p>詳細については、本項(8)(b-2)を参照してください。</p>

(b-1) DP V1/V2 Slave Parameters

PROFIBUS-DPV1/V2機能のスレーブパラメータを設定します。

“DP V1/V2 Slave Parameters” ダイアログボックスは, “Slave Parameter Settings” ダイアログボックスで, DP V1/V2 Slave Parameters ボタンをクリックして表示させます。

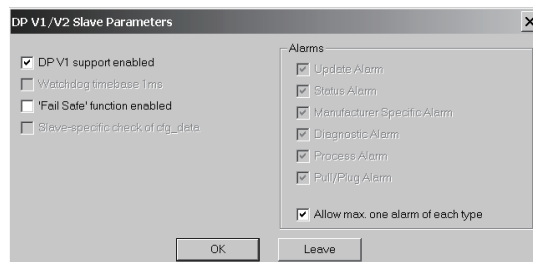


図6-13 DP V1/V2 Slave Parameters

表6-7 DP V1/V2 Slave Parametersダイアログボックスの項目

項 目	内 容
DP V1 support enabled	PROFIBUS-DPV1機能を使用する場合に設定します。 チェックなし：PROFIBUS-DPV1機能を無効にする チェックあり：PROFIBUS-DPV1機能を有効にする
Watchdog timebase 1ms	“Slave Watchdog time” の単位を1msにする場合にチェックします。 スレーブ局が本機能に対応している場合に設定可能となります。 マスタパラメータの“Watchdog” のチェックをはずした場合に、設定可能となります。 チェックなし：10ms単位 チェックあり：1ms単位
'Fail Safe' function enable	マスタ局からのクリア要求の送信時に、スレーブ局を'Fail Safe'状態にする場合にチェックします。 スレーブ局が本機能に対応している場合に設定可能となります。 'Fail Safe'状態の設定については、スレーブ局のマニュアルを参照してください。 チェックなし：'Fail Safe'状態にしない チェックあり：'Fail Safe'状態にする
Slave-specific check of cfg_data	スレーブ局のパラメータチェックの方法が、PROFIBUS標準のパラメータチェック方法と異なる場合にチェックします。 スレーブ局が本機能に対応している場合に設定可能となります。 パラメータチェックの方法については、スレーブ局のマニュアルを参照してください。 チェックなし：PROFIBUS標準のパラメータチェックを行う チェックあり：スレーブ局特有の方法でパラメータチェックを行う

(次のページへつづく)

表6-7 DP V1/V2 Slave Parametersダイアログボックスの項目（続き）

項 目	内 容
Update Alarm	Update Alarmの送信を許可する場合にチェックします。 スレーブ局が本機能に対応している場合に設定可能となります。 チェックなし：Update Alarm送信禁止 チェックあり：Update Alarm送信許可
Status Alarm	Status Alarmの送信を許可する場合にチェックします。 スレーブ局が本機能に対応している場合に設定可能となります。 チェックなし：Status Alarm送信禁止 チェックあり：Status Alarm送信許可
Manufacturer Specific Alarm	Manufacturer Specific Alarmの送信を許可する場合にチェックします。 スレーブ局が本機能に対応している場合に設定可能となります。 チェックなし：Manufacturer Specific Alarm送信禁止 チェックあり：Manufacturer Specific Alarm送信許可
Diagnostic Alarm	Diagnostic Alarmの送信を許可する場合にチェックします。 スレーブ局が本機能に対応している場合に設定可能となります。 チェックなし：Diagnostic Alarm送信禁止 チェックあり：Diagnostic Alarm送信許可
Process Alarm	Process Alarmの送信を許可する場合にチェックします。 スレーブ局が本機能に対応している場合に設定可能となります。 チェックなし：Process Alarm送信禁止 チェックあり：Process Alarm送信許可
Pull/Plug Alarm	Pull/Plug Alarmの送信を許可する場合にチェックします。 スレーブ局が本機能に対応している場合に設定可能となります。 チェックなし：Pull/Plug Alarm送信禁止 チェックあり：Pull/Plug Alarm送信許可
Allow max. one alarm of each type	スレーブ局が複数タイプのアラームを検出したときに、アラームをタイプごとに1件ずつ取得する場合にチェックします。 チェックなし：発生したアラームを順に取得する（最大8件） チェックあり：発生したアラームをタイプごとに1件ずつ取得する（最大6件）

(b-2) Slave Modules

スレーブ局に装着されているユニットを設定します。

“Slave Modules” ダイアログボックスは, “Slave Parameter Settings” ダイアログボックスで **Select Modules** ボタンをクリックして表示させます。

ポイント	
<p>“Slave Modules” ダイアログボックスでユニットの構成を変更した場合, バッファメモリの再割り付けが行われます。</p> <p>変更後は, シーケンスプログラムおよび自動リフレッシュ設定の見直しを行ってください。</p> <p>詳細については, スレーブユニットのマニュアルを参照してください。</p> <p>例: 7ワードの入力ユニットを追加した場合</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>6144 (1800_H) ~ 6156 (180C_H)</p> <p>6157 (180D_H) ~ 6160 (1810_H)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; width: 80px; height: 40px; margin: 0 auto;"></div> <div style="text-align: center;"> <p>6144 (1800_H) ~ 6150 (1806_H)</p> <p>6151 (1807_H) ~ 6163 (1813_H)</p> <p>6164 (1814_H) ~ 6167 (1817_H)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; width: 80px; height: 40px; margin: 0 auto;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 80px; height: 40px; margin: 0 auto;"></div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%;"> <p>追加前</p> <p>追加後</p> </div>	

図6-14 バッファメモリの再割り付けイメージ (QJ71PB92Vの例)

■ 基本操作

- ① スレーブ局に装着しているユニットを, “Installed Module” に追加／削除します。

①-1 Installed Moduleの追加操作

- ①-1-1 “Available Modules” で追加するユニットを選択します。
- ①-1-2 “Installed Module” でユニットの追加位置を選択します。
- ①-1-3 下記いずれかを行うと, “Installed Module” にユニットを追加します。
- ・ **Add before** ボタンをクリックし, ①-1-2で選択した位置の前にユニットを追加します。
 - ・ **Add after** ボタンをクリックし, ①-1-2で選択した位置の後にユニットを追加します。

①-2 Installed Moduleの削除操作

- ①-2-1 “Installed Module” で, 削除するユニットを選択します。
- ①-2-2 **Remove** ボタンをクリックし, ①-2-1で選択したユニットを削除します。
- ② **OK** ボタンをクリックすると, 設定を終了します。

■ 表示／設定画面

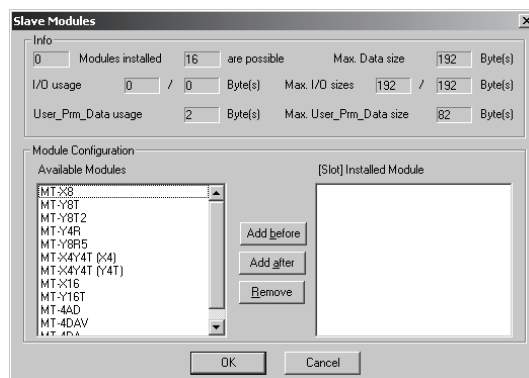


図6-15 Slave Modulesダイアログボックス

表6-8 Slave Modulesダイアログボックスの項目

項 目	内 容
Info	設定内容に合わせて、スレーブ局の情報を自動で計算して表示されます。
Modules installed	“Installed Module” に追加されたユニット数が表示されます。
are possible	“Installed Module” に追加可能な最大ユニット数が表示されます。
Max. Data size	スレーブ局の最大データ容量が表示されます。
I/O usage	“Installed Module” に追加されたユニットの、合計入出力点数が表示されます。
Max. I/O sizes	スレーブ局の最大入出力点数が表示されます。
User_Prm_Data usage	“Installed Module” に追加されたユニットの、ユーザパラメータのデータサイズの合計が表示されます。
Max. User_Prm_Data size	スレーブ局の最大ユーザパラメータ容量が表示されます。
Module Configuration	スレーブ局に追加するユニットを選択します。
Available Modules	追加可能なユニットの一覧を表示します。 GSD (GDD) ファイルにユニットの記述がない場合は、“Universal” と表示します。 “Universal” と表示された場合については、本項 (8) (b-2-1) を参照してください。
Add before ボタン	“Installed Module” で選択した位置 (*1) の前に、“Available Modules” で選択したユニットを追加します。
Add after ボタン	“Installed Module” で選択した位置 (*2) の後に、“Available Modules” で選択したユニットを追加します。
Remove ボタン	“Installed Module” で選択したユニットを削除します。
Installed Module	スレーブ局に追加するユニットの、スロット番号とユニット名の一覧が表示されます。 GSD (GDD) ファイルにユニットの記述がない場合は、“Universal” と表示されます。 “Universal” と表示された場合については、本項 (8) (b-2-1) を参照してください。

*1 “Installed Module” で位置を選択していない場合は、“Installed Module” の先頭にユニットが追加されます。

*2 “Installed Module” で位置を選択していない場合は、“Installed Module” の最後にユニットが追加されます。

■ Slave Modulesダイアログボックスの注意事項

- ・マスタユニットが、A(1S)J71PB92DまたはQJ71PB92Dの通常サービスモード(MODE 0)の場合、“I/O usage”は“32 / 32”まで設定できます。
- ・“I/O usage”と“User_Prm_Data size”がそれぞれの最大値を超えた場合は、エラーメッセージが表示されます。
“Installed Module”へ追加したユニットを見直してください。

(b-2-1) Universalのユニットについて

GSD (DDB) ファイルにユニットの記述がない場合、ユニット名は“Universal”と表示されます。

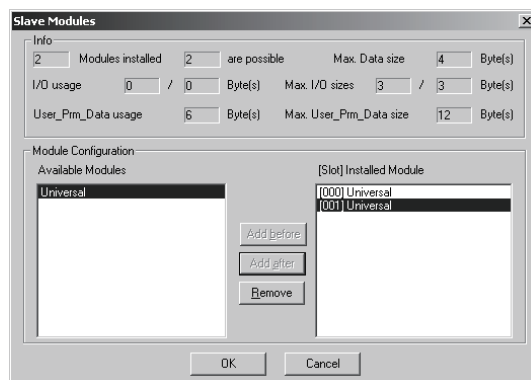


図6-16 Slave Modulesダイアログボックス（ユニットがUniversalの場合）

“Universal”と表示されたユニットには、入出力点数を設定できます。

■ 基本操作

- ① “Installed Module” のユニットをダブルクリックし，“Universal Module Settings” ダイアログボックスを表示させます。
- ② ユニットの入出力点数を設定して **OK** ボタンをクリックし、設定を完了します。

ポイント

“Universal”と表示されたユニットの入出力点数を設定した場合は、ユニットのマニュアルを参照して、設定が間違っていないことを確認してください。設定が間違っていると、正常に動作しない場合があります。

■ 表示／設定画面

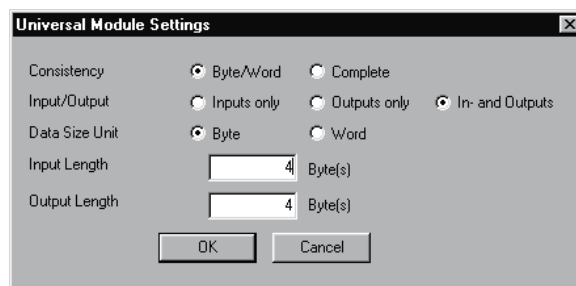


図6-17 Universal Module Settingsダイアログボックス

表6-9 Universal Module Settingsダイアログボックスの項目

項 目	内 容
Consistency	泣き別れを防止する入出力データの単位を選択します。 泣き別れ防止機能は，“Master Settings”ダイアログボックスで有効にできます。 “Master Settings”ダイアログボックスについては、6章(3)(b)を参照してください。 Byte/Word : ByteまたはWord単位で、泣き別れを防止します。 Complete : 本ユニットの入出力データ全体で、泣き別れを防止します。
Input/Output	ユニットで扱う入出力データの種類を選択します。 Inputs only : 入力データのみを扱います。 Outputs only : 出力データのみを扱います。 In- and Outputs : 入力データと出力データを扱います。
Data Size Unit	“Input Length” および “Output Length” で設定する、入出力データの単位を選択します。
Input Length	入力データのサイズを設定します。 “Input/Output” で “Inputs only” または “In- and Outputs” を選択している場合に、設定可能になります。 設定範囲 : 0～16 (単位は “Data Size Unit” の選択により異なる)
Output Length	出力データのサイズを設定します。 “Input/Output” で “Outputs only” または “In- and Outputs” を選択している場合に、設定可能になります。 設定範囲 : 0～16 (単位は “Data Size Unit” の選択により異なる)

(b-3) Extended User Parameters

スレーブ局のユーザパラメータを設定します。

“Extended User Parameters” ダイアログボックスは，“Slave Parameter Settings” ダイアログボックスで **User Param.** ボタンをクリックして表示させます。

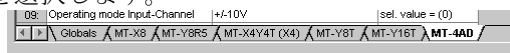
設定するユーザパラメータの種類は、スレーブ局により変わります。
設定するユーザパラメータについては、スレーブ局のマニュアルを参照してください。

備 考

ユーザパラメータは、プロジェクトのダウンロード時にマスタユニットへ書き込み、入出力データ交信を開始すると、各スレーブ局に送信します。

■基本操作

- ① “Parametrize DP Slave/Module” のタブでユーザパラメータを設定するユニットを選択します。



- ② ユーザパラメータを “Value Settings” のメニューから選択して設定します。

Parameter Name	Value Setting	Comment
os at low voltage	not report	value = (1)
low /Wire Breakage	report	value = (1)
swapping	report	value = (0)
aging	not report	value = (0)
ating mode Input-Channel		value = (0)

パラメータの名称などが隠れて表示されない場合は、タイトル行を操作して表示幅を変更してください。

Parameter Name	Value
low voltage	report
Wire Breakage	report

■表示／設定画面

The dialog box is titled "Extended User Parameters". It contains two main sections:

Parameter Location

- Module Slot Number: 5
- User_Prm_Data Offset: 7
- User_Prm_Data Size: 4
- ☒ Edit Unsigned as hex

Parametrize DP Slave/Module

Nr.	Parameter Name	Value Setting	Comment
00:	Diagnosis at low voltage	report	sel. value = (0)
01:	Overflow / Wire Breakage	report	sel. value = (0)
02:	Byte swapping	No byte swapping	sel. value = (0)
03:	Averaging	on	sel. value = (0)
04:	Operating mode Input-Channel	+/-10V	sel. value = (0)
05:	Diagnosis at low voltage	+/-10V	sel. value = (0)
06:	Overflow / Wire Breakage	+/-20mA	sel. value = (0)
07:	Byte swapping	4...20mA	sel. value = (0)
08:	Averaging	PT100	sel. value = (0)
09:	Operating mode Input-Channel	+/-10V	sel. value = (0)

At the bottom, there is a tabbed interface with the following tabs: Globals, MT-X8, MT-Y8R5, MT-X4Y4T (X4), MT-Y8T, MT-Y16T, and MT-4AD (selected). Below the tabs are buttons: Edit Hex, OK, Cancel, and Default.

図6-18 Extended User Parametersダイアログボックス

表6-10 Extended User Parametersダイアログボックスの項目

項 目	内 容
Parameter Location	“Parameter DP Slave/Module” に表示しているユニットの情報が表示されます。
Module Slot Number	“Parametrize DP Slave/Module” に表示しているユニットの、スロット番号が表示されます。 “Parametrize DP Slave/Module” に表示しているユニットが、スロット番号を持たない場合は、“--”が表示されます。
User_Prm_Data Offset	“Parametrize DP Slave/Module” に表示しているユーザパラメータについて、ユーザパラメータ全体に対する位置が、オフセット値で表示されます。
User_Prm_Data_Size	ユーザパラメータの容量がバイト単位で表示されます。
Edit Unsigned as hex	“Hex Editor” 使用時に、符号なし16進数でユーザパラメータを編集する場合に、チェックします。 チェックなし：符号付き16進数でユーザパラメータを編集 チェックあり：符号なし16進数でユーザパラメータを編集
Parametrize DP Slave/Module	ユーザパラメータを設定します。
Edit Hex ボタン	“Slave User Parameters” ダイアログボックスの“Hex Editor” を使用して、ユーザパラメータを数値入力して直接編集します。 “Hex Editor” については、本項(8) (b-3-1)を参照してください。

(b-3-1) Slave User Parameters

ユーザパラメータを数値入力して直接編集します。

“Slave User Parameters” ダイアログボックスは，“Extended User Parameters” ダイアログボックスで **Edit Hex** ボタンをクリックして表示させます。

ポイント

“Hex Editor” でユーザパラメータを編集する場合は、ユーザパラメータをご理解の上、編集してください。
間違った編集を行うと、正常に動作しなくなる場合があります。
ユーザパラメータの構造については、各スレーブ局のメーカーにお問い合わせください。

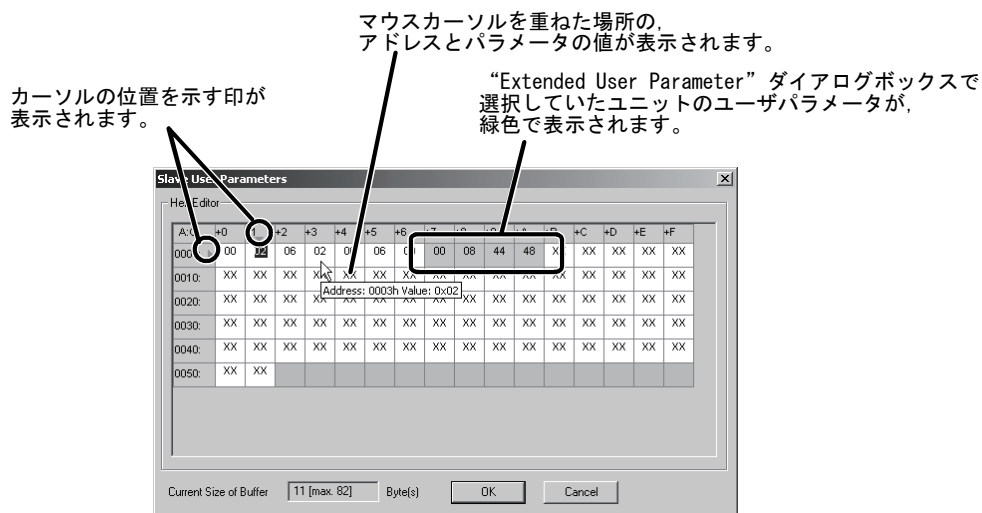


図6-19 Slave User Parametersダイアログボックス

(9) プロジェクト保存

各パラメータの設定後、プロジェクトを保存します。
保存方法については、下記を参照してください。

- ・ 上書き保存…………… 5.1節(4)
- ・ 名前を付けて保存…………… 5.1節(5)

第7章 スレーブユニットのパラメータ設定

本章では、スレーブユニットの各パラメータを設定し、保存する方法を説明します。

(1) 概要

スレーブユニットのパラメータ設定は、スレーブパラメータ設定用ダイアログボックスで行います。

パラメータ設定については、本章(2)を参照してください。

パラメータの設定後は、プロジェクトを保存します。

プロジェクトの保存については、5.1節(4)、5.1節(5)を参照してください。

プロジェクトの保存後は、プロジェクトをスレーブユニットに書き込みます。

詳細については、10章(3)(h)を参照してください。

(2) パラメータ設定

スレーブパラメータ設定用ダイアログボックスで、スレーブパラメータの設定を行います。

備 考

スレーブパラメータ設定用ダイアログボックスは、下記のいずれかを行うと表示させることができます。

- ・新規にスレーブユニットのプロジェクトを作成……………5.1節(1)
- ・既存のスレーブユニットのプロジェクトファイルを開く……………5.1節(2)

(a) 表示／設定画面

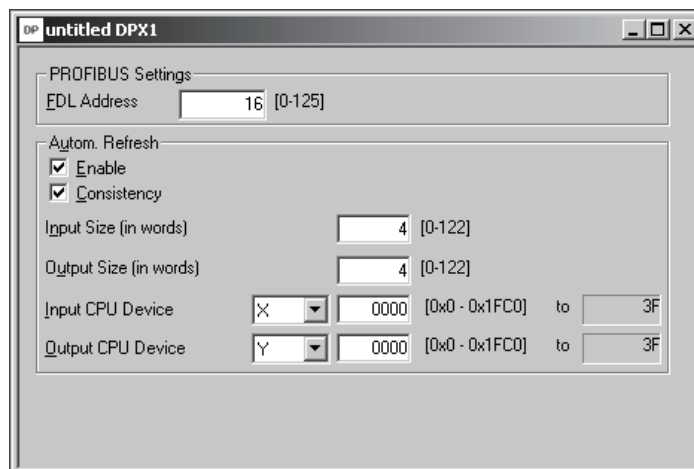


図7-1 スレーブパラメータ設定用ダイアログボックス

表7-1 スレーブパラメータ設定用ダイアログボックスの項目

項 目	目 的
FDL_address	FDLアドレス（局番）を設定します。 設定範囲：0～125
Enable	QCPUのデバイスとスレーブユニットのバッファメモリを自動リフレッシュする場合にチェックします。 自動リフレッシュについては、PROFIBUS-DPスレーブユニットユーザーズマニュアル（詳細編）を参照してください。 チェックなし：自動リフレッシュ無効 チェックあり：自動リフレッシュ有効
Consistency	自動リフレッシュ実行時に、泣き別れ防止機能を使用する場合にチェックします。 “Enable”をチェック時に、チェック可能となります。 泣き別れ防止機能については、PROFIBUS-DPスレーブユニットユーザーズマニュアル（詳細編）を参照してください。 チェックなし：泣き別れ防止機能無効 チェックあり：泣き別れ防止機能有効
Input Size	スレーブユニットからCPUユニットに転送するデータのワード数を設定します。
Output Size	CPUユニットからスレーブユニットに転送するデータのワード数を設定します。
Input CPU Device	スレーブユニットの出力受信エリアのデータを、CPUユニットに転送する場合のデータ格納先デバイスを設定します。
Output CPU Device	CPUユニットのデータを、スレーブユニットの入力送信エリアに転送する場合のデータ格納先デバイスを設定します。

(a-1) Autom. Refresh

自動リフレッシュパラメータは、プロジェクトをスレーブユニットへダウンロードするときに、QCPUに書き込みます。

GX Configurator-DPで自動リフレッシュパラメータの設定後に、GX Developer/GX IEC Developerで他のインテリジェント機能ユニットの自動リフレッシュパラメータを設定できます。

詳細については、本章(2)(c)を参照してください。

(b) 自動リフレッシュパラメータの設定個数について

QCPUに設定可能な自動リフレッシュパラメータの設定個数には、制限があります。

自動リフレッシュパラメータは、下記に示す設定個数を超えないように設定してください。

(b-1) 全インテリジェント機能ユニットの自動リフレッシュパラメータ設定個数

複数のインテリジェント機能ユニットを装着した場合、下記の設定個数を超えないように自動リフレッシュパラメータを設定してください。

表7-2 最大自動リフレッシュパラメータ設定個数

CPUタイプ	最大自動リフレッシュパラメータ設定個数
Q00J/Q00/Q01CPU	256
Q02/Q02H/Q06H/Q12H/Q25HCPU	256
Q12PH/Q25PHCPU	256
Q12PRH/Q25PRHCPU	256

(b-2) QJ71PB93Dの自動リフレッシュパラメータ設定個数

QJ71PB93Dの自動リフレッシュパラメータ設定個数は、1ユニットあたり下記のとおりです。

表7-3 QJ71PB93Dの自動リフレッシュパラメータ設定個数

対象ユニット	自動リフレッシュ設定
QJ71PB93D	2 (最大設定数)

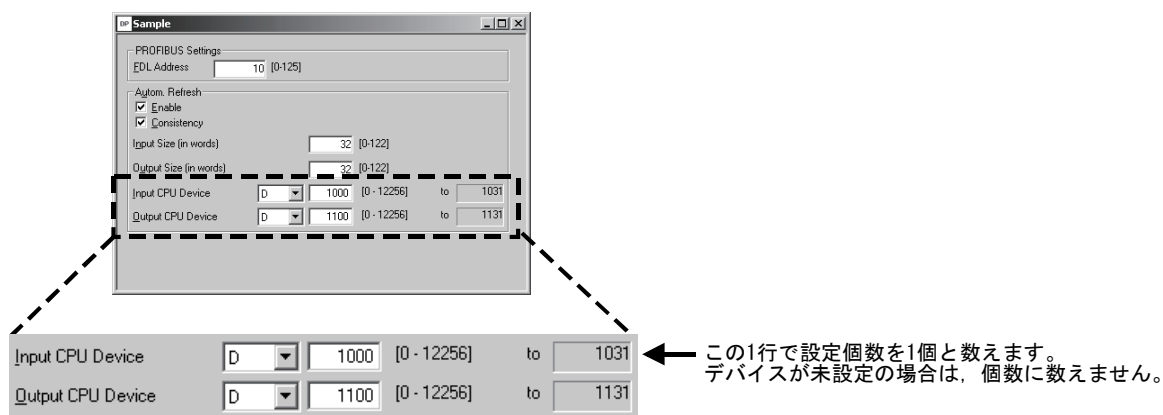


図7-2 QJ71PB93Dの自動リフレッシュパラメータ設定個数

(c) QJ71PB93D以外のユニットのインテリジェント機能ユニットパラメータを設定する場合

(c-1) GX Developerを使用している場合

GX Configurator-DPで自動リフレッシュパラメータを書込み後に、GX Developerの“Read from PLC”でインテリジェント機能ユニットパラメータを読み出してください。

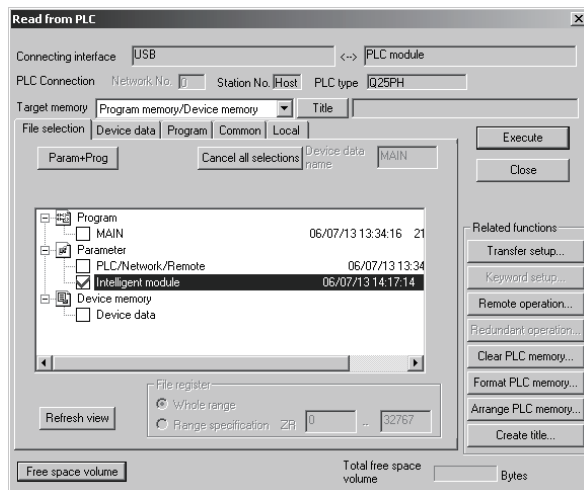


図7-3 GX DeveloperのPC読出

上記操作を行わずに、QJ71PB93D以外のユニットのインテリジェント機能ユニットパラメータをQCPUに書き込むと、設定したQJ71PB93Dの自動リフレッシュパラメータが削除されます。

備考

(1) GX Developerのインテリジェント機能ユニットユーティリティでは、QJ71PB93Dの製品形名を“*”で表示します。

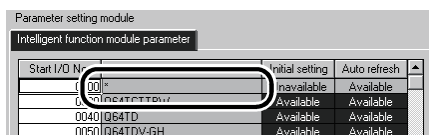


図7-4 QJ71PB93Dの表示

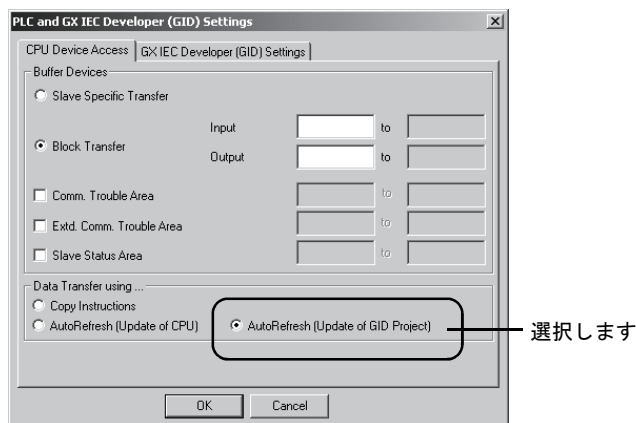
(2) Webベースオンラインアクセス機能の“Auto Refresh Settings”ページで、自動リフレッシュパラメータを確認できます。(10章(3)(e)参照)

(c-2) GX IEC Developerを使用している場合

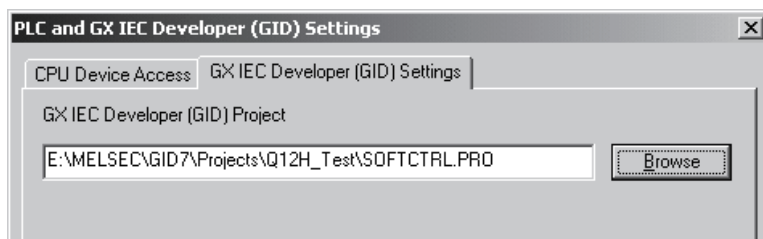
下記の手順で自動リフレッシュをQCPUに書き込んでください。

下記の手順を行わずに、GX IEC Developerで自動リフレッシュ設定を編集すると、QJ71PB93Dの自動リフレッシュパラメータが削除されます。

- ① “PLC and GX IEC Developer (GID) Settings” ダイアログボックスで
“AutoRefresh (Update of GID Project)” を選択します。(5.2節(3)参照)

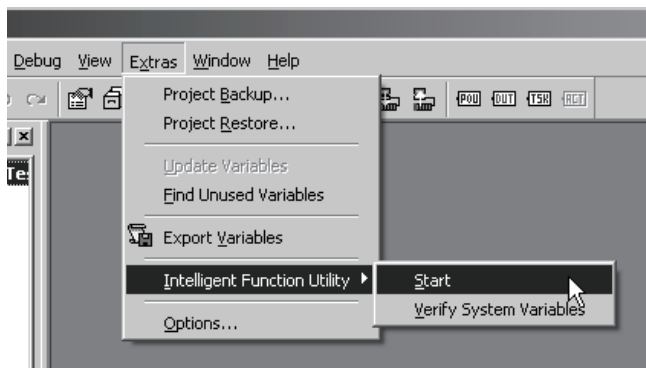


- ② “PLC and GX IEC Developer (GID) Settings” ダイアログボックスで、
GX IEC Developerのプロジェクトファイルを設定します。(5.2節(3)参照)

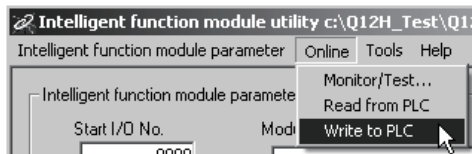


- ③ “Download to Module” コマンドで、マスタユニットにパラメータを書き込むと、GX IEC Developerのプロジェクトに、GX Configurator-DPで設定した自動リフレッシュパラメータが追加されます。(5.3節(2)参照)

- ④ GX IEC Developerからインテリジェント機能ユニットユーティリティを起動します。



- ⑤ インテリジェント機能ユニットユーティリティで自動リフレッシュを編集します。
- ⑥ インテリジェント機能ユニットパラメータを、QCPUに書き込みます。



備 考

- (1) GX Developerのインテリジェント機能ユニットユーティリティでは、QJ71PB93Dの製品形名を“*”で表示します。

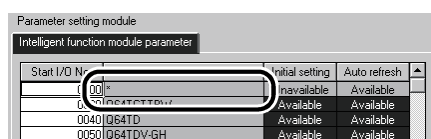


図7-5 QJ71PB93Dの表示

- (2) Webベースオンラインアクセス機能の“Auto Refresh Settings” ページで、自動リフレッシュパラメータを確認できます。(10章(3)(e)参照)

第8章 I/O Mapping

I/O Mappingは、入出力データへアクセスするプログラミング作成を容易にします。

I/O Mappingを使用すると、GX IEC Developerのプログラムで下記を実施できるようになります。

- CPUユニットの出力(Y)をマスタユニットのバッファメモリに、データの転送ができます。
- マスタユニットのバッファメモリからCPUユニットの入力(X)へ、データの転送ができます。
- スレーブ局の各ユニットのDUT(Data Unit Types)を作成できます。
- ユーザが定義した任意のデバイスを使用して、入出力データにアクセスできます。
- 入出力データ通信を開始できます。
- 通信障害情報エリア、拡張通信障害情報エリア、およびスレーブステータスエリアの情報を、任意のデバイスにコピーできます。
- グローバル変数で入出力データを参照できます。

マスタユニットの入力データエリア／出力データエリアにおける、スレーブ局の入出力データのオフセットを計算する必要がありません。

備 考

I/O Mappingは、下記ユニット（モード）でのみ使用可能です。

- QJ71PB92V
- QJ71PB92D（拡張サービスモード(MODE E)）
- A(1S)J71PB92D（拡張サービスモード（MODEスイッチ：No. E））
- FX3U-64DP-M（FX3U-64DP-Mの場合はCopy POUを作成します。

Copy POUについてはFX3U-64DP-Mのマニュアルを参照してください。）

上記以外のユニット（モード）については、I/O Mappingを使用できません。

(1) 基本操作

- ① グラフィカルネットワークエディタのスレーブ局の図上で右クリックし、[I/O Mapping]メニューを選択して、“I/O Mapping”ダイアログボックスを表示させます。
- ② ツリー表示で設定するユニットを選択し、一覧表示に表示されたDUTを設定します。
ツリー表示および一覧表示については、本章(2)を参照してください。
- ③ **OK** ボタンをクリックし、“I/O Mapping”ダイアログボックスを閉じます。
- ④ [File]→[Export]→[POU for GX IEC Developer]メニューをクリックしてPOUをエクスポートすると、一緒にユーザライブラリをエクスポートします。
- ⑤ GX IEC Developerでユーザライブラリをインポートすると、機能が追加されます。

(2) 表示／設定画面

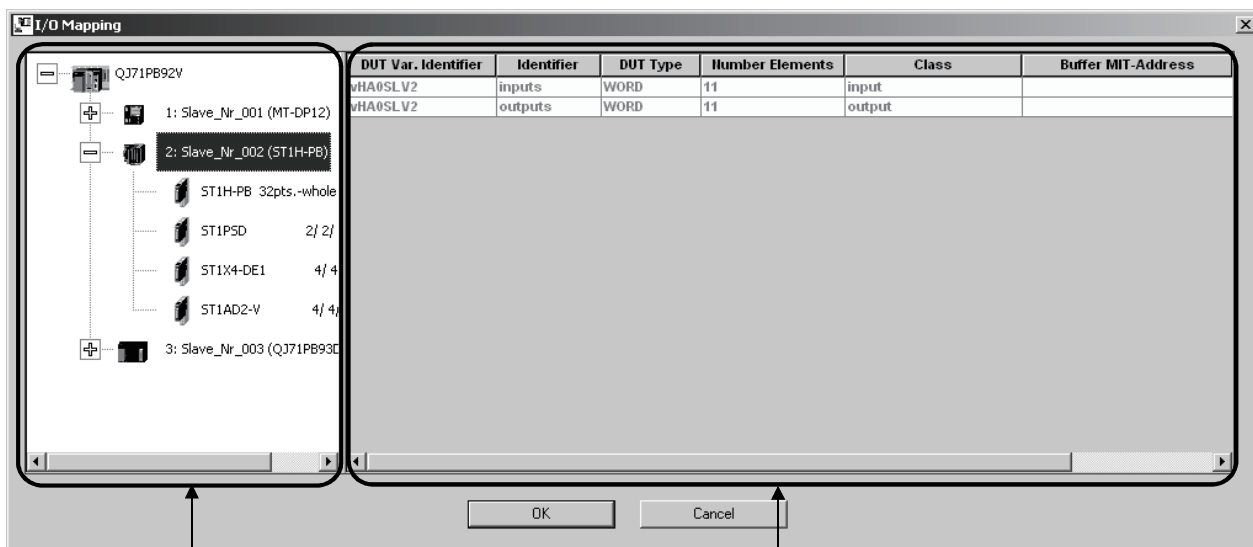


図8-1 I/O Mappingダイアログボックス

(a) ツリー表示

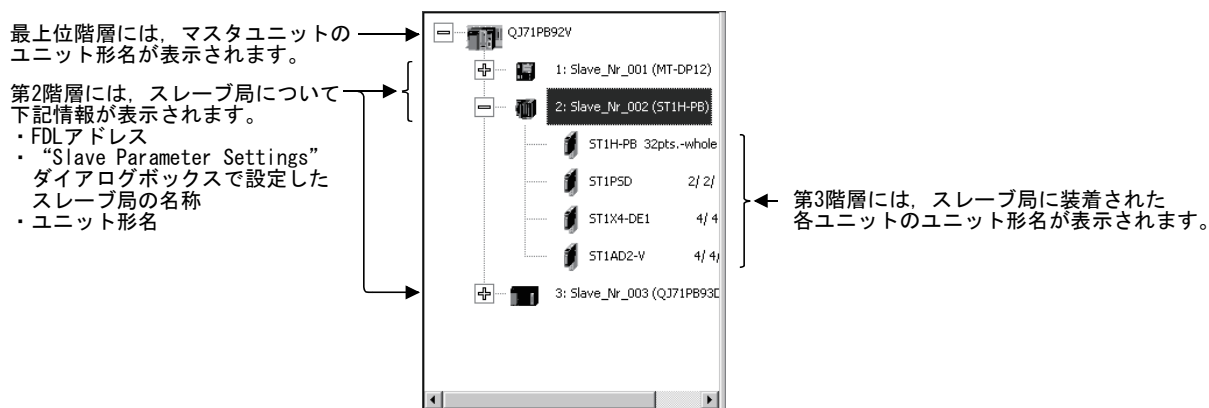


図8-2 ツリー表示

(b) 一覧表示

ツリー表示でスレーブ局のユニットを選択すると、一覧表示に下記DUTの要素が表示されます。

表8-1 一覧表示の項目

項 目	内 容
DUT Var. Identifier	DUTのグローバル変数インスタンスの名称が、自動的に作成されて表示されます。
Identifier	DUTの要素の名前が表示されます。
DUT Type	DUTの要素またはグローバル変数のデータタイプが表示されます。
Number Elements	要素の数が表示されます。 本項目が2以上の場合、要素が配列であることを意味します。

(次のページへつづく)

表8-1 一覧表示の項目（続き）

項 目	内 容
Class	扱うデータについて、入力データか出力データかが表示されます。 input：入力データ output：出力データ
Global Var. Identifier	任意のグローバル変数名を設定します。 設定すると、プログラミング時に任意のグローバル変数名を使用できます。 本項目は、ツリー表示でスレーブ局のユニットを選択した場合に、設定できます。
User MIT-Address	GX IEC Developerのプログラムで、入出力データをアクセスするときに中継するデバイスを設定します。 設定するデバイスは他のユニットと重複できません。 重複しないように設定してください。 “User MIT-Address”の詳細については、本章(3)を参照してください。 本項目は、ツリー表示でスレーブ局のユニットを選択した場合に、設定できます。
Buffer MIT-Address	マスタユニットとCPUユニット間の交信で使用するCPUユニットのデバイスを表示または設定します。 本項目は、“PLC and GX IEC Developer (GID) Settings”ダイアログボックスで“Slave Specific Transfer”を選択していて、ツリー表示でスレーブ局を選択した場合に設定できます。

(3) User MIT-Addressについて

GX IEC Developerのプログラムで、“User MIT-Address”に設定したデバイスへアクセスすると、入出力データにアクセスできます。

ユニットの増減などにより入出力データのアドレスが変更された場合、I/O Mappingによりアドレスが再計算されます。

このため、ユーザライブラリをエクスポートして組み込み直すと、ユニットの増減前と同様に入出力データをアクセスできます。

プログラムの修正は必要ありません。

第9章 接続先設定

(1) はじめに

本章では、GX Configurator-DPの転送設定について説明します。

転送設定を行うと、マスタユニットのプロジェクトをマスタユニットへダウンロードできるようになります。

ポイント
① スレーブユニットのプロジェクトをスレーブユニットへダウンロードする場合は、Webベースオンラインアクセス機能の“Module Configuration” ページで、“Project” を操作して行います。 詳細については、10章(3)(h)を参照してください。
② マスタユニットのプロジェクトは、Webベースオンラインアクセス機能でもダウンロードできます。 詳細については、10章(3)(d)を参照してください。

(2) 接続の注意事項

転送設定の注意事項を下記に示します。

- (a) 転送設定は、マスタユニットのプロジェクトを最前面に表示している場合のみ実行できます。

スレーブユニットのプロジェクトを最前面に表示している場合は、実行できません。

- (b) MELSECNET/H（リモートI/Oネット）は、下記制約を満たしている場合のみ使用可能です。

- ・ リモートI/O局にはQJ71PB92Vのみ装着可能です。
- ・ 接続は、パソコンのRS-232コネクタとQJ72LP25-25、QJ72LP25G、またはQJ72BR15のRS-232コネクタとの接続をサポートします。
- ・ QJ71PB92VをMELSECNET/HリモートI/O局に装着している場合は、自動リフレッシュは使用できません。
自動リフレッシュを使用したい場合は、QJ71PB92Vをリモートマスタ局（QCPU）へ装着してください。

- (c) MELSECNET/H（PC間ネット）またはMELSECNET/10（PC間ネット）で、GX Configurator-DPと接続したQnACPUからAnUCPUへアクセスする場合は、QnACPUのシステム設定スイッチ2^(※1)をONしてください。

※1 システム設定スイッチ2は、アクセスするシーケンサCPUの機種を設定するスイッチです。

- (d) MACを経由してQCPUまたはQnACPUに接続する場合の設定

MACを経由してQCPUまたはQnACPUに接続する場合は、MACとパソコンのシリアルポートの設定を合わせる必要があります。

パソコンと接続したMACの通信設定を、E-Designer^(※1)を使用して下記のように設定してください。

※1 E-DesignerはMAC用のソフトウェアです。


E-Designerについては、E-Designerのマニュアルを参照してください。

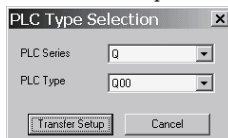
表9-1 MACを経由してQCPUまたはQnACPUに接続する場合の設定

項 目	内 容
データ長	8ビット
ストップビット	1ビット
パリティ	奇数パリティ (Odd)
伝送速度	“Transfer Setup” ダイアログボックスで設定した伝送速度と、同じ値に設定します。

(3) 基本操作

(a) 接続先設定の新規追加

- ① [Online]→[Transfer Setup]メニュー () をクリックし, “Transfer Setup List” ダイアログボックスを表示させます。
- ② **New** ボタンをクリックし, “PLC Type Selection” ダイアログボックスを表示させます。
- ③ 接続先CPUユニットの機種を選択して **Transfer Setup** ボタンをクリックし, “Transfer Setup” ダイアログボックスを表示させます。




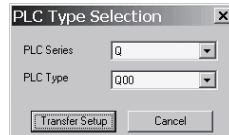
- ④ 接続方法を設定して **OK** ボタンをクリックし, “Transfer Setup” ダイアログを閉じます。
“Transfer Setup” ダイアログボックスの詳細については, 本章(4) (b) を参照してください。
- ⑤ 接続先設定の名前とマスタユニットの装着位置を設定して **Apply** ボタンをクリックすると, 接続方法の設定を終了します。

備 考

接続方法を新規に設定すると, 接続先設定の名前は “TransferSetup*” (*は1以上の連番) に自動で設定されます。
他の名前に変更する方法については, 本章(3) (d) を参照してください。


(b) 接続先設定の修正

- ① [Online]→[Transfer Setup]メニュー () をクリックし, “Transfer Setup List” ダイアログボックスを表示させます。
- ② “Transfer Setup Names” で修正する接続先設定を選択して **Configure** ボタンをクリックし, “PLC Type Selection” ダイアログボックスを表示させます。
- ③ 接続先CPUユニットの機種を選択して **Transfer Setup** ボタンをクリックし, “Transfer Setup” ダイアログボックスを表示させます。




- ④ 接続方法を設定して **OK** ボタンをクリックすると, “Transfer Setup” ダイアログを閉じます。
“Transfer Setup” ダイアログボックスの詳細については, 本章(4) (b) を参照してください。
- ⑤ 接続先設定の名前とマスタユニットの装着位置を設定して **Apply** ボタンをクリックすると, 接続方法の設定を終了します。

(c) 接続先設定の削除

- ① [Online]→[Transfer Setup]メニュー () をクリックし, “Transfer Setup List” ダイアログボックスを表示させます。
- ② “Transfer Setup Names” で削除する接続先設定を選択して **Delete** ボタンをクリックし, 確認のダイアログボックスを表示させます。
- ③ **Yes** ボタンをクリックし, 接続先設定を削除します。


(d) 接続先設定の名前, またはマスタユニットの装着位置の修正

- ① [Online]→[Transfer Setup]メニュー () をクリックし, “Transfer Setup List” ダイアログボックスを表示させます。
- ② “Transfer Setup Names” で修正する接続先設定を選択します。
- ③ 接続先設定の名前を修正する場合は, “Transfer Setup Names” の名前を修正します。
マスタユニットの装着位置を修正する場合は, “Target PLC” の “Module Slot” 修正します。
- ④ **Apply** ボタンをクリックし, 修正を終了します。

備 考

- ① 接続先設定の名前は, 下記半角文字を使用できます。
ただし, 先頭は英字を使用してください。数字または記号は使用できません。
(使用可能文字: 英数字, “_”, “-”, “ ” (スペース), “(”, “)”)
- ② 接続先設定の名前は, 他の接続先設定の名前と重複できません。
他の接続先設定と重複しない名前に設定してください。

(e) 接続先CPUユニットとマスタユニットへのアクセス可否テスト

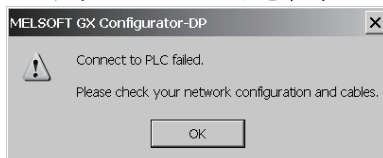
- ① [Online]→[Transfer Setup]メニュー () をクリックし, “Transfer Setup List” ダイアログボックスを表示させます。
- ② “Transfer Setup Names” でテストする接続先設定を選択します。
- ③ **Test** ボタンをクリックし, テストを開始させます。
- ④ 下記のように, テスト結果が表示されます。

④-1 CPUユニットのアクセス結果

CPUユニットのアクセスに成功した場合は, **OK** ボタンをクリックし, マスタユニットのアクセス結果を表示させます。



CPUユニットのアクセスに失敗した場合は, パソコンとCPUユニット間の接続設定の内容とケーブルの接続を確認し, **OK** ボタンをクリックしてテストを終了します。

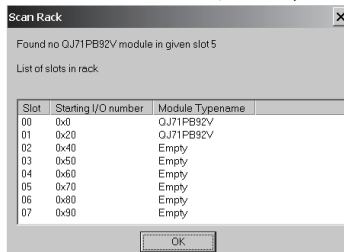


④-2 マスタユニットのアクセス結果

マスタユニットのアクセスに成功した場合は, **OK** ボタンをクリックしてテストを終了します。



マスタユニットのアクセスに失敗した場合は, **OK** ボタンをクリックしてテストを終了し, “Module Slot” を修正してください。



(4) 表示／設定画面

(a) Transfer Setup Listダイアログボックス



図9-1 Transfer Setup Listダイアログボックス

表9-1 Transfer Setup Listダイアログボックスの項目

項 目	内 容
Transfer Setup Name	他の接続先設定への変更，または接続先設定の名前を変更します。
Target PLC	接続先シーケンサについて，情報の表示と設定を行います。
PLC Series	接続先シーケンサのシリーズを表示します。
PLC Type	接続先シーケンサの製品形名を表示します。
Module Slot	マスタユニットの装着位置を設定します。
<input type="button" value="New"/> ボタン	新規に接続先設定を行います。
<input type="button" value="Configure"/> ボタン	“Transfer Setup Name” で選択した，接続先設定の設定内容を変更します。
<input type="button" value="Delete"/> ボタン	“Transfer Setup Name” で選択した接続先設定を削除します。
<input type="button" value="Apply"/> ボタン	接続先設定の名前または“Module Slot” の設定を変更する場合，各入力欄を修正後に本ボタンをクリックします。
<input type="button" value="Test"/> ボタン	接続先のCPUユニットおよびマスタユニットに対して，正常にアクセスできるかをテストします。

(b) Transfer Setupダイアログボックス

“Transfer Setup” ダイアログボックスでの設定方法は、下記ソフトウェアの画面と同じです。

設定方法の詳細については、各ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

- ・ GX IEC Developerの“Transfer Setup”ダイアログボックス
- ・ GX Developerの“Transfer Setup”ダイアログボックス

本マニュアルでは下記の設定例を紹介します。

【自局にアクセスする場合の設定例】

● システムのイメージ図

GX Configurator-DP

CPUユニット : Q06HCPU

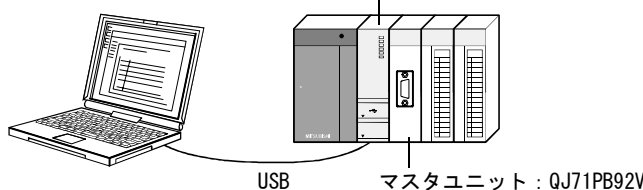


図9-2 システムのイメージ図

● 設定例

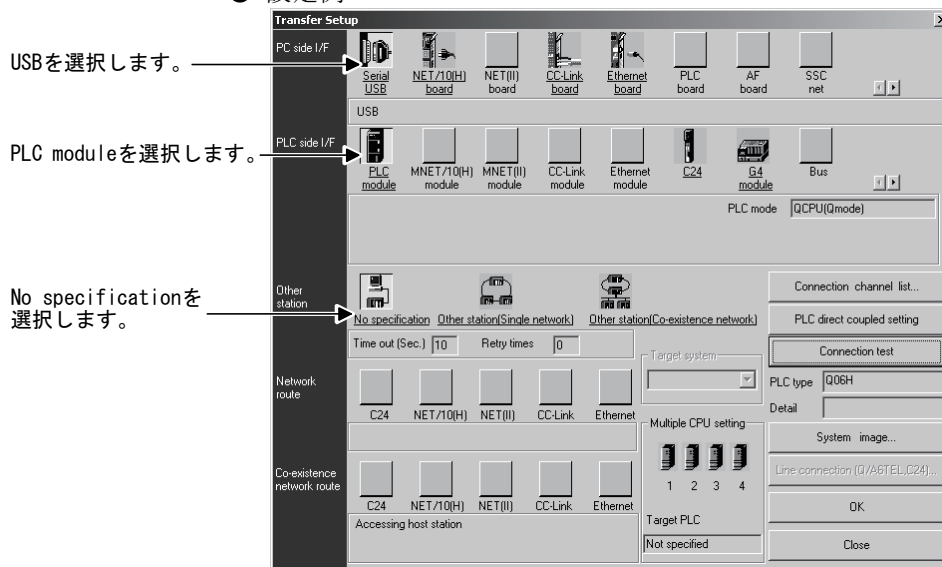


図9-3 設定例

【1種類のネットワークを経由して他局にアクセスする場合の設定例】

● システムのイメージ図

GX Configurator-DP

CPUユニット : Q06HCPU

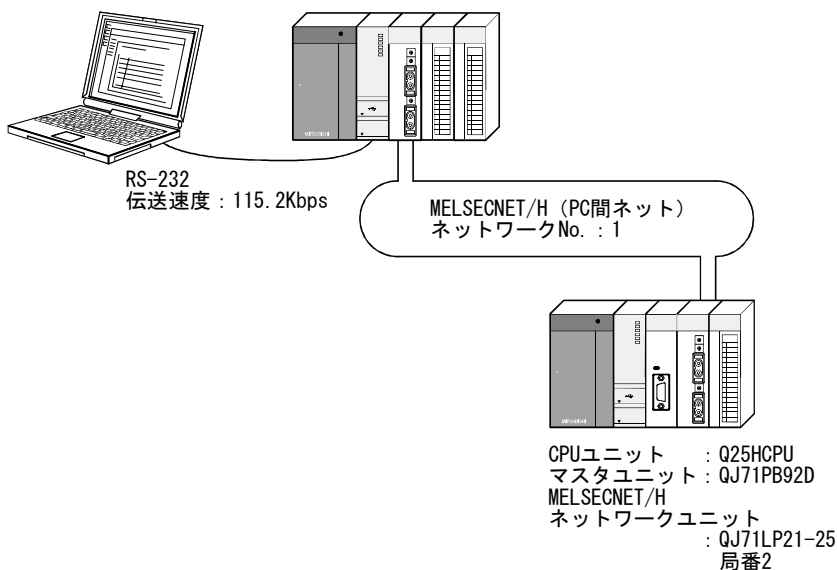


図9-4 システムのイメージ図

● 設定例

Serial USBを選択して
下記を設定します。
・RS-232Cを選択
・Transmission speed
: 115.2Kbps

PLC moduleを選択します。

Other station
(Single network) を
選択します。

NET/10 (H) を選択して
下記を設定します。
・Network No. : 1
・Station No. : 2

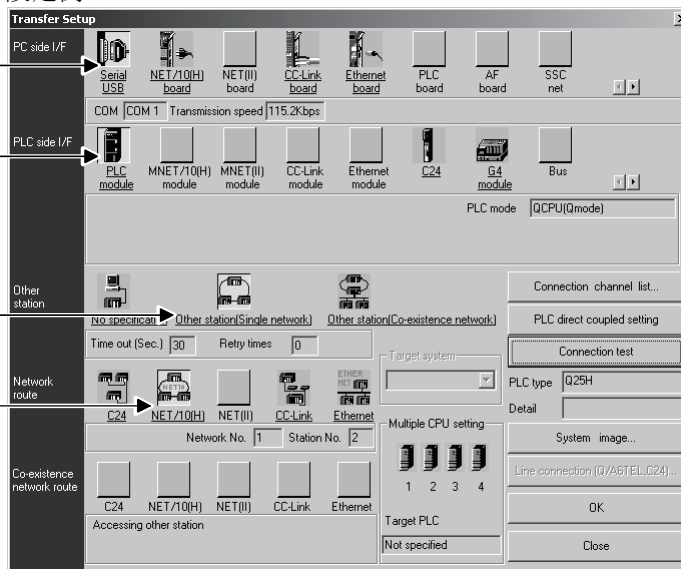
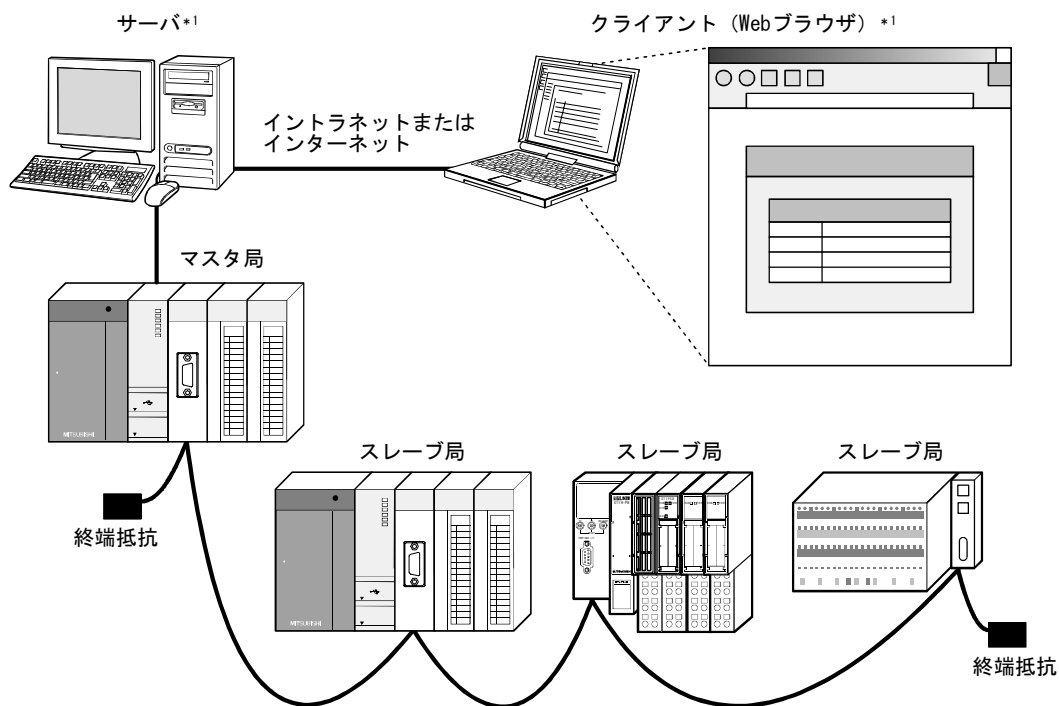


図9-5 設定例

第10章 Webベースオンラインアクセス機能

Webベースオンラインアクセス機能はWebブラウザを使用し、ユニットと直接接続したサーバを経由してアクセスできます。

Webベースオンラインアクセス機能でアクセスすると、マスタユニット/スレーブユニットへのプロジェクトの書き込みや、動作モードの設定などを行えます。



*1 サーバのパソコンのWebブラウザを、クライアントとして使用することもできます。

図10-1 Webベースオンラインアクセス機能のイメージ

ポイント
Webベースオンラインアクセス機能のサーバとシーケンサCPUとの接続は、さまざまな種類があります。 詳細は、本章(1)(d)を参照してください。

(1) システムの要件

(a) 動作環境

Webベースオンラインアクセス機能の動作環境を、下記に示します。

表10-1 Webベースオンラインアクセス機能の動作環境

項 目	内 容
サーバ	GX Configurator-DPの動作環境と同じです。 詳細については、2.1節(1)を参照してください。
クライアント	—
基本ソフトウェア (OS)	下記Webブラウザが動作する基本ソフトウェア。
Webブラウザ	HTML3およびJava2に対応したWebブラウザ。 例：・Microsoft® Internet Explorer 6 ・Netscape® 7.1 ・Konqueror 3.4

(b) マスタユニット／スレーブユニットの制約事項

制約事項のあるマスタユニット／スレーブユニットを、下記に示します。

記載されていないマスタユニット／スレーブユニットについては、初回出荷品から制約事項がありません。

表10-2 マスタユニット／スレーブユニットの制約事項

ユニット形名	ソフトウェアバージョン	制約事項
AJ71PB92D	A	GX Configurator-DP Version 7は、CPUユニット経由でA(1S)J71PB92Dと接続できません。
A1SJ71PB92D	E以前	この場合は、最寄りの支社または代理店に症状を説明、ご相談ください。

(c) 対応シーケンサCPU

Webベースオンラインアクセス機能は、マスタユニットが対応しているすべてのシーケンサCPUに対応しています。

マスタユニットの対応シーケンサCPUについては、各マスタユニットのマニュアルを参照してください。

(d) 対応する接続方法

Webベースオンラインアクセス機能のサーバとシーケンサCPU間には、下記の接続ができます。

(d-1) パソコンとマスタ局の接続

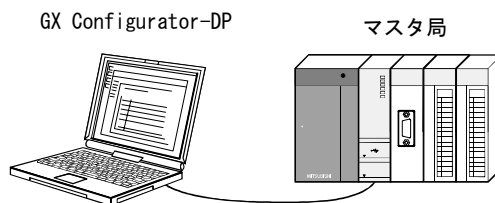


図10-2 接続イメージ

パソコンとマスタ局間には下記の接続ができます。

- RS-232でQCPUと接続します。
- USBでQCPUと接続します。
- RS-422でQnACPUと接続します。
- RS-422でACPUと接続します。
- MAC^(*1)を経由してQCPU、QnACPUまたはACPUと接続します。
- Qシリーズ対応E71を経由してQCPUと接続します。
- QE71またはE71を経由してQnACPUと接続します。
- FX3U-64DP-MとRS-422で接続します。

*1 MACはBeijer Electronics社製のHMI（Human Machine Interface）です。

(d-2) MELSECNET/H（PC間ネット）、MELSECNET/10（PC間ネット）を経由したパソコンとマスタ局の接続

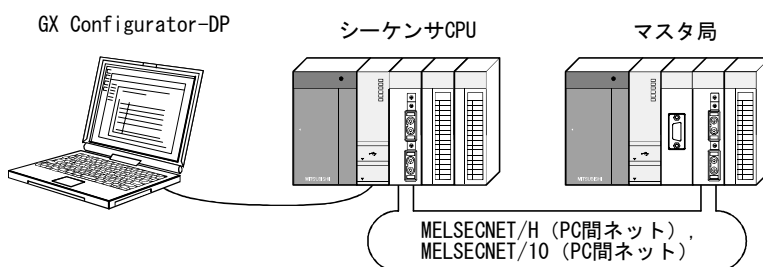


図10-3 接続イメージ

MELSECNET/H（PC間ネット）、MELSECNET/10（PC間ネット）を経由する場合、パソコンとシーケンサCPU間には下記の接続ができます。

- RS-232でQCPUと接続します。
- USBでQCPUと接続します。
- RS-422でQnACPUと接続します。
- MAC^(*1)を経由してQCPUまたはQnACPUと接続します。
- Qシリーズ対応E71を経由してQCPUと接続します。
- QE71またはE71を経由してQnACPUと接続します。

*1 MACはBeijer Electronics社製のHMI（Human Machine Interface）です。

(2) サーバ

サーバは、クライアントの要求^(※1)に従って各ユニットの設定などを行います。

※1 クライアントの要求はWebブラウザで行います。
詳細については、本章(3)を参照してください。

(a) 基本操作

(a-1) サーバの起動操作

- ① 下記いずれかを実行し、“GX Configurator-DP Server Administrator”ダイアログボックスを表示させます。
 - ・ [Tools]→[Server Administrator]メニューをクリックします。
 - ・ スタートメニューから[Programs^(※1)]→[MELSOFT Application]→[GX Configurator-DP]→[GX Configurator-DP Server Administrator]^(※2)をクリックします。

※1 下記OS使用時は、[All Programs]と表示されます。

- ・ Microsoft® Windows® XP Professional Operating System
- ・ Microsoft® Windows® XP Home Edition Operating System

※2 GX Configurator-DPのアイコンを、プログラムフォルダの“MELSOFT Application¥GX Configurator-DP”にインストールした場合です。

- ② Start Server ボタンをクリックし、サーバを起動させます。

(a-2) サーバの終了操作

- ① “GX Configurator-DP Server Administrator”ダイアログボックスで Stop Server ボタンをクリックし、サーバを停止させます。
- ② Leave ボタンをクリックし、“GX Configurator-DP Server Administrator”ダイアログボックスを閉じて終了します。

(b) 表示／設定画面

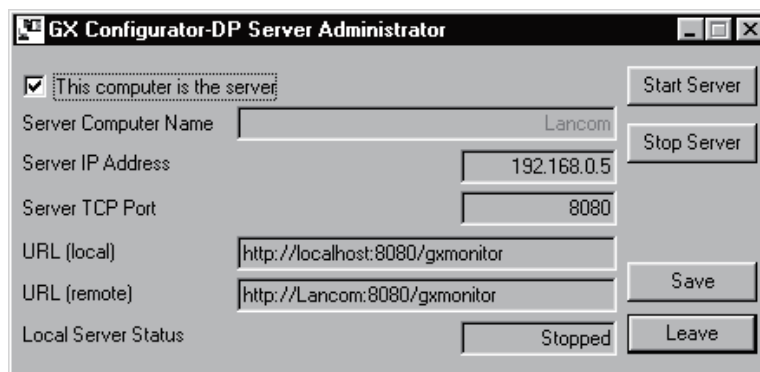
図10-4 GX Configurator-DP Server Administratorダイアログボックス
(メニューバーから表示した場合)

表10-3 GX Configurator-DP Server Administratorダイアログボックスの項目

項 目	内 容
This computer is the server	<p>“GX Configurator Client” コマンドで接続するサーバを変更する場合に、チェックをはずします。</p> <p>本ダイアログボックスをメニューバーから表示した場合に、変更可能になります。</p> <p>チェックなし：他のパソコンで起動したサーバを使用する</p> <p>チェックあり：本ダイアログボックスを表示したパソコンのサーバを使用する</p>
Server Computer Name	<p>“GX Configurator Client” コマンドで接続するサーバを変更する場合に、サーバのホスト名またはIPアドレスを設定します。</p> <p>本ダイアログボックスをメニューバーから表示し、“This computer is the server”のチェックをはずすと、設定可能になります。</p>
Server IP Address	<p>サーバのIPアドレスを表示します。</p> <p>サーバに接続できない場合は、“<not found>”を表示します。</p>
Server TCP Port	サーバが使用するポート番号を表示します。
URL (local)	サーバと同じパソコンでWebブラウザを使用する場合の、サーバのURLを表示します。
URL (remote)	サーバと違うパソコンでWebブラウザを使用する場合の、サーバのURLを表示します。
Local Server Status	<p>サーバの動作状態が表示されます。</p> <p>Stopped：停止中</p> <p>Started：起動中</p>
Start Server ボタン	<p>サーバを起動します。</p> <p>“This computer is the server”にチェックした場合に、操作可能になります。</p>
Stop Server ボタン	<p>サーバを停止します。</p> <p>“This computer is the server”にチェックした場合に、操作可能になります。</p>
Save ボタン	<p>本ダイアログボックスの表示／設定内容を、保存します。</p> <p>メニューバーから起動した場合に、操作可能になります。</p>

(c) 注意事項

サーバのパソコンでは、Webベースオンラインアクセス機能使用中に他のアプリケーションから、ポート番号の8080番を使用しないでください。

他のアプリケーションでポート番号の8080番を使用すると、Webブラウザでページを正常に表示できなくなる場合があります。

(3) クライアント

クライアントは、Webブラウザを使用してサーバにアクセスし、各ユニットの設定などを行います。

(a) 機能一覧

クライアントから実行可能な機能の一覧を、下記に示します。

表10-4 クライアントの機能一覧

機能名	内 容	参照項
Authentication	サーバに登録されたユーザのみが、Webベースオンラインアクセス機能を使用できるように制限します。	本章(3)(a)
Network Path Selection	サーバとシーケンサCPUを接続します。	本章(3)(b)
Rack Configuration	シーケンサCPUのベースユニットに装着された、ユニットの一覧が表示されます。	本章(3)(c)
Module Configuration	マスタユニットまたはスレーブユニットの、動作モードの変更やプロジェクトの書き込みなどを行います。	マスタユニット 本章(3)(d)
		スレーブユニット 本章(3)(h)
Auto Refresh Settings	自動リフレッシュパラメータの一覧が表示されます。	本章(3)(e)
Slave List	マスタユニットに書き込まれているプロジェクトに追加された、全スレーブユニットの情報が一覧表示されます。	本章(3)(f)
Current Module Settings	マスタユニットに書き込まれている各パラメータが表示されます。	本章(3)(g)

(b) 基本操作

(b-1) サーバと同じパソコンでWebブラウザを使用する場合

- ① [Tools]→[GX Configurator Client]メニューを選択し、Webブラウザを起動させます。
- ② Webブラウザには、自動的に“Network Path Selection”ページが表示されます。
“Network Path Selection”ページについては、本章(3)(b)を参照してください。

(b-2) サーバと違うパソコンでWebブラウザを使用する場合

- ① Webブラウザを起動します。
- ② サーバのパソコンの“GX Configurator-DP Server Administrator”ダイアログボックスを参照し、“URL(remote)”に表示されているURLを、クライアントのパソコンのWebブラウザに指定します。
“GX Configurator-DP Server Administrator”ダイアログボックスについては、本章(2)を参照してください。
- ③ Webブラウザには“Authentication”ページが表示されます。
“Authentication”ページについては、本章(3)(a)を参照してください。

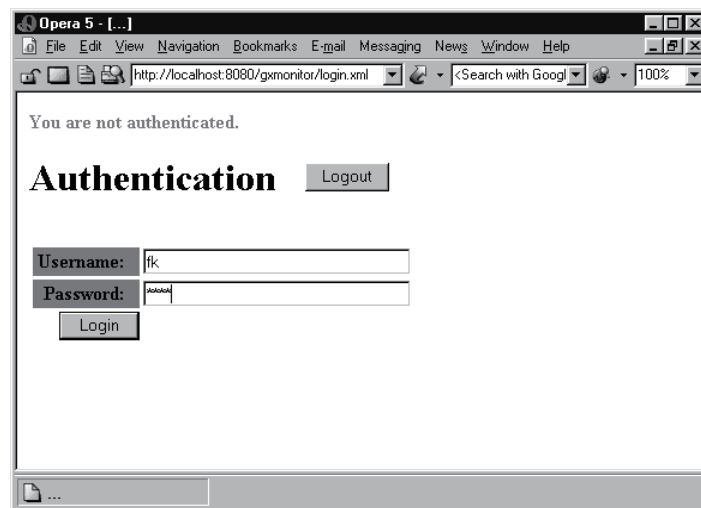
(a) Authentication

サーバに登録されたユーザのみが、Webベースオンラインアクセス機能を使用できるように制限します。

ユーザをサーバに登録するためには、ファイル“users”を編集します。
詳細については、本章(3)(a-1)を参照してください。

(a-1) 基本操作

- ① ユーザ名とパスワードを入力し、**Login** ボタンをクリックします。



- ② 認証に成功すると、サーバにログインして“Network Path Selection”ページを表示します。

(a-2) usersファイルについて

- usersファイルの保存先
“users”ファイルは“C:\MELSEC\GX Configurator-DP\Server\gxmonitor\Admin”フォルダに保存されています。*1
- usersファイルの仕様
“users”ファイルは、メモ帳などで編集可能なテキストファイルです。
“users”ファイルに使用可能な文字コードは、ASCIIコードのみです。
他の文字コードは使用しないでください。
- usersファイルの書式
“users”ファイルは、1行につき1ユーザ分の情報を記述します。
1ユーザ分の情報は、下記の情報を“:”（コロン）区切りで記述します。
① ユーザ名
② パスワード
③ 属性（省略可能）
“read+write”を記述すると、ログイン後に下記の処理を行えるようになります。

表10-5 read+writeの記述が必要な処理

処 理	ページ名称		参照項
CPUユニットの動作状態の表示および変更	Rack Configuration		本章(3) (c)
	Module Configuration	マスタユニット	本章(3) (d)
		スレーブユニット	本章(3) (h)
各ユニットの動作モードの変更	Module Configuration	マスタユニット	本章(3) (d)
プロジェクトを各ユニットへ書込む		スレーブユニット	本章(3) (h)
入出力データ交信の開始／停止			

“read+write”以外を記述するか省略した場合は、上記の処理は行えません。

• usersファイルの例

profibus:gxmonitor	←	①
gxinet:super:read+write	←	②

①のユーザの場合

ユーザ名 : profibus
パスワード : gxmonitor
属性 : 読み込みのみ可能

②のユーザの場合

ユーザ名 : gxinet
パスワード : super
属性 : 読み込み／書き込み可能

(b) Network Path Selection

サーバのパソコンとシーケンサCPUを接続します。

(b-1) 基本操作

- ① プルダウンメニューから接続方法を選択します。 (*1)

プルダウンメニューの接続方法については、本章(3) (b-3)を参照してください。

*1 プルダウンメニューに接続方法がない場合は、ネットワーク設定ファイルに接続方法を記述してサーバにアップロードすると、プルダウンメニューに接続方法を追加できます。

詳細については、本章(3) (b-4)を参照してください。

- ② **Connect** ボタンをクリックし、サーバのパソコンとシーケンサCPUを接続させます。
- ③ 接続に成功すると、“Rack Configuration” ページを表示します。

(a) 接続方法を“Transfer Setup” ダイアログボックスから流用する方法

- ① “Transfer Setup” ダイアログボックスでXMLファイルを出力します。
“Transfer Setup” ダイアログボックスについては、9章を参照してください。
- ② Webブラウザで **Browse** ボタンをクリックし、XMLファイルを選択します。
- ③ **Upload** ボタンをクリックし、XMLファイルをサーバのパソコンにアップロードさせます。
- ④ アップロードに成功すると、“Transfer Setup” ダイアログボックスで設定した接続方法が、プルダウンメニューに追加されます。

(b-2) 表示／設定画面

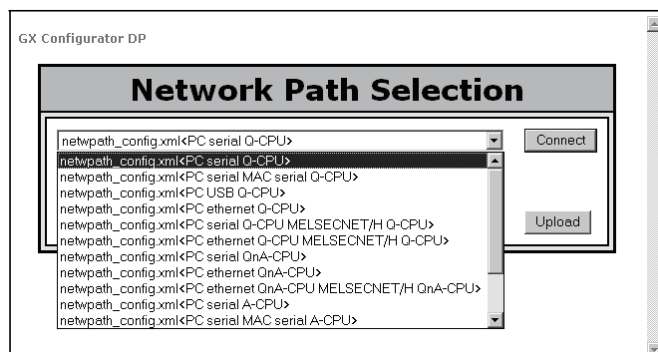


図10-5 Network Path Selectionページ

表10-6 Network Path Selectionページの項目

項 目	内 容
Connect ボタン	プルダウンメニューから選択した方法で、サーバとシーケンサCPUを接続します。
Browse ボタン	接続方法を“Transfer Setup” ダイアログボックスから流用する場合に、XMLファイルを選択します。
Upload ボタン	Browse ボタンで選択したXMLファイルをサーバにアップロードし、接続方法をプルダウンメニューに追加します。

(b-3) プルダウンメニューの接続方法

デフォルトで選択できるプルダウンメニューの接続方法を、下記に示します。

表10-7 サーバとシーケンサCPUの接続方法一覧

項 目	内 容
netwpath_config.xml<PC serial Q-CPU>	RS-232でQCPUと接続します。
netwpath_config.xml<PC serial MAC serial Q-CPU>	MAC (*1) を経由してQCPUと接続します。
netwpath_config.xml<PC USB Q-CPU>	USBでQCPUと接続します。
netwpath_config.xml<PC ethernet Q-CPU>	EthernetでQCPUと接続します。
netwpath_config.xml<PC serial Q-CPU MELSECNET/H Q-CPU>	MELSECNET/H (PC間ネット), MELSECNET/10 (PC間ネット) でQCPUと接続します。
netwpath_config.xml<PC ethernet Q-CPU MELSECNET/H Q-CPU>	EthernetとMELSECNET/H (PC間ネット), MELSECNET/10 (PC間ネット) で, QCPUと接続します。
netwpath_config.xml<PC serial QnA-CPU>	RS-422でQnACPUと接続します。
netwpath_config.xml<PC ethernet QnA-CPU>	EthernetでQnACPUと接続します。
netwpath_config.xml<PC ethernet QnA-CPU MELSECNET/H QnA-CPU>	EthernetとMELSECNET/H (PC間ネット), MELSECNET/10 (PC間ネット) で, QnACPUと接続します。
netwpath_config.xml<PC serial A-CPU>	RS-422でACPUと接続します。
netwpath_config.xml<PC serial MAC serial A-CPU>	MAC (*1) を経由してACPUと接続します。
netwpath_config.xml<PC serial QnA-CPU MELSECNET/H QnA-CPU>	RS-422とMELSECNET/H (PC間ネット), MELSECNET/10 (PC間ネット) で, QnACPUと接続します。
netwpath_config.xml<PC serial Q-CPU MELSECNET/H QnA-CPU>	MELSECNET/H (PC間ネット), MELSECNET/10 (PC間ネット) でQnACPUと接続します。
netwpath_config.xml<PC ethernet Q-CPU MELSECNET/H QnA-CPU>	EthernetとMELSECNET/H (PC間ネット), MELSECNET/10 (PC間ネット) で, QnACPUと接続します。
netwpath_config.xml<PC serial FX-CPU>	RS-422でFX _{3U} -64DP-Mと接続します。

*1 MACはBeijer Electronics社製のHMI (Human Machine Interface)です。

(b-4) ネットワーク設定ファイルについて

ネットワーク設定ファイルは，“Network Path Selection” ページで選択する接続方法を，XMLで記述したファイルです。

“Network Path Selection” ページの接続方法以外で接続する場合に，ネットワーク設定ファイルに接続方法を記述してサーバにアップロードすると，選択できるようになります。

ポイント

接続方法を追加するためには，XMLの知識が必要です。

(b-4-1) 接続方法の追加操作

- ① 本章(3) (b-4-2)を参照して，追加する接続方法を記述したネットワーク設定ファイルを作成します。

ネットワーク設定ファイルの作成は，間違いを減らすために，追加する接続方法と似た接続方法を，下記ファイルから流用して修正することを推奨します。

【流用ファイル】

C:\MELSEC\GX Configurator-DP\Server\gxmonitor\WebApps\config\
netwpath_config.xml

(GX Configurator-DPを“C:\MELSEC\GX Configurator-DP” にインストールした場合です。)

- ② “Network Path Selection” ページで **Browse** ボタンをクリックし，作成したネットワーク設定ファイルをサーバにアップロードします。
- ③ アップロードに成功すると，①でネットワーク設定ファイルに記述した接続方法が，プルダウンメニューに追加されます。

(b-4-2) ネットワーク設定ファイルの書式仕様

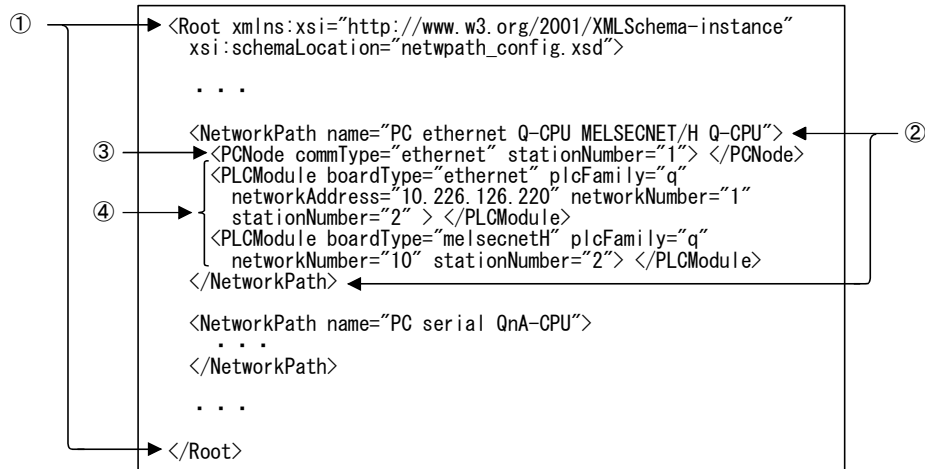


図10-6 ネットワーク設定ファイル

- ① すべての接続方法を，“Root”要素の子要素として記述します。
 “Root”要素に記述する属性を，下記に示します。

表10-8 Root要素の属性一覧

属 性	内 容
xmlns:xsi	下記URIを記述し，名前空間宣言を行います。 設定範囲：xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"（固定）
xsi:schemaLocation	下記ファイル名を記述し，スキーマ文書を特定します。 設定範囲：netwpath_config.xsd（固定）

- ② 1種類の接続方法を，1つの“NetworkPath”要素に記述します。
 “NetworkPath”要素は，“Root”要素の子要素として記述します。
 “NetworkPath”要素に記述する属性を，下記に示します。

表10-9 NetworkPath要素の属性一覧

属 性	内 容
name	接続方法の名前を記述します。 本属性値が，“Network Path Selection”ページのプルダウンメニューに表示されます。 設定範囲：半角英数字，半角スペース，一部半角記号（“/”，“-”）

- ③ パソコン側の接続方法を，“PCNode”要素に記述します。
 “PCNode”要素は，“NetworkPath”要素の子要素として記述します。
 “PCNode”要素に記述する属性を，下記に示します。

表10-10 PCNode要素の属性一覧

属 性	内 容
baudRate	RS-232またはRS-422で接続する場合に，伝送速度を記述します。 設定範囲：9600，19200，38400，57600，115200
commPort	RS-232またはRS-422で接続する場合に，接続するCOMポートの番号を記述します。 設定範囲：1～10
commType	接続するインタフェースの種類を記述します。 設定範囲：“serial”，“usb”，“ethernet”
portNumber	Ethernetで接続する場合に，ポート番号を記述します。 設定範囲：1～65535
stationNumber	パソコンの局番を記述します。 設定範囲：0～64

- ④ シーケンサCPU1台分の接続方法を，“PLCModule”要素に記述します。
 “PLCModule”要素は，“NetworkPath”要素の子要素として記述します。
 MELSECNET/H（PC間ネット），MELSECNET/10（PC間ネット）を使用する場合は，シーケンサCPUを2台使用するため，“PLCModule”要素を2つ記述します。
 “PLCModule”要素に記述する属性を，下記に示します。

表10-11 PLCModule要素の属性一覧

属 性	内 容
boardType	パソコンと直接接続する場合は，パソコンと接続するユニットを記述します。 他シーケンサCPUを中継する場合は，中継するシーケンサCPUと接続するユニットを記述します。 MAC ^(*1) と接続するシーケンサCPUの場合は，“mac”を記述します 設定範囲：“CPU”（CPUユニット）， “melsecnetH”（MELSECNET/H（PC間ネット），MELSECNET/H（リモートI/Oネット） またはMELSECNET/10（PC間ネット））， “ethernet”（Ethernetユニット），“mac”
networkAddress	“boardType”に“ethernet”を記述した場合に，そのユニットのIPアドレスまたはホスト名を記述します。
networkNumber	“boardType”に“melsecnetH”または“ethernet”を記述した場合に，そのユニットが接続するネットワークのネットワークNo.を記述します。 設定範囲：1～239
plcFamily	設定対象シーケンサCPUのシリーズを記述します。 設定範囲：“q”（MELSEC-Qシリーズ），“qna”（MELSEC-QnAシリーズ）， “a”（MELSEC-Aシリーズ），“fx”（MELSEC-F FXシリーズ）
protocol	“boardType”に“ethernet”を記述した場合に，そのユニットが接続するネットワークで使用するプロトコルを記述します。 設定範囲：“udp”，“tcp”
stationNumber	“boardType”に“melsecnetH”または“ethernet”を記述した場合に，そのユニットの局番を記述します。 設定範囲：0～64

*1 MACはBeijer Electronics社製のHMI(Human Machine Interface)です。

(b-4-3) ネットワーク設定ファイルの例

【RS-232とMELSECNET/Hを使用した場合】

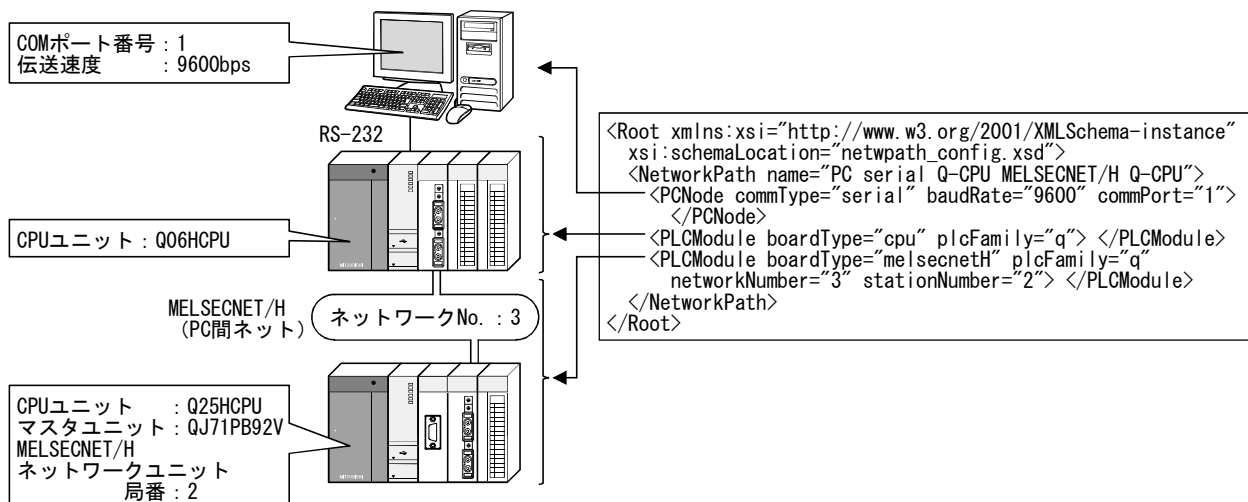


図10-7 RS-232とMELSECNET/Hを使用した場合

【EthernetとMELSECNET/Hを使用した場合】

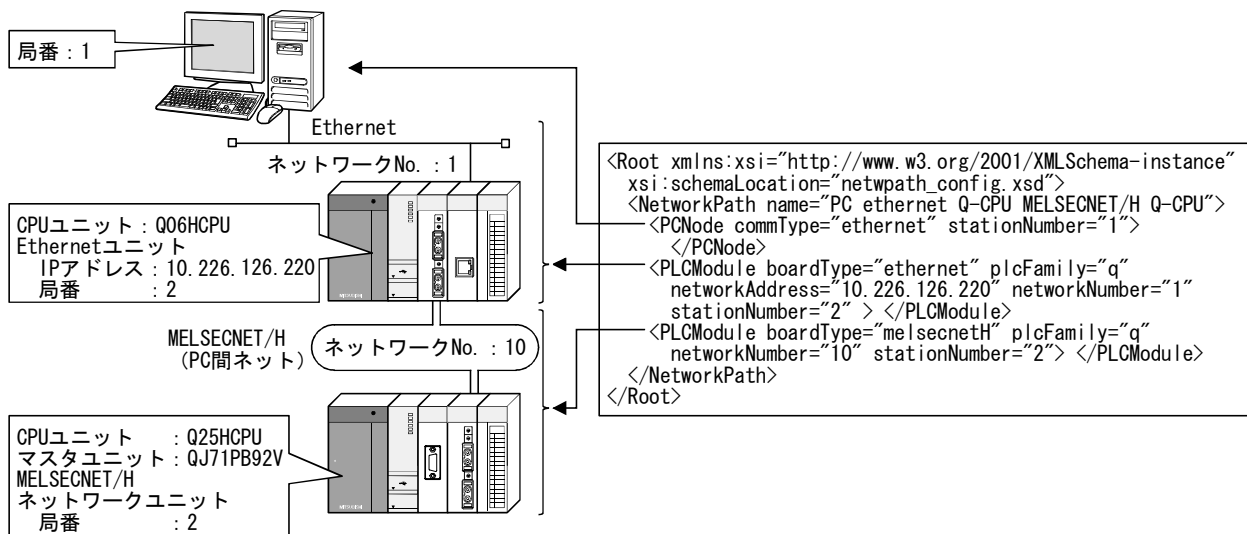


図10-8 EthernetとMELSECNET/Hを使用した場合

(c) Rack Configuration

シーケンサCPUのベースユニットに装着された、ユニットの一覧が表示されます。

(c-1) 表示／設定操作

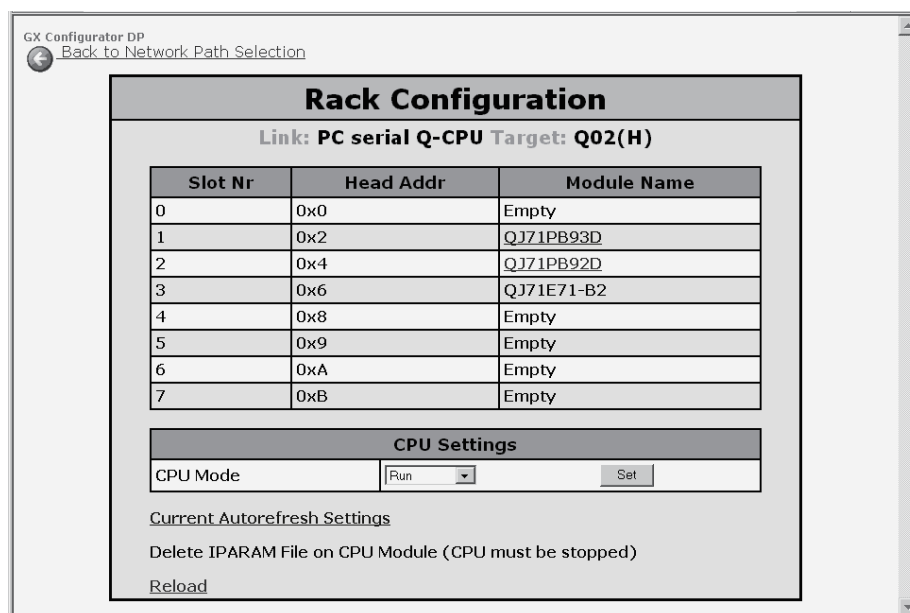


図10-9 Rack Configurationページ

表10-12 Rack Configurationページの項目

項 目	内 容
Slot Nr	スロット番号が表示されます。
Head Addr	先頭入出力番号が表示されます。（単位：× 10H）
Module Name	<p>ベースユニットに装着されたユニットの、ユニット形名が表示されます。 ユニットがマスタユニットまたはスレーブユニットの場合は、クリックすると“Module Configuration”ページが表示されます。 “Module Configuration”ページについては、下記を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスタユニット 本章(3) (d) ・スレーブユニット 本章(3) (h)
CPU Settings	<p>CPUユニットの動作状態が表示されます。 動作状態を変更する場合は、プルダウンメニューから変更する動作状態を選択し、Set ボタンをクリックすると、変更できます。 CPUユニットの状態によっては、操作が有効にならない場合もあります。（たとえば、CPUユニットがRUN中にRESETは実行できません。） 詳細については、ご使用のCPUユニットのマニュアルを参照してください。</p>
Current Autorefresh Settings	<p>“Auto Refresh Settings” ページが表示されます。 CPUユニットに自動リフレッシュパラメータが書き込まれている場合に、操作可能になります。 “Auto Refresh Settings” ページについては、本章(3) (e)を参照してください。</p>
Delete IPARAM File on CPU Module	<p>CPUユニットに書き込まれている自動リフレッシュパラメータを削除します。 CPUユニットに自動リフレッシュパラメータが書き込まれていて、CPUユニットがSTOP状態の場合に操作可能になります。</p>

(d) Module Configuration (マスタユニットの場合)

“Rack Configuration” ページで選択したマスタユニットの情報が表示されます。

動作モードの変更やプロジェクトの書き込みなどを行います。

(d-1) 表示／設定画面

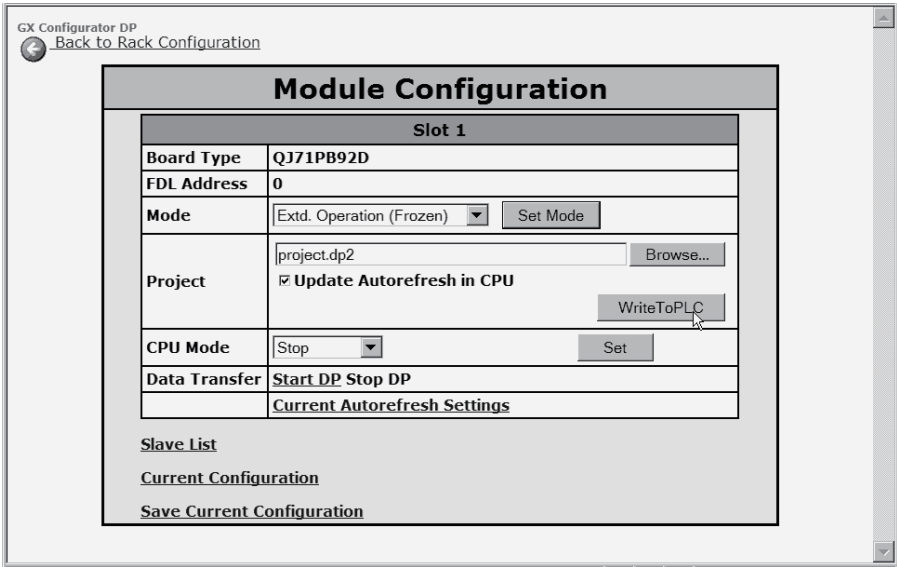


図10-10 Module Configurationページ

表10-13 Module Configurationページの項目

項 目	内 容
Board Type	マスタユニットのユニット形名が表示されます。
FDL Address	マスタユニットのFDLアドレスが表示されます。 QJ71PB92□またはFX3U-64DP-Mの場合のみ、表示されます。
Mode	マスタユニットの動作モードを表示および変更します。 動作モードを変更する場合は、プルダウンメニューから変更する動作モードを選択し、 [Set Mode] ボタンをクリックすると、変更できます。 QJ71PB92□の場合は、動作モードの表示および変更ができます。 A(1S)J71PB92Dの場合は、動作モードの表示のみできます。 FX3U-64DP-Mの場合は、動作モードの表示および変更ができません。 プルダウンメニューに表示される動作モードについては、本章(3)(d-2)を参照してください。
Project	下記の操作を行い、GX Configurator-DPで作成したマスタユニットのプロジェクトを書き込みます。 プロジェクトの書き込み中は入出力データ通信を停止し、書き込みが終了すると再開します。 ① [Browse] ボタンをクリックし、マスタユニットのプロジェクトを選択します。 ② 自動リフレッシュパラメータをシーケンサCPUに書き込む場合は、“Update Autorefresh in CPU”をチェックします。(シーケンサCPUがSTOP状態の場合に、チェックできます。) ③ [WriteToPLC] ボタンをクリックし、プロジェクトを書き込みます。

(次のページへつづく)

表10-13 Module Configurationページの項目（続き）

項 目	内 容
CPU Mode	CPUユニットの動作状態を表示および変更します。 動作状態を変更する場合は、プルダウンメニューから変更する動作状態を選択し、 Set ボタンをクリックすると、変更できます。 CPUユニットの状態によっては、操作が有効にならない場合があります。 （例：CPUユニットがRUN中にRESETは実行できません。） 詳細については、ご使用のCPUユニットのマニュアルを参照してください。
Data Transfer	入出力データ交信を開始／停止します。 Start DP : 入出力データ交信を開始します。 Stop DP : 入出力データ交信を停止します。
Current Autorefresh Settings	“Auto Refresh Settings” ページが表示されます。 “Auto Refresh Settings” ページについては、本章(3) (e)を参照してください。
Slave List	“Slave List” ページが表示されます。 “Slave List” ページについては、本章(3) (f)を参照してください。
Current Configuration	“Current Module Settings” ページが表示されます。 QJ71PB92DまたはA(1S) J71PB92Dの場合は、CPUユニットがSTOP状態のときに表示可能になります。 “Current Module Settings” ページについては、本章(3) (g)を参照してください。
Save Current Configuration	各パラメータの設定を拡張子(*. gxdp)のXMLファイルに保存します。 QJ71PB92DまたはA(1S) J71PB92Dの場合は、CPUユニットがSTOP状態のときに保存可能になります。 XMLファイルは、拡張子を*. xmlに変更するとWebブラウザで閲覧できます。

(d-2) プルダウンメニューに表示される動作モード

プルダウンメニューに表示される動作モードを、下記に示します。

- ・A(1S) J71PB92Dの動作モード

表10-14 A(1S) J71PB92Dの動作モード

表 示	内 容
Normal Operation	通常サービスモード
Parameter Set	パラメータ設定モード
Extd. Operation	拡張サービスモード
Normal Operation (Frozen)	通常サービスモード*1
Parameter Set (Frozen)	パラメータ設定モード*1
Extd. Operation (Frozen)	拡張サービスモード*1

*1 フラッシュROMに登録されている動作モード

・QJ71PB92Dの動作モード

表10-15 QJ71PB92Dの動作モード

表 示	内 容
Normal Operation	通常サービスモード (MODE 0)
Parameter Set	パラメータ設定モード (MODE 1)
Extd. Operation	拡張サービスモード (MODE E)
Normal Operation (Frozen)	通常サービスモード (MODE 0) *1
Parameter Set (Frozen)	パラメータ設定モード (MODE 1) *1
Extd. Operation (Frozen)	拡張サービスモード (MODE E) *1
Clear Frozen Mode	Set Mode ボタンをクリックすると、フラッシュROMに登録されている動作モードを削除し、パラメータ設定モードに変更します。
Clear FlashROM	Set Mode ボタンをクリックすると、フラッシュROMを初期化します。

*1 フラッシュROMに登録されている動作モード

・QJ71PB92Vの動作モード

表10-16 QJ71PB92Vの動作モード

表 示	内 容
Parameter Set	パラメータ設定モード
Self Diagnosis	自己診断モード
DP Operation	通信モード (モード3)
Parameter Set (Frozen)	パラメータ設定モード *1
DP Operation (Frozen)	通信モード (モード3) *1
Clear Frozen Mode	Set Mode ボタンをクリックすると、フラッシュROMに登録されている動作モードを削除し、パラメータ設定モードに変更します。
Clear FlashROM	Set Mode ボタンをクリックすると、フラッシュROMを初期化します。

*1 フラッシュROMに登録されている動作モード

(d-3) 注意事項

(d-3-1) プロジェクト書き込み時の注意事項

① マスタユニットの確認

プロジェクトを書込む前に、書き込み先のマスタユニットとプロジェクトのマスタユニットが同じ機種か確認してください。

機種が違う場合は、下記いずれかを行ってください。

- ・書き込み先のマスタユニットを、プロジェクトのマスタユニットと同じ機種に交換します。
- ・“Change Master Type” コマンドで、プロジェクトのマスタユニットを書き込み先のマスタユニットに変更します。
“Change Master Type” コマンドについては、5.1節(7)を参照してください。

上記の処置を行わない場合は、プロジェクトをマスタユニットへ書き込むことができません。

② 自動リフレッシュパラメータ書き込み時の注意事項

GX Developer起動中にWebベースオンラインアクセス機能で自動リフレッシュパラメータを書き込んだ場合、GX DeveloperのPC読出およびPCデータ削除などのファイル一覧に表示されません。

GX DeveloperのPC読出およびPCデータ削除の Refresh view ボタンによりファイル一覧を更新してください。

(d-3-2) 動作モード変更の注意事項

① マスタユニットを二重化システムに装着した場合の注意事項

- ・ケーブル（RS-232ケーブル、USBケーブルなど）を接続していない二重化CPUに装着した、マスタユニットの動作モードは変更できません。
二重化システム構築時に両系のマスタユニットの動作モードを変更する場合は、それぞれの系にケーブル（RS-232ケーブル、USBケーブルなど）を接続し、マスタユニットの動作モードを変更してください。
- ・二重化CPUの運転モードがバックアップモードの場合は、マスタユニットの動作モードを変更できません。
マスタユニットの動作モードの変更は、二重化CPUの運転モードがセパレートモードまたはデバッグモードのときに行ってください。
- ・二重化CPUに装着されたマスタユニットの動作モードを変更する場合は、二重化CPUのトラッキング転送を停止してください。
トラッキング転送を停止せずにマスタユニットの動作モードを変更すると、正常に動作しなくなる場合があります。
- ・マスタユニットの動作モード変更後に、二重化CPUの運転モードをバックアップモードにする場合は、両系のマスタユニットの動作モードを同一に設定してください。

② A(1S)J71PB92Dの動作モード変更の注意事項

A(1S)J71PB92Dユニットを使用する場合は、ユニット正面のモード設定スイッチを1（パラメータ設定モード）に設定してください。

モードの変更は、CPUリセットすると反映されます。

(d-3-3) Save Current Configurationで保存するXMLファイルについて

Save Current Configurationで保存するXMLファイルは、プロジェクトファイルではありません。

このため、GX Configurator-DPでは開けません。

(e) Auto Refresh Settings

シーケンサCPUに書き込まれている全ユニットの自動リフレッシュパラメータが、一覧表示されます。

(e-1) 表示／設定画面

Head addr.	Module Name	Consistency Device	Direction	Buffer addr.	Buffer size	Device
0x0	QJ71PB92V	XD	input	6144	8	X20
			output	14336	12	Y20
			output	14348	1	X10
			input	6152	1	X0
			output	14349	1	Y0
0x2	QJ71PB93D	X10	input	0	2	X0
			output	256	2	Y0

図10-11 Auto Refresh Settingsページ

表10-17 Auto Refresh Settingsページの項目

項 目	内 容
Head addr.	先頭入出力番号が表示されます。(単位: × 10h)
Module Name	ユニットの製品形名が表示されます。
Direction	自動リフレッシュさせるバッファメモリについて、入力データか出力データかが表示されます。
Buffer addr.	自動リフレッシュさせるバッファメモリアドレスが表示されます。
Buffer size	自動リフレッシュさせるバッファメモリのデータサイズが表示されます。(単位: ワード)
Device	自動リフレッシュ先デバイスが表示されます。

(f) Slave List

マスタユニットに書き込まれているプロジェクトに追加された、全スレーブユニットの情報が一覧表示されます。

ポイント	マスタユニットを二重化システムに装着している場合は、ケーブル（RS-232ケーブル、USBケーブルなど）を接続した二重化CPUに装着されている、マスタユニットがモニタ対象になります。
-------------	---

(f-1) 表示／設定画面

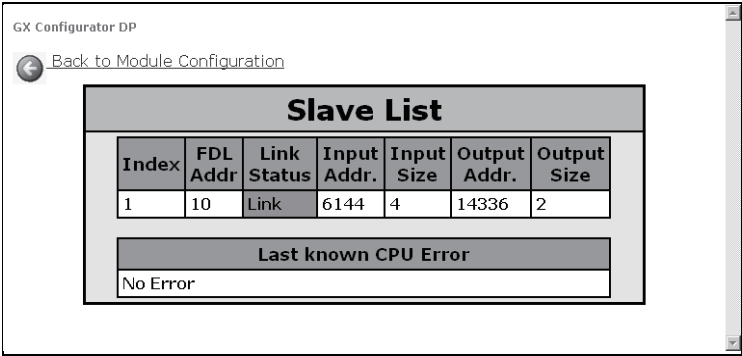


図10-12 Slave Listページ

表10-18 Slave Listページの項目

項 目	内 容
FDL Addr	FDLアドレスが表示されます。
Link Status	入出力データ交信の状態が表示されます。 Link : 入出力データ交信中 No Link : 入出力データ交信停止中
Input Addr.	入力データのバッファメモリアドレスが表示されます。
Input Size	入力データのサイズが表示されます。（単位：ワード）
Output Addr.	出力データのバッファメモリアドレスが表示されます。
Output Size	出力データのサイズが表示されます。（単位：ワード）
Last known CPU Error	シーケンサCPUで発生した最新のエラーが表示されます。

(g) Current Module Settings

マスタユニットに書き込まれている各パラメータが表示されます。

ポイント
マスタユニットを二重化システムに装着している場合は、ケーブル（RS-232ケーブル、USBケーブルなど）を接続した二重化CPUに装着されている、マスタユニットがモニタ対象になります。

(g-1) 表示／設定画面

GX Configurator DP

[Back to Module Configuration](#)

Current Module Settings

Read Master Parameter from Module

FDL address	Clear state	Min. slave interval	Polling timeout	Data control time	Autom. Refresh	Consistency	Handshake	WD for time sync.
0	0	80	50	100	0	0	0	0

Read Bus Parameter from Module

Baudrate	T_sl	min T_sdr	max T_sdr	T_qui	T_set	T_tr	GAP	HSA	Max retry limit
1500000	300	11	150	0	1	50000	10	126	1

Read Slave List from Module

Index	FDL address	Slave Active	Slave Type	Sync Req.	Freeze Req.	WD enabled	WD Time	min T_sdr	Ident No.	Grp. Ident	Byte Swap
1	10	Active	DP	0	0	0	5	11	0x659	0	0

Slave User and Configuration Parameter

Index	FDL address	User Prm.	Cfg. Data
1	10	0x00 0x00 0x00	0x70 0x50

Slave Modules

Modules of Slave	Index	Input Size	Output Size
Slave 1	1	2	2
	2	2	0

図10-13 Current Module Settingsページ

表10-19 Current Module Settingsページの項目

項 目	内 容
Read Master Parameter from Module	マスタパラメータが表示されます。
Read Bus Parameter from Module	バスパラメータが表示されます。
Read Slave List from Module	スレーブパラメータが表示されます。
Slave User and Configuration Parameter	ユーザパラメータおよびCfg. Dataが表示されます。
Slave Modules	スレーブユニットに追加されている、ユニットが表示されます。

(h) Module Configuration (スレーブユニットの場合)

“Rack Configuration” ページで選択したスレーブユニットの情報が表示されます。

動作モードの変更やプロジェクトの書き込みなどを行います。

(h-1) 表示／設定画面

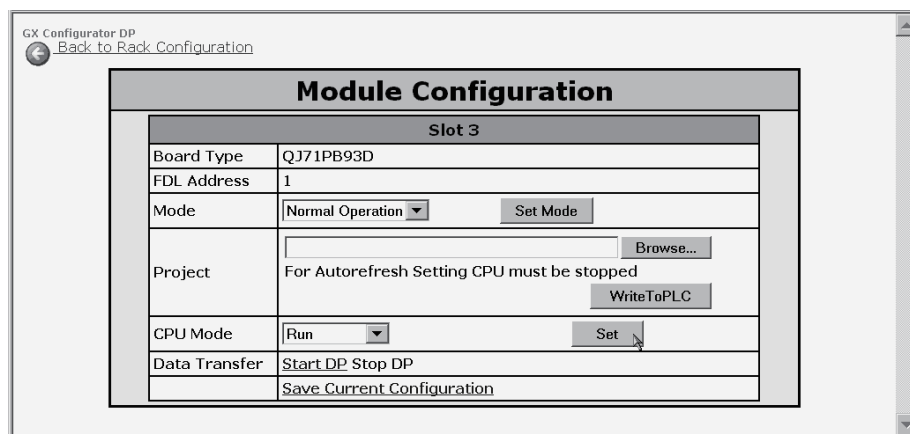


図10-14 Module Configurationページ

表10-20 Module Configurationページの項目

項 目	内 容
Board Type	スレーブユニットの製品形名が表示されます。
FDL Address	スレーブユニットのFDLアドレスが表示されます。
Mode	スレーブユニットの動作モードを表示および変更します。 動作モードを変更する場合は、プルダウンメニューから変更する動作モードを選択し、 Set Mode ボタンをクリックすると、変更できます。 プルダウンメニューに表示される動作モードについては、本章(3) (h-2)を参照してください。
Project	下記の操作を行い、GX Configurator-DPで作成したスレーブユニットのプロジェクトを書き込みます。 プロジェクトの書き込み中は入出力データ通信を停止し、書き込みが終了すると再開します。 ① Browse ボタンをクリックし、スレーブユニットのプロジェクトを選択します。 ② 自動リフレッシュパラメータをシーケンサCPUに書き込む場合は、“Update Autorefresh in CPU”をチェックします。(シーケンサCPUがSTOP状態の場合に、チェックできます。) ③ WriteToPLC ボタンをクリックし、プロジェクトを書き込みます。
CPU Mode	CPUユニットの動作状態を表示および変更します。 動作状態を変更する場合は、プルダウンメニューから変更する動作状態を選択し、 Set ボタンをクリックすると、変更できます。 CPUユニットの状態によっては、操作が有効にならない場合があります。 (例：CPUユニットがRUN中にRESETは実行できません。) 詳細については、ご使用のCPUユニットのマニュアルを参照してください。
Data Transfer	入出力データ通信中に、バッファメモリの入力送信エリアのデータ通信を開始／停止します。 Start DP：入力送信エリアのデータ通信を開始します。 Stop DP：入力送信エリアのデータ通信を停止します。
Save Current Configuration	設定内容を、スレーブユニットのプロジェクトファイルに保存します。 保存したプロジェクトファイルは、GX Configurator-DPで開くことができます。

(h-2) プルダウンメニューに表示される動作モード

プルダウンメニューに表示される動作モードを、下記に示します。

表10-21 QJ71PB93Dの動作モード

表 示	内 容
Normal Operation	通常運転モード
Diagnostics Mode	自己診断モード

(h-3) 注意事項

① 自動リフレッシュパラメータ書き込み時の注意事項

GX Developer起動中にWebベースオンラインアクセス機能で自動リフレッシュパラメータを書き込んだ場合、GX DeveloperのPC読出およびPCデータ削除などのファイル一覧に表示されません。

GX DeveloperのPC読出およびPCデータ削除の **Refresh view** ボタンによりファイル一覧を更新してください。

メ 毛

[illegible]

第11章 トラブルシューティング

下記のトラブルが発生した場合は、参照項に示すトラブルシューティングを行ってください。

表11-1 トラブルシューティング一覧

No.	トラブル内容	参照項
1	“GX Configurator-DP Server Administrator” ダイアログボックスを開くときに、下記のメッセージが表示された場合。 “Your computer has different names for DNS(“xxx”) and Netbios(“yyy”).” (メッセージ内の“xxx”および“yyy”は、パソコンの設定により変わります。)	本章(1)
2	サーバを起動してから最初にアクセスしたときに、ページが表示されない場合。	本章(2)(a)
3	サーバとクライアントが同一イントラネットのパソコンのときに、プロキシが設定されているWebブラウザで、ページが表示されない場合。	本章(2)(b)
4	複数のWebブラウザを起動したときに、正常にページを表示できなくなった場合。	本章(2)(c)

(1) ホスト名とNetBIOS名が違っている場合

サーバのパソコンの、ホスト名とNetBIOS名が違っている場合は、下記のようなダイアログボックスが表示されます。(下記ダイアログボックスは、“GX Configurator-DP Server Administrator” ダイアログボックスを開くときに、表示されます。)

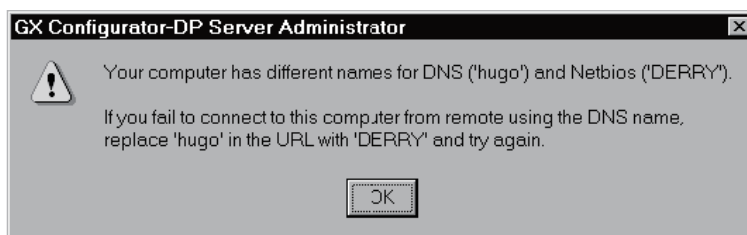


図11-1 ダイアログボックス

上記ダイアログボックスが表示されたときに、Webブラウザでページを表示できない場合は、ダイアログボックスのメッセージに従ってURLを修正し、ページを表示させてください。

備 考

ホスト名またはNetBIOS名を統一すると、上記の問題は発生しなくなります。
ホスト名またはNetBIOS名を修正する場合は、ネットワーク管理者と相談してください。

(2) Webベースオンラインアクセス機能のページが表示されない場合

(a) サーバを起動してから最初にアクセスしたときに、ページが表示されない場合

サーバを起動してから最初にアクセスしたときにページが表示されない場合は、15～30秒後にWebブラウザの表示を更新してください。

サーバの起動処理に15～30秒程度かかる場合があります、起動処理中にアクセスしてもページは表示されません。

(b) サーバとクライアントが同一イントラネットのパソコンのときに、プロキシが設定されているWebブラウザで、ページが表示されない場合

ネットワーク管理者に相談の上、サーバへのアクセスでプロキシを使用しないように、Webブラウザの設定^(*)を変更してください。

*1 Webブラウザの設定については、Webブラウザのマニュアルを参照してください。

(b-1) Microsoft® Internet Explorer Version 5の設定例

- ① Internet Explorerのメニューバーから[Tools]→[Internet Options]メニューを選択し、“Internet Options”ダイアログボックスを表示させます。
- ② “Connections”タブを表示し、**LAN Settings**ボタンをクリックして、“Local Area Network (LAN) Settings”ダイアログボックスを表示させます。
- ③ “Bypass proxy server for local addresses”にチェックし、**OK**ボタンをクリックして設定を終了します。

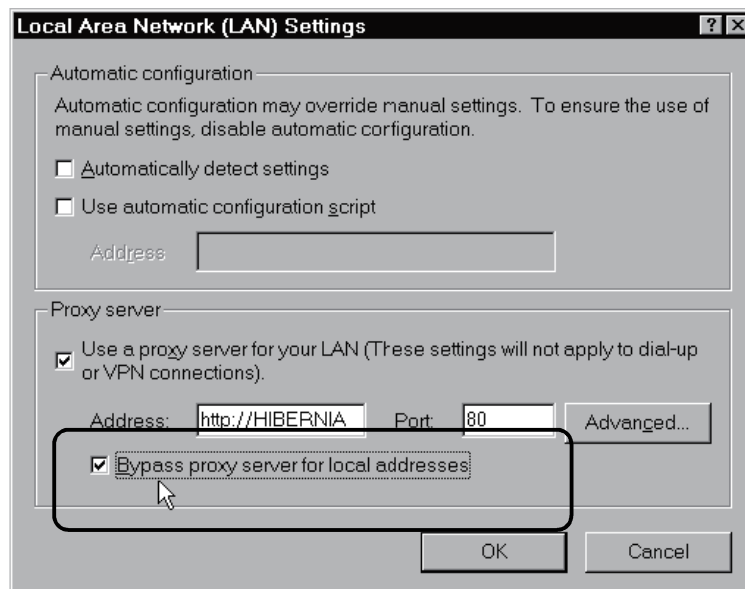


図11-2 Internet Explorer Version5 の設定例

- (c) 複数のWebブラウザを起動したときに、正常にページを表示できなくなった場合

ネットワーク管理者に相談の上、Webベースオンラインアクセス機能のサーバのCookieを受け入れるように設定^(*1)してください。

*1 Cookieの設定については、Webブラウザのマニュアルを参照してください。

(c-1) Microsoft® Internet Explorer Version 5の設定例

- ① Internet Explorerのメニューバーから[Tools]→[Internet Options]メニューを選択し、“Internet Options”ダイアログボックスを表示させます。
- ② “Security”タブを表示し、ボタンをクリックして、“Security Settings”ダイアログボックスを表示させます。
- ③ Cookieの設定項目までスクロールし、“Allow per-session cookies”を“Enable”または“Prompt”^(*1)に設定します。

*1 “Prompt”に設定した場合は、Webブラウザでページを表示させたときに、ダイアログボックスが表示されます。
このダイアログボックスで、Cookieを受け入れるように設定してください。

- ④ ボタンをクリックし、設定を終了します。

メ 毛

[illegible]

索引

【A】

A (1S) J71PB92Dの制約事項…………… 2- 1, 10- 2

【G】

GSDデバイスデータベース

GSDデバイスデータベースのインポート…………… 5-21

GSDデバイスデータベースの選択…………… 5-28

インポート可能ファイル…………… 5-23

画像の仕様…………… 5-23

使用するGSDデータの設定…………… 5-30

スレーブ局の画像変更…………… 5-19

スレーブ局の登録削除…………… 5-20

スレーブ局の登録追加…………… 5-19

スレーブデバイスグループの変更…………… 5-21

GX Configurator-ST…………… 5-42

【I】

I/O Mapping…………… 8- 1

【あ】

印刷

印刷…………… 5-14

ページ設定…………… 5-15

インストール手順…………… 2-16

エクスポート…………… 5- 9

【さ】

ステータスバー…………… 5-44

スレーブパラメータ…………… 6-17

Universalのユニット…………… 6-25

スレーブ局のユニット設定…………… 6-22

ユーザパラメータ…………… 6-27

ユーザパラメータの直接編集…………… 6-29

接続先設定…………… 9- 1

【た】

ツールバー…………… 5- 2

動作環境

GX Configurator-DP…………… 2- 3

Webベースオンラインアクセス機能…………… 10- 2

トラブルシューティング…………… 11- 1

【な】

泣き別れ防止機能

QJ71PB92□の設定…………… 6- 4

QJ71PB93Dの設定…………… 7- 2

【は】

バスパラメータ…………… 6-10

パラメータ

スレーブパラメータ…………… 6-17

バスパラメータ…………… 6-10

マスタパラメータ…………… 6- 4

ユーザパラメータ…………… 6-27

プロジェクトの書込み

スレーブユニット…………… 10-24

マスタユニット…………… 5-36, 10-16

プロジェクトの照合

マスタユニット…………… 5-37

プロジェクトファイルの互換性…………… 2-14

【ま】

マスターパラメータ…………… 6- 4

マスタユニットとCPUユニット間のデータ通信

Webベースオンラインアクセス機能で表示

…………… 10-21

通信バッファメモリとデバイスの設定

…………… 5-25, 7- 2

通信方法の設定…………… 5-25

自動リフレッシュ設定の更新

…………… 5-34, 10-16, 10-24

自動リフレッシュの有効／無効設定

…………… 6- 4, 7- 2

自動リフレッシュパラメータの削除…………… 10-15

自動リフレッシュパラメータの設定個数

…………… 5-26, 7- 3

他インテリジェント機能ユニットの設定

…………… 6- 7, 7- 4

メニューバー…………… 5- 1

【や】

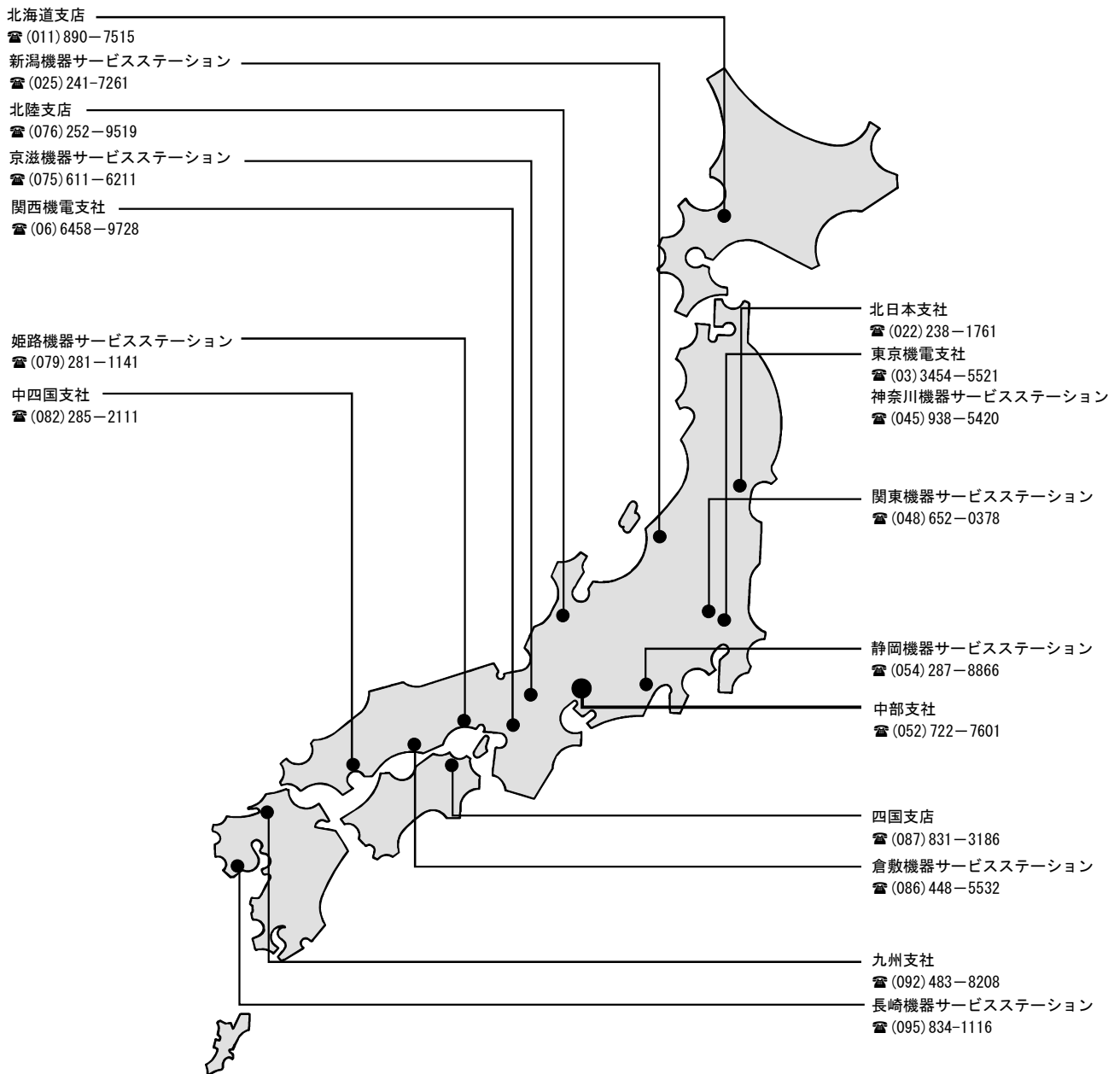
ユーザパラメータ…………… 6-27

メ 毛

[illegible]

索

サービスネットワーク（三菱電機システムサービス(株)）



Microsoft, Windows, WindowsNTは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Adobe, Acrobatは、Adobe Systems Incorporatedの登録商標です。

Pentium, Celeronは、Intel Corporationの米国およびその他の各国における商標および登録商標です。

Ethernetは、米国Xerox.co.ltdの登録商標です。

PC-9800, PC98-NXは、日本電気株式会社の登録商標です。

その他、本文中における会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

GX Configurator-DP Version 7

オペレーティングマニュアル



三菱電機株式会社

〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3(東京ビル)

お問い合わせは下記へどうぞ

本社機器営業部	〒100-8310	東京都千代田区丸の内2-7-3(東京ビル)	(03)3218-6760
北海道支社	〒060-8693	札幌市中央区北二条西4-1(北海道ビル)	(011)212-3794
東北支社	〒980-0011	仙台市青葉区上杉1-17-7(仙台上杉ビル)	(022)216-4546
関東支社	〒330-6034	さいたま市中央区新都心11番地2(明治安田生命さいたま新都心ビルランド・アクセス・タワー34F)	(048)600-5835
新潟支店	〒950-8504	新潟市東大通2-4-10(日本生命ビル)	(025)241-7227
神奈川支社	〒220-8118	横浜市西区みなとみらい12-2-1(横浜ランドマークタワー)	(045)224-2624
北陸支社	〒920-0031	金沢市広岡3-1-1(金沢パークビル)	(076)233-5502
中部支社	〒450-8522	名古屋市中村区名駅3-28-12(大名古屋ビル)	(052)665-3314
豊田支店	〒471-0034	豊田市小坂本町1-5-10(矢作豊田ビル)	(0565)34-4112
関西支社	〒530-8206	大阪市北区堂島2-2-2(近鉄堂島ビル)	(06)6347-2771
中国支社	〒730-8657	広島市中区中島町3-25(ニッセイ平和公園ビル)	(082)248-5445
四国支社	〒760-8654	高松市寿町1-1-8(日本生命高松駅前ビル)	(087)825-0055
九州支社	〒810-8686	福岡市中央区天神2-12-1(天神ビル)	(092)721-2247

インターネットによる三菱電機FA機器技術情報サービス

MELFANSwebホームページ: <http://www.MitsubishiElectric.co.jp/melfansweb>

MELFANSwebのFAランドでは、体験版ソフトウェアやソフトウェアアップデートのダウンロードサービス、MELSECシリーズのオンラインマニュアル、Q&Aサービス等がご利用いただけます。FAランドのID登録(無料)が必要です。

電話技術相談窓口

対 象 機 種		電 話 番 号	受 付 時 間 ¹	
MELSEC-Q/QnA/A シーケンサ	シーケンサ一般(下記以外)	052-711-5111	月曜～金曜	9:00～19:00
	ネットワーク、シリアルコミュニケーションユニット	052-712-2578		
	位置決めユニット ²	052-712-6607		
	アナログ、温調、温度入力、高速カウンタユニット	052-712-2579		
	C言語コントローラ/MESインタフェースユニット	052-712-2370	月曜～木曜 金曜	9:00～19:00 9:00～17:00
MELSOFTシーケンサ プログラミングツール	MELSOFT GXシリーズ SW IVD-GPPA/GPPQなど	052-711-0037	月曜～金曜	9:00～19:00
MELSOFT通信支援 ソフトウェアツール	MELSOFT MXシリーズ SW D5F-CSKP/OLEX/XMOPなど	052-712-2370	月曜～木曜 金曜	9:00～19:00 9:00～17:00
MELSECパソコンボード	Q80BDシリーズなど			
MELSEC計装/Q二重化	プロセスCPU(Q12/Q25PHCPU)	052-712-2830		
	二重化CPU(Q12/Q25PRHCPU)			
	MELSOFT PXシリーズ			
GOT表示器	GOT1000/A900シリーズなど	052-712-2417	月曜～金曜	9:00～19:00
	MELSOFT GTシリーズ			

FAX技術相談窓口

対 象 機 種	F A X 番 号	受 付 時 間 ¹
上記対象機種	052-719-6762	9:00～16:00(受信は常時 ³)

- 1: 土・日・祝祭日、春期・夏期・年末年始の休日を除く通常業務日
- 2: ACサーボ、モーション窓口にて対応します
- 3: 春期・夏期・年末年始の休日を除く

形名	SW7D5C-PROFID-E-O-J
形名 コード	13JV85
SH(名)-080580-C(0608)MEE	

本マニュアルは、輸出する場合、経済産業省への役務取引許可申請は不要です。